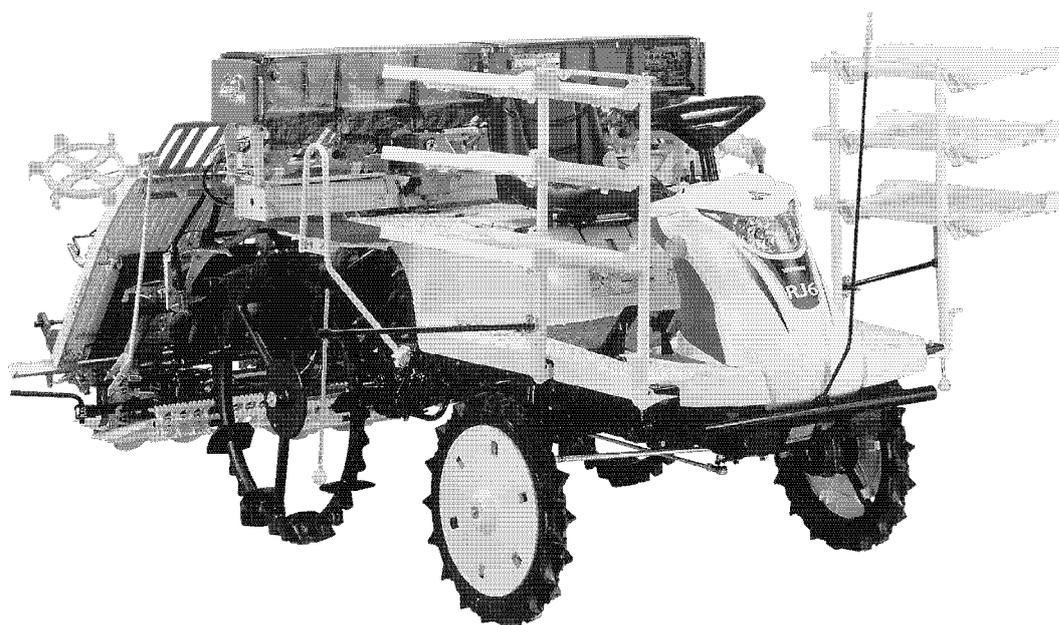


ヤンマー乗用田植機



**RJ4
RJ5
RJ6**

このたびは、お買い上げ
まことにありがとうございます。

 当製品を安全に、また正しくお使いいただくため
に必ず本取扱説明書をお読みください。誤った
使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、**ヤンマー兼用田植機**をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前にこの取扱説明書を良くお読み頂き、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後もこの取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときはこの取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。

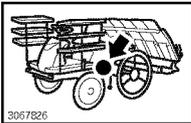
おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどに載せて運搬してください。

※積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。

説明記号の見方

- | | |
|---|---|
|  危険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |
| [重要] | 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。 |
| [参考] | 作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。 |
|  | 説明箇所の位置と、見ている方向を示します。
●印:位置 ➡印:見ている方向 |

本製品の使用目的について

本製品は、稲の苗をほ場(水田)に移植する作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などはしないでください。
また、すこやかロータ仕様では、田植え作業時の旋回などで荒れた枕地の整地を行うこともできます。使用目的以外の作業や改造などはしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ、取り扱いなど、お間違えのないようをお願いいたします。

X : 前輪幅広ノーパンクタイヤ仕様

G : 後輪太リムゴムラグタイヤ仕様

U : 植付部自動水平制御装置(ナイスティUFO)

Z : すこやかロータ仕様

F : 粒状施肥機仕様

L : ペースト施肥機仕様

※ パワーステアリングは全仕様、標準装備しています。

目次

はじめに.....	1	7章 運転のしかた.....	39
1章 安全な作業をするために 必ずお守りください	6	1. ドライバーシート位置の調節のしかた.....	39
1. 運転(作業)する人について.....	6	2. エンジンの始動のしかた.....	39
2. 運転(作業)する田植機について.....	6	3. 暖機運転のしかた.....	41
3. 運転するときの注意事項.....	7	4. エンジンの停止のしかた.....	42
4. 坂道の移動やほ場への出入りを するときの注意事項.....	8	5. 発進・速度調節のしかた.....	42
5. トラックで運搬するときの注意事項.....	9	6. 主変速の操作のしかた.....	43
6. 作業するときの注意事項.....	10	7. 旋回のしかた.....	44
7. 格納するときの注意事項.....	10	8. 停止のしかた.....	44
8. 点検・給油・整備するときの注意事項.....	11	9. 駐車のみ.....	45
9. 安全銘板の貼り付け位置.....	13	10. 移動走行のしかた.....	45
10. 安全銘板の手入れについて.....	14	11. トラックでの運搬のしかた.....	48
		12. フロントハンドルの使いかた (RJ4のみ).....	51
2章 サービスと保証について	15	8章 植付作業のしかた	53
保証書は大切に保管してください.....	15	1. ほ場に入る前の準備.....	53
アフターサービスをお受けになるときは.....	15	2. ほ場への出入り.....	56
3章 田植機に適した苗とほ場について	16	3. ほ場に入ってから準備.....	57
1. 苗について.....	16	4. 植付作業のしかた.....	58
2. ほ場について.....	17	5. 苗・ほ場・作業条件に合わせた調節のしかた.....	67
4章 各部のなまえ	18	6. ナイスティUFO装置の基本的な使いかた (U仕様のみ).....	71
1. 外観.....	18	7. 機体が沈下したときの脱出のしかた.....	72
2. 運転操作部.....	20	9章 作業後の手入れと格納について...	74
5章 各操作部のはたらき	21	1. 機体の洗浄のしかた.....	74
エンジン関係.....	21	2. ボンネットの取り外し・取り付けかた.....	76
作業・操作関係.....	23	3. フロアの取り外し・取り付けかた.....	77
植付部関係.....	28	4. 各部の注油・グリス塗布箇所.....	78
すこやかロータ関係 (Z仕様).....	30	5. 格納のしかた.....	84
ナイスティUFO関係 (U仕様).....	31		
苗のせ台関係.....	32		
その他の装置関係.....	34		
6章 運転前の準備	37		
1. 運転前の点検.....	37		

10章 点検・整備のしかた	85	12章 その他	124
1. 定期点検・整備の時期について.....	85	1. 主要諸元.....	124
2. 定期点検・整備一覧表.....	85	2. 主要消耗部品.....	127
3. 給油・グリース一覧表.....	87	3. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表.....	130
4. 燃料の点検・補給のしかた.....	88	4. その他の販売品.....	131
5. 燃料の抜きかた.....	89	5. 横送り回数・縦取り量のセットのしかた.....	132
6. オイルの点検・補給・交換のしかた.....	90		
7. エアクリーナーエレメントの掃除のしかた.....	94		
8. 燃料コックの掃除のしかた.....	95		
9. ミッションオイルフィルタの交換のしかた.....	96		
10. ナイスティUFO装置の作動確認のしかた (U仕様のみ).....	96		
11. 植付部の点検・調節のしかた.....	98		
12. バッテリーの点検・整備のしかた.....	102		
13. ヒューズの点検・交換のしかた.....	104		
14. 燃料パイプの点検のしかた.....	106		
15. 電気配線の点検のしかた.....	106		
16. 点火プラグの交換のしかた.....	107		
17. すこやかロータ安全ピンの交換のしかた (Z仕様のみ).....	107		
18. タイヤの点検について.....	108		
11章 不調診断のしかた	109		
1. 欠株が出る.....	109		
2. 浮苗になる(苗ブロックごと浮く).....	112		
3. 浮苗になる(1本苗が浮いている).....	114		
4. 浮苗になる(葉だけが浮いている (根切れ苗)).....	115		
5. 植付けがバラける.....	117		
6. 苗が持ち上がる.....	118		
7. 苗が前進方向(前傾)に植付けられる.....	119		
8. フロートで泥を押す.....	120		
9. すこやかロータ関連(Z仕様のみ).....	121		
10. UFO装置が正常に作動しない(U仕様のみ) (ブザー停止・警報表示スイッチが 点滅している).....	122		

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む損害や事故、機械の破損が生じる場合があります。

1. 運転(作業)する人について

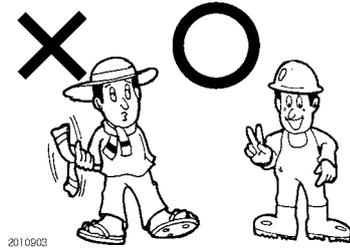
警告

- 本機の取扱説明書と機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから運転してください。
 - ・運転に際しては、本書の安全に関する記載事項以外にも細心の注意を払って運転してください。
 - 取扱説明書および機械に貼ってある安全銘板の内容が理解できない人や子供には、絶対に運転させないでください。
 - 体調が悪いとき、運転が未熟な人は、田植機の運転をしないでください。
 - ・過労、病気、薬物、その他の影響により、運転に集中できない人。
 - ・お酒を飲んでいる人。
 - ・妊娠中の人。
 - ・睡眠不足の人。
 - ・18才未満の人。
- は、田植機の運転をしないでください。



- 運転者および補助者は、運転(作業)に適した服装をしてください。
 - ・だぶつきのない服を着用し、そで口はきっちり止めてください。だぶつきのある服では、機械に巻き込まれたり、操縦装置に引っ掛かって事故の原因になります。
 - ・滑り止めの付いた靴(安全靴など)を着用してください。滑り止めが付いていないと、滑って転倒するおそれがあります。

- ・ヘルメットを着用してください。
- ・はち巻き、首巻き、腰タオルをしないでください。タオルが機械に巻き込まれて事故の原因になります。



注意

- 田植機を他人に貸すとき、または運転させるときは、事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読ませてください。



2. 運転(作業)する田植機について

注意

- 田植機を使用する前には、必ず運転前(作業前)点検を行い、異常な箇所は整備してください。整備不良の田植機を使用しますと、事故や故障の原因になります。
 - ・紛失したり損傷した部品は交換してください。
 - ・ブレーキ・ステアリングハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損している部品があれば交換してください。
 - ・ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。
 - ・配線コードが他の部品に接触して、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- 田植機は常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部に、ゴミや燃料の付着があると火災の原因になります。
- 田植機を改造しないでください。田植機の安全性がそこなわれ、人身事故につながるおそれがあります。また、性能や機能の低下、寿命の低下の原因になります。

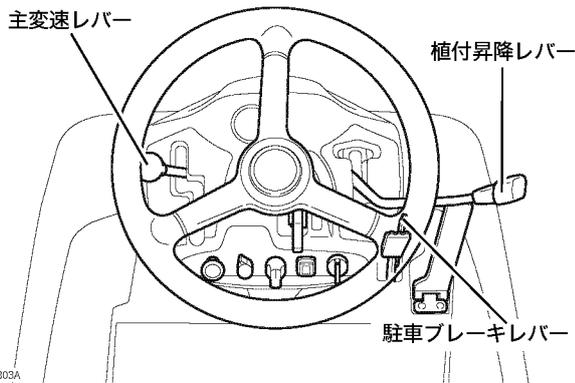
3. 運転するときの注意事項

警告

- エアクリーナーのエLEMENTのふた(カバー)は、必ず取り付けてから始動・運転してください。逆火により炎が噴き出すおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときは、必ずドライバーシートに座り、駐車ブレーキが掛かっている、主変速レバーが「N」(中立)位置、植付昇降レバーが「N」(中立)位置にあるか確認してください。田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。
 - ・ 地上に立った状態でエンジンの始動をすると、万一田植機が動き出したとき、事故回避の動作ができません。



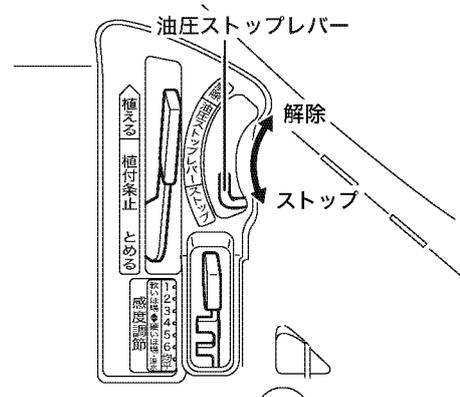
警告

- エンジンの排ガスは有害です。倉庫や車庫などでエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気をじゅうぶんに行ってください。
 - ・ 閉めきった屋内や、換気が不十分な状態でエンジンを始動すると、排ガスによる中毒を起こし、死亡にいたるおそれがあります。
 - ・ エンジンの始動は、風通しの良い屋外で行ってください。



注意

- 発進する前に、レバー位置や田植機が走行姿勢になっているか必ず確認してください。
 - ・ サイドマーカと風車マーカは収納状態、苗のせ台は機体中央にしてください。周囲の障害物との接触事故の原因になります。
 - ・ 植付部を上げて、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。走行中に植付部が下がって、傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。



- 田植機の始動や発進をするときは、周囲の安全を確認してから行ってください。
 - ・ 始動や発進をするときは、周囲の人に合図してから行ってください。
 - ・ 発進するときは、周囲に人や障害物が無いか確認して、変速ペダルを徐々に踏み込んで、ゆっくり発進してください。機械の陰の人、特に子供に注意してください。
 - ・ 停止時は、必ず主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキをかけてください。

警告

- この田植機は公道を走れません。
 - ・ この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。
 - ※ 積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。
 - ・ 路上を車のように長距離走ると、ミッション内部のギヤが焼きつくおそれもあります。

警告

- 周囲の障害物に接触しないように、ゆっくり運転してください。特に、苗のせ台の接触には注意してください。
 - ・ わき見運転、手ばなし運転は絶対にしないでください。気のゆるみが重大事故につながります。
 - ・ 初めて運転される方は、操作になれるまで低速で運転してください。
- 急発進、急停止、急旋回は絶対にしないでください。転倒・転落・追突事故の原因になります。
 - ・ カーブ・曲がり角・凸凹道・坂道では速度を落とし、ゆっくり走行・旋回してください。
- この田植機の乗車定員は1名です。運転者以外の人をのせないでください。
 - ・ 予備苗のせ台の上に、荷物などを載せて走行しないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
 - ・ 路肩のくずれにも十分注意してください。
 - ・ 草の繁った場所で路肩が分からないときや、水たまりで窪地が隠れているおそれがあるときなど、危険と思われる場所では、田植機から降りて確認してください。このとき、必ずエンジンを止めてください。
 - ・ 対向車を避けるときは、無理に路肩いっぱいまで寄らないでください。一旦停止して、対向車をやりすごしてください。



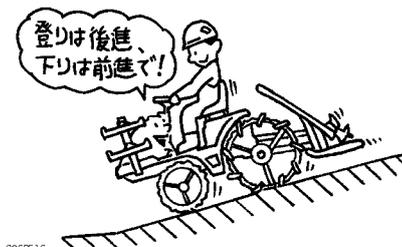
4. 坂道の移動やほ場への出入りをするときの注意事項

警告

- 坂道を移動するときは、下記の注意を守り、安全に走行してください。
 - ・ 急発進・急停止は絶対にしないでください。転倒のおそれがあります。
 - ・ 坂道では、必ず速度を落として、ゆっくり走行してください。
 - ・ 坂道では、変速操作をしないでください。主変速レバーを操作すると、田植機が急に下がって、暴走するおそれがあります。



- ・ 危険回避などのために、坂の途中で変速する必要があるときは、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏み込み、その後主変速レバーで変速してください。
- ・ 危険回避などのために、坂の途中で緊急に田植機を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏み込んでください。
- ・ 坂道を横向きや斜めに走行しないでください。田植機が大きく傾き、転倒するおそれがあります。
- ・ 坂道では大きくハンドルを切らないでください。ハンドルを切った方の後輪のサイドクラッチが切れ、機械が動き出し、転倒するおそれがあります。
- ・ ほ場の出入りなど坂道が急な場合は、最低速にして、後進で登ってください。前進で登ると前が浮き上がり、転倒するおそれがあります。



警告

- あぜや溝を越えるときは、植付部を下げ、最低速にしてデフロックを踏み込み、あぜに対して直角にゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に、植付部を上げてください。

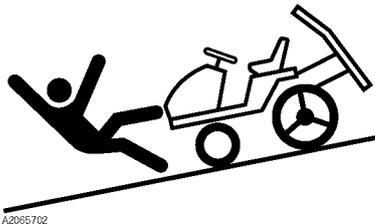


- 高低差の大きい急斜面の登り降り、あぜ越え、段差の乗り越えをするときは、アユミ板を使用してください。

アユミ板の基準

長さ	車の荷台の高さの4倍以上
幅	30cm以上
強度	1枚が500kgに十分耐えられるもの
表面	すべらないように処理してあること

- ・ アユミ板を登り始める前に、デフロックペダルを踏むことを忘れないでください。
- ・ アユミ板を設置するときは、あぜや溝に対して田植機を直角に止め、2枚のアユミ板が田植機の両輪に合い、平行になっているか確認してください。
- 機械から離れるときは、平坦で安定した場所に止めて、主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
 - ・ やむを得ず傾斜地に止める場合は、主変速レバーを「前進」または「後進」位置、植付部を地面に降ろし、駐車ブレーキをかけて、必ず車輪止めをしてください。守らないと、田植機が動き出し、暴走するおそれがあります。



- ・ 田植機から離れるときは、必ずキーを抜いてください。

警告

- 一旦停止時の注意
 - ・ 一旦停止するときは、必ず主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキをかけて止めてください。

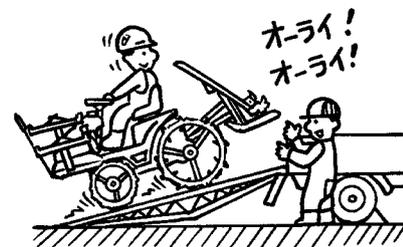
5. トラックで運搬するときの注意事項

警告

- 田植機の積み・降ろしは、平坦で安定した場所で行ってください。
 - ・ トラックは、エンジンを止め、ギヤを「P」か「1速」または「R」に入れ、動かないようにサイドブレーキを掛け、車輪止めをしてください。
- トラックに積み込むときは後進、降ろすときは前進、車速は最低速で行ってください。アユミ板を前進で登ると前が浮き上がり、転倒するおそれがあります。
 - ・ 田植機の手前がアユミ板の中央にあることを確認しながら、脱輪に注意して行ってください。
 - ・ 積み込むときは、デフロックペダルを踏み込んでください。
 - ・ アユミ板は、トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているものを使用してください。

注意

- 積み・降ろし作業は、誘導者を付け、周囲の安全を確認しながら行ってください。
 - ・ 誘導者は、田植機の直前・直後には絶対に立たないでください。



2063509

警告

- アユミ板の上では、変速操作をしないでください。
 - ・ アユミ板の上で主変速レバーを操作すると、田植機が急に下って、暴走するおそれがあります。
 - ・ 危険回避などのために、積み・降ろしの途中で変速したいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏み込み、その後主変速レバーで変速してください。
 - ・ 危険回避などのために、積み・降ろしの途中で緊急に田植機を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏み込んでください。
 - ・ 積み・降ろしの途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み、エンジンを再始動してください。
- アユミ板の上では、ハンドルを大きく切らないでください。
 - ・ ハンドルを切った方の後輪のサイドクラッチが切れ、機械が動き出し、転倒するおそれがあります。
- トラックに積み込んだ田植機は、主変速レバーを「前進」または「後進」位置にして、駐車ブレーキを掛け、十分な強度のあるロープでトラックに固定してください。固定が不十分ですと、田植機が荷台から落下するおそれがあります。
 - ・ 苗のせ台や予備苗のせ台などにのせてある物は、必ず降ろしてください。落下事故の原因になります。
 - ・ サイドマーカと風車マーカは収納状態、苗のせ台は機体中央にしてください。周囲の障害物との接触事故の原因になります。

6. 作業するときの注意事項

警告

- 苗を補給するときは、アクセルレバーでエンジン回転を下げ、主変速レバーを「N」（中立）位置にして、駐車ブレーキをかけて機体を停止させてください。

警告

- 作業中は、回転部分、作動部分、高温部分に触れないように注意してください。機械に巻き込まれたり、ヤケドをするおそれがあります。



- 植付爪などに異物が噛み込んだときは、エンジンを停止し、各部の作動が完全に止まっていることを確認してから取り除いてください。不意に機械が動いて、巻き込まれるおそれがあります。

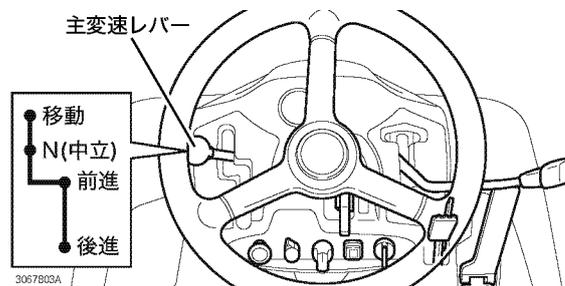
注意

- あぜぎわで旋回するときは、あぜの周囲の人や物に十分注意してください。
- 作業中は、ほ場に作業員以外の人を入れたり、田植機に人を近づけないようにしてください。特に、子供には十分注意してください。
- 人や物を、ウエイト代わりにのせないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。夜間は、周囲の状況がわかりにくく、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

7. 格納するときの注意事項

注意

- 長期格納するときは、平坦で安定した場所に田植機を止め、主変速レバーを「N」（中立）位置にし、植付部を地面に降ろして、駐車ブレーキをかけ、必ず車輪止めをしてください。



- ・ バッテリーを外してください。
- ・ 1か月以上格納するときは、燃料タンクや気化器のガソリンを抜き取ってください。
- ・ 燃えやすい物のそばに田植機を置かないでください。物に引火して、火災を起すおそれがあります。

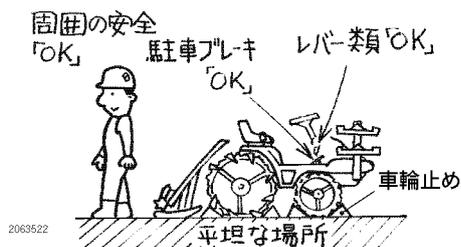
警告

- 田植機にシートを掛けるときは、エンジンなど過熱部分がじゅうぶん冷えてから行ってください。過熱した状態でシートを掛けると、シートが引火して、火災を起こすおそれがあります。

8. 点検・給油・整備するときの注意事項

警告

- 点検・給油・整備・修理をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に田植機を駐車させ、エンジンを停止してください。
 - ・ 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にし、駐車ブレーキを掛けてください。
 - ・ 停止するときは、主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。



- 植付部を上げて植付爪などの点検・整備をするときは、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にし、台などで植付部を支えて、落下を防止してください。
- 植付爪を点検・調節するときは、植付爪の先などでケガをしないように、十分注意して行ってください。

注意

- 点検・給油・整備・修理作業中は、田植機の周囲に人を近づけないでください。特に、子供には十分注意してください。見えないところで機械を触ったり、かくれたりしてたいへん危険です。
- 田植機の点検・整備などで取り外したカバー類は、元通りに取り付けてください。取り外した状態で運転しますと、機械に巻き込まれるおそれがあります。



A2065704

危険

- 補給する燃料は、法で定められたタンクを使用し、法で定められた容量を守って搬送する
 - ・ タンクの使用方法や容量を守らないと、燃料に引火して火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
 - ・ 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。燃料に引火して、火災のおそれがあります。



A2065705

警告

- エアクリーナーのエLEMENTのふた（カバー）は、必ず取り付けてから始動・運転してください。逆火により炎が噴き出すおそれがあります。

注意

- マフラーやエンジンなどの過熱部分が、じゅうぶん冷えてから点検・給油・整備を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- マフラーおよび連結パイプの点検を行ってください。
 - ・ 作業前には、マフラーおよび連結パイプの亀裂・腐食などの異常の有無や、マフラーおよび連結パイプカバー内の高温部に、ゴミなどの堆積や付着がないことを確認してください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料パイプやオイルドレンホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。ゴムホース類は時間が経過すると劣化します。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠ 危険

■ バッテリーの点検・整備をするときは、下記の注意を守り、安全に作業してください。

- ・ バッテリー液は「下限 (LOWER)」以下にしないでください。「下限 (LOWER)」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

※ バッテリー液は、「上限」と「下限」の間にあることを、必ず確認してください。

- ・ バッテリーの点検や液槽キャップを開けるときは、火気を近づけないでください。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ています。守らないと、ガスに引火して、ヤケドや火災を起こすおそれがあります。



⚠ 警告

■ バッテリーの点検・整備をするときは、下記の注意を守り、安全に作業してください。

- ・ バッテリーを、取り外すときは「-」側のケーブルから取り外し、取り付けるときは「+」側のケーブルを「+」側の端子に取り付けてください。守らないと、ショートによるヤケドや火災の原因になります。

- ・ バッテリーを取り扱うときは、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発するおそれがあります。



- ・ バッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- ・ バッテリーの充電や交換をするときは、バッテリーに貼られた注意ラベルをよく読んでから作業してください。
- ・ バッテリーの充電は、田植機から取り外して行ってください。また、気密状態で充電をすると、破裂するおそれがあり危険です。

- ・ バッテリー液は希硫酸です。取り扱いには十分に注意してください。

目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

飲み込んだときは、すぐに多量の飲料水を飲み、医師の治療を受けてください。

皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんで硫酸分を洗い流してください。

守らないと、失明やヤケドのおそれがあります。

- ・ バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された容量のバッテリーを使用してください。

守らないと、ショートによるヤケドや火災の原因になります。

⚠ 注意

■ ホイルディスク・車軸・車輪の点検を行ってください。

- ・ ホイルディスクの取付部にゆるみがないか確認してください。ゆるんでいる場合は、ボルト・ナットを固定してください。ゆるんでいると、傷害事故を起こす原因になります。

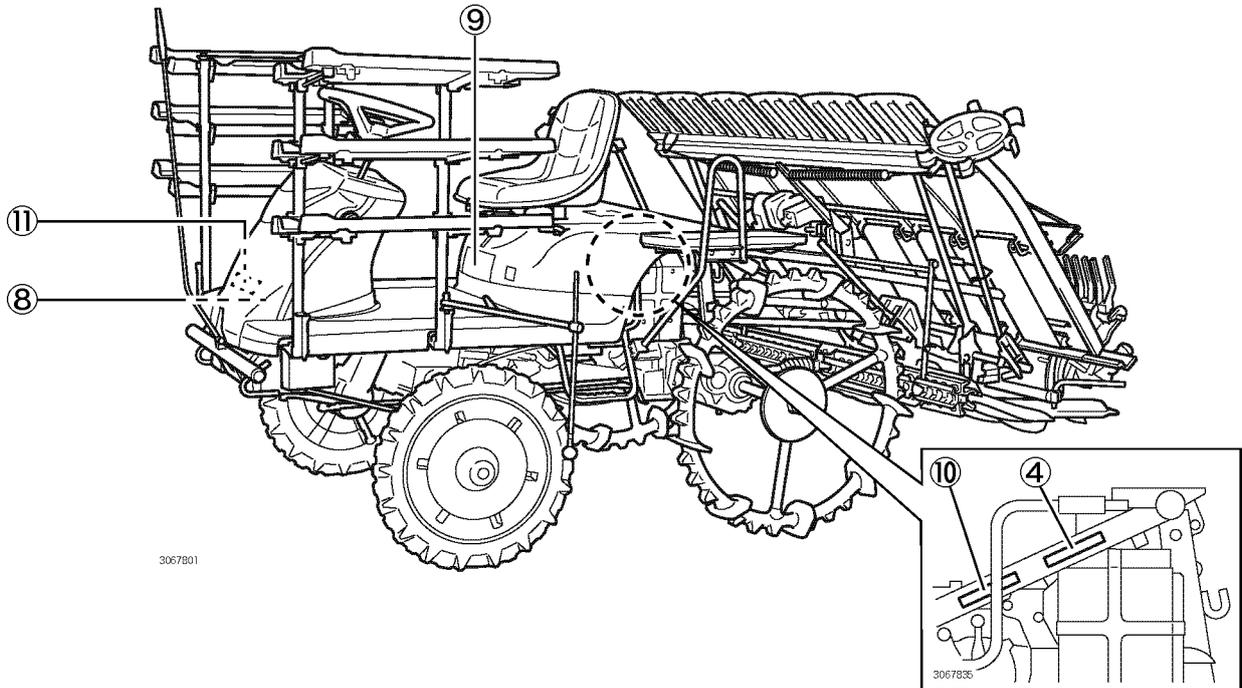
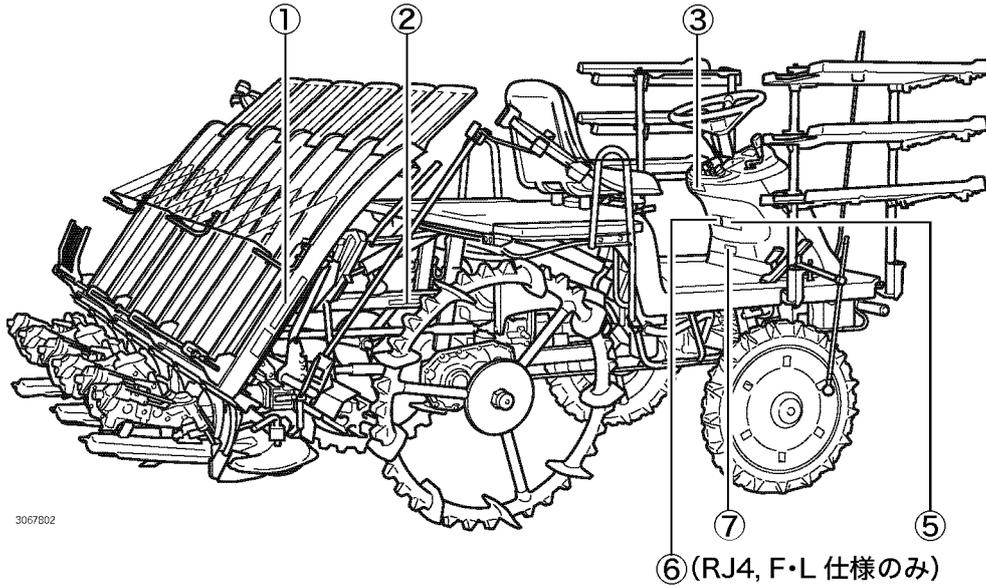
- ・ ホイルディスクや車軸・車輪 (ゴム部) に亀裂・ヒビ割れなどの異常がないか確認してください。亀裂があると、傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。

9. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板は常に破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

※図は、RJ6をモデルにしています。



①1C6292-98721 警告(植付部)

警告		● 植付部を点検、調整するときには必ずエンジン停止してください。
		● ケガをするおそれがあります。

1C6292-98721

②1C6650-95420 警告(回転軸)

警告		● 回転軸にさわらないでください。
		● さわるとケガをするおそれがあります。

1C6650-95420

③1C6700-85671 注意(カバー)

注意		● カバー類は常に装着してください。
		● はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。

1C6700-85671

④1E5120-86720 注意(マフラー)

注意		マフラー高温注意
		さわるとやけどをするおそれがあります。

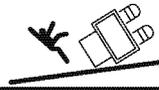
1E5120-86720

⑤1C7200-95261 警告・注意(操作)

警告	注意	警報ブザー音の種類								
<ul style="list-style-type: none"> ●機械前方のフロントハンドルを使用するときは、周囲に十分なスペースを確保してください。 ●まもらないと転倒などおもわぬケガをするおそれがあります。(フロントハンドル装着機のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●植付部を点検、調整をするときは、油圧ストップレバーを「ストップ」にしてから行ってください。 ●植付部が急に下がりケガをするおそれがあります。 									
		<table border="1"> <tr> <th>ブザー音の間隔</th> <th>警報の種類</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">— — —</td> <td>苗つぎ警報</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●●●●●●●●</td> <td>肥料補給警報</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">— — — — —</td> <td>肥料詰まり警報</td> </tr> </table>	ブザー音の間隔	警報の種類	— — —	苗つぎ警報	●●●●●●●●	肥料補給警報	— — — — —	肥料詰まり警報
ブザー音の間隔	警報の種類									
— — —	苗つぎ警報									
●●●●●●●●	肥料補給警報									
— — — — —	肥料詰まり警報									
		取扱要領 植付条止レバーの操作は、植付アームの回転を低速にしておこなってください。								

⑥1C7200-95870 警告(傾斜)

警告



- 傾斜作業(走行)時に警報が鳴った時は、それ以上機体を傾けないでください。
- 転倒する恐れがあります。

1C7200-95870

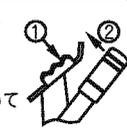
※RJ4F(粒状施肥機仕様)
RJ4L(ペースト施肥機仕様)
のみ貼り付けています。

⑦1C7200-95281 警告(駐車ブレーキ)

駐車ブレーキ

①ブレーキペダルを踏んで

②レバーを手前に引いてロックします。



警告

- 席を離れるときは駐車ブレーキをロックしてください。
- 機械が意図せず動くおそれがあります。

⑧1C6780-95950 危険(バッテリー)








火気禁止 メガネ着用 こども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意

危険

- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブラスターケーブルの使用は取扱説明書に従う
- バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
- 液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
- 爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない
- 液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない

公称電圧 12V

STCL121A

⑨1C7100-95451 安全銘板(統合)

危険	 火気厳禁	<ul style="list-style-type: none"> ●給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。 ●給油中は、エンジンを停止してください。
警告		<p style="text-align: center;">排ガスに注意</p> 室内および換気の悪い場所での運転は、排ガスが充満し、人体に有害です。
注意	 	<p style="text-align: center;">点検時エンジン停止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●点検整備をするときは、かならずエンジンを停止してください。 ●ケガをするおそれがあります。 <p style="text-align: center;">取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エンジン始動時は、かならずブレーキペダルをいっぱいふみ込んでください。

注意

運搬、移動時の注意

移動走行

- 公道を走らないでください。小型 特殊自動車の認定を受けておりません。移動するときは次の注意をまもってください。
- マーカー類を収納してください。
- 植付部を最上げにして、油圧ストップレバーを『ストップ』位置にしてください。
- ハンドル右側の植付操作レバーを『油圧中立』位置にしてください。
- できるだけ低速で走行し、急ハンドル、急ブレーキはぜったいにさけてください。

積降ろし・あぜ越え

- 積降ろし、あぜ越え時には主変速レバーをぜったいに『苗つぎ』『中立』位置にしないでください。(エンジンブレーキが効かなくなり、急に動きだして危険です。)
- 『苗つぎ』位置のない機械もあります。
- 本機をまっすぐにして、上り坂は後進で、下り坂は前進で、速度は低速にしてゆっくりと行ってください。
- 途中で変速するときは、かならずブレーキペダルをふんでください。
- 凹凸の少ない所を選んで、アユミ板等を使用してください。

1C7100-95451

⑩1C7070-97820 警告(ベルト)

警告



- 運転中はぜったいにベルトに触れないでください。
- ケガをするおそれがあります。

1C7070-97820

⑪1C7230-95450 危険(バッテリー)

危険

- この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
- 充電は風通しのよいところでを行い、ショートやスパークをさせないでください。
- バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
- 充電時火気厳禁。
- 急速充電厳禁。

1C7230-95450

※ボンネット前の裏側に貼り付けています。

10.安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げの特販店、またはJAに注文してください。

2章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

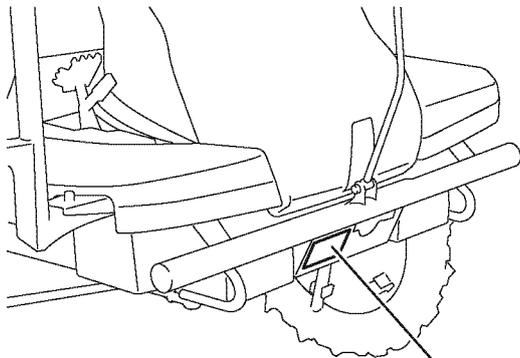
「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときは、109ページの「12章 不調診断のしかた」に従って点検・処置してください。それでも不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

《連絡していただきたい内容》

- 販売型式名と製造番号
- ご使用状況は？
(車速・作業内容)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



3057827

販売型式名と製造番号

《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させて頂く場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給の要望があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

《メーカー純正部品・オイルについて》

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心してご使用いただけます。部品・オイルを交換する際は、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



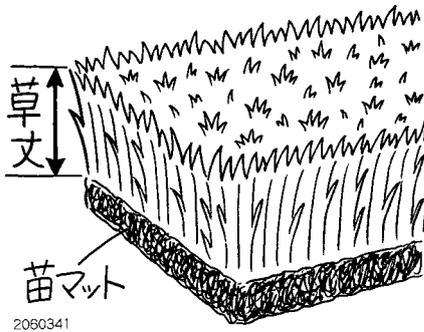
2034455

3章 田植機に適した苗とほ場について

苗・ほ場の条件が田植機に適していないと、植付作業後の生育に支障をきたすことがあります。以下の条件をよくご理解いただき、田植機に適した苗やほ場を準備してください。

1. 苗について

苗は、下表に示す条件のものが田植機に適しています。



このような苗を作るには、床土の状態、育苗のしかた、苗マットの状態が大切です。

項目	単位	適応・性能	
育苗方式		箱および枠育苗	
苗の種類		稚苗	中苗
葉令	葉	2.0~2.5	2.5~4.0
草丈	cm	10~15	15~25
苗マット寸法	cm	縦:58×横:28×厚さ:2~3	

床土について

水稻育苗に適した土を使用してください。

床土として使用される土（泥）は、必ずコシ器またはフルイをかけたものをご使用ください。もし、守らないと、異物により、植付作業中に何度も機械を止めて取り除かなければならず、能率的な作業ができません。また、最悪の場合は機械を破損することがあります。なお、詳しくは、普及センターなどに相談してください。

苗マットについて

苗マットは、植付作業前にかん水して、育苗箱から取り出したときに、しずくがたれない程度の水分にしてください。

苗マットが乾きすぎると、苗マットのすべりが悪くなり欠株などの原因になります。

湿りすぎると、苗マットがくずれやすくなって、浮き苗などが発生しやすくなります。

苗の状態と植付時に発生が予想される不具合

苗の状態が悪いと、下表のような不具合が発生する場合があります。

予想される不具合

苗の状態	発生不具合
播種ムラ・発芽ムラがある	● 1株本数が極端にバラツクか欠株がでる
軟弱徒長・老化苗	● 1株本数が極端にバラツクか欠株がでる ● 苗いたみが激しく、植付姿勢も乱れる
苗マットの厚さが厚い、または薄い (適正苗マット厚さは約2~3cmです)	● 1株本数が極端にバラツクか欠株がでる ● 植付姿勢が乱れる ● 苗マットがくずれる(苗マットが薄い) ● 苗切れや根切れが発生する
苗マットの根張りが悪くくずれやすい	● 1株本数が極端にバラツクか欠株がでる ● 浮苗が出たり、植付姿勢が乱れる ● 苗切れや根切れが発生する
苗マットの根が張りすぎている	● 1株本数が極端にバラツクか欠株がでる ● 苗の取り残しがでる ● 苗マットの減量が条ごとに大きく異なる
種籾からまっすぐ葉が伸びていない苗	● 切れ苗が発生する ● 浮き苗が発生する

2. ほ場について

耕盤が一定、均平に代かき、表面は適正な硬さ、水深は1～2cm程度（枕地整地をする場合は1cm程度）のほ場が、田植機に適しています。

このようなほ場を準備するためには、荒起しや代かき、水の管理などが大切です。

荒起し

荒起しは、できるだけ耕盤が一定になるようにし、ワラや稲株が多い場合は、できるだけ取り除くか、すき込んでください。

ワラや稲株が多いと、植付作業時に、浮き苗の発生や植付姿勢の乱れ、苗いたみの原因になり、スムーズな植付作業が行えない場合があります。

代かき

代かきは、表面の凹凸がないように、均平にしてください。

代かきが荒く、表面にワラクズや土塊が多いと、植付深さがバラついたり、植付姿勢が乱れたりして、後の生育にも影響する場合があります。

また、代かきは、あまり過度にならないようにしてください。土をねりすぎますと、スムーズな植付けができないことがあります。

植付日を基準にした代かき日の目安

土 性	代かき日
砂土	当日、または前日に代かき
砂壤土	2～3日前に代かき
壤土・埴壤土 (標準の水田)	4～5日前に代かき
埴土(粘土)	5～6日前に代かき
火山灰土	6～7日前に代かき

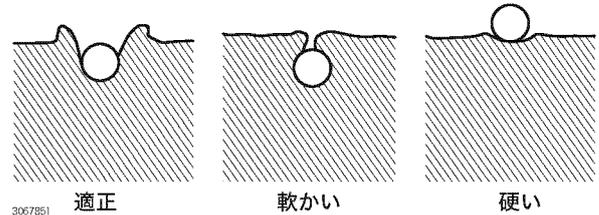
※代かきの日の目安は、天候や地域によって若干異なります。

ほ場表面の硬さ

植付けに最適なほ場表面の硬さは、ゴルフボール大の土塊を、ほ場表面より1mの高さから落としたときに、下図の「適正」な状態になります。

硬すぎると、苗が確実に植付けられずに、浮き苗やころび苗の原因になります。

軟らかすぎると、植付姿勢が乱れたり、作業中の泥押しの原因になります。



水の深さ

水深は、1～2cm（ヒタヒタ水）程度で植付けてください。（ロータ（Z仕様）を使用する場合は1cm程度）深すぎると、植付姿勢が乱れたり、浮き苗が発生する原因になります。

乾き過ぎると、植付けた苗が持ち上がったり、植付姿勢が乱れる原因になります。

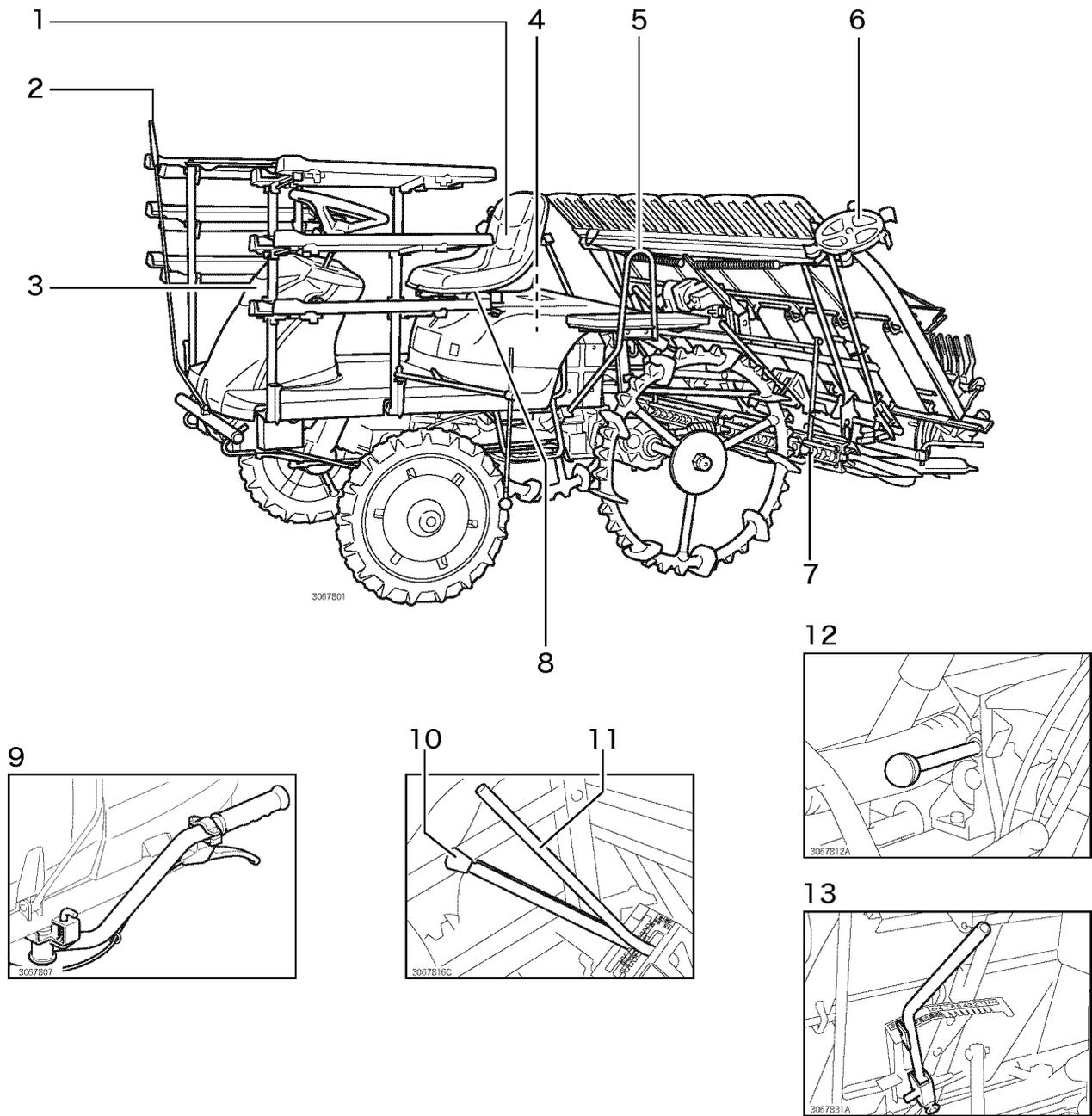


4章 各部のなまえ

各装置の働きや使いかたは、名称に記載してある参照ページをご覧ください。

1. 外観

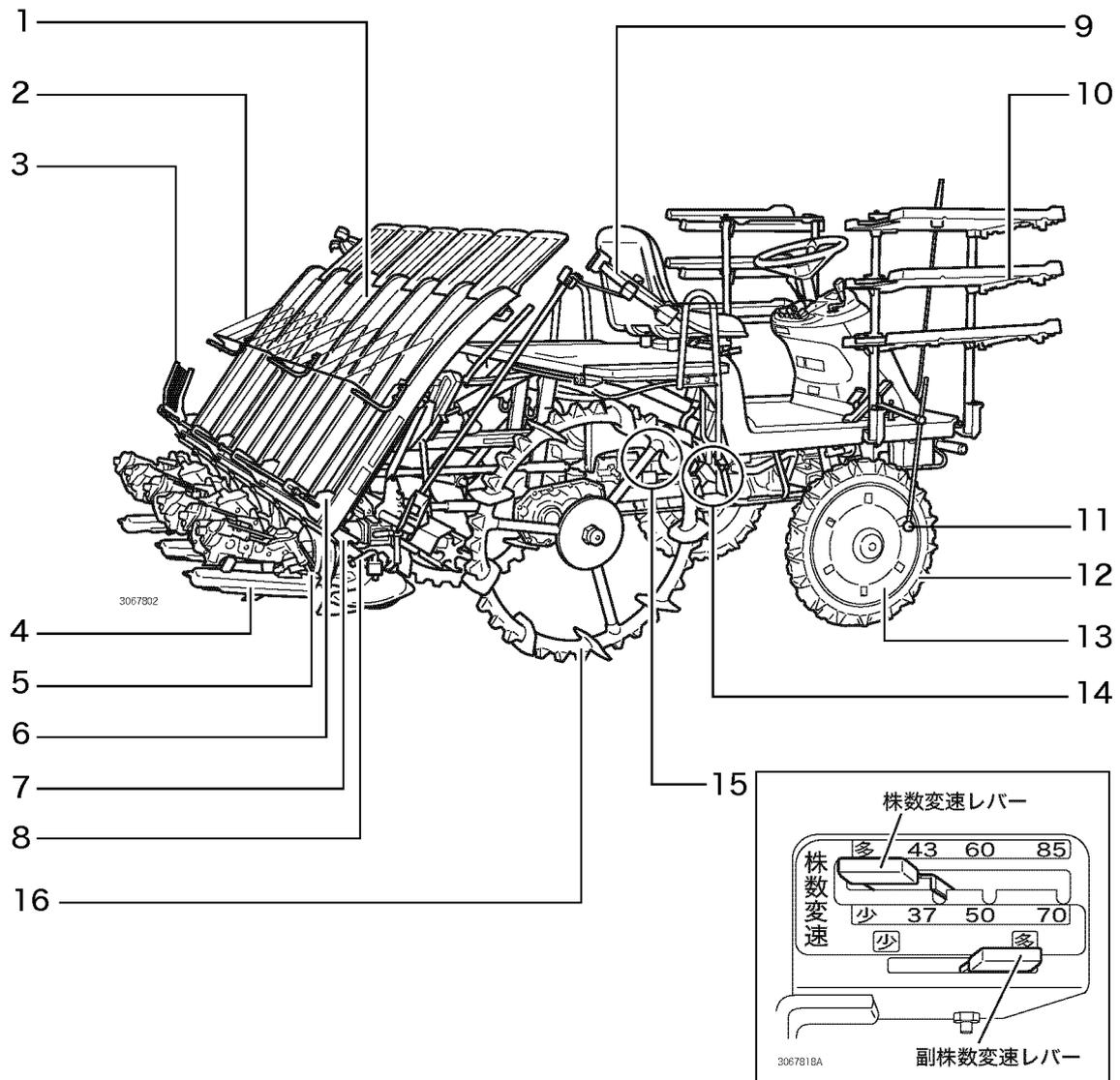
※図は、RJ6をモデルにしています。



	参照ページ
1. ドライバーシート	36
2. センターマーカ	34
3. ヘッドランプ	
4. エンジン	
5. アシストバー	
6. 風車マーカ	32
7. ロータ (Z仕様)	30

	参照ページ
8. 燃料給油口	22
9. フロントハンドル (RJ4のみ)	24
10. 植付本数調節レバー	29
11. 植付深さ調節レバー	29
12. 横送り切替レバー	29
13. ロータ高さ調節レバー (Z仕様)	30

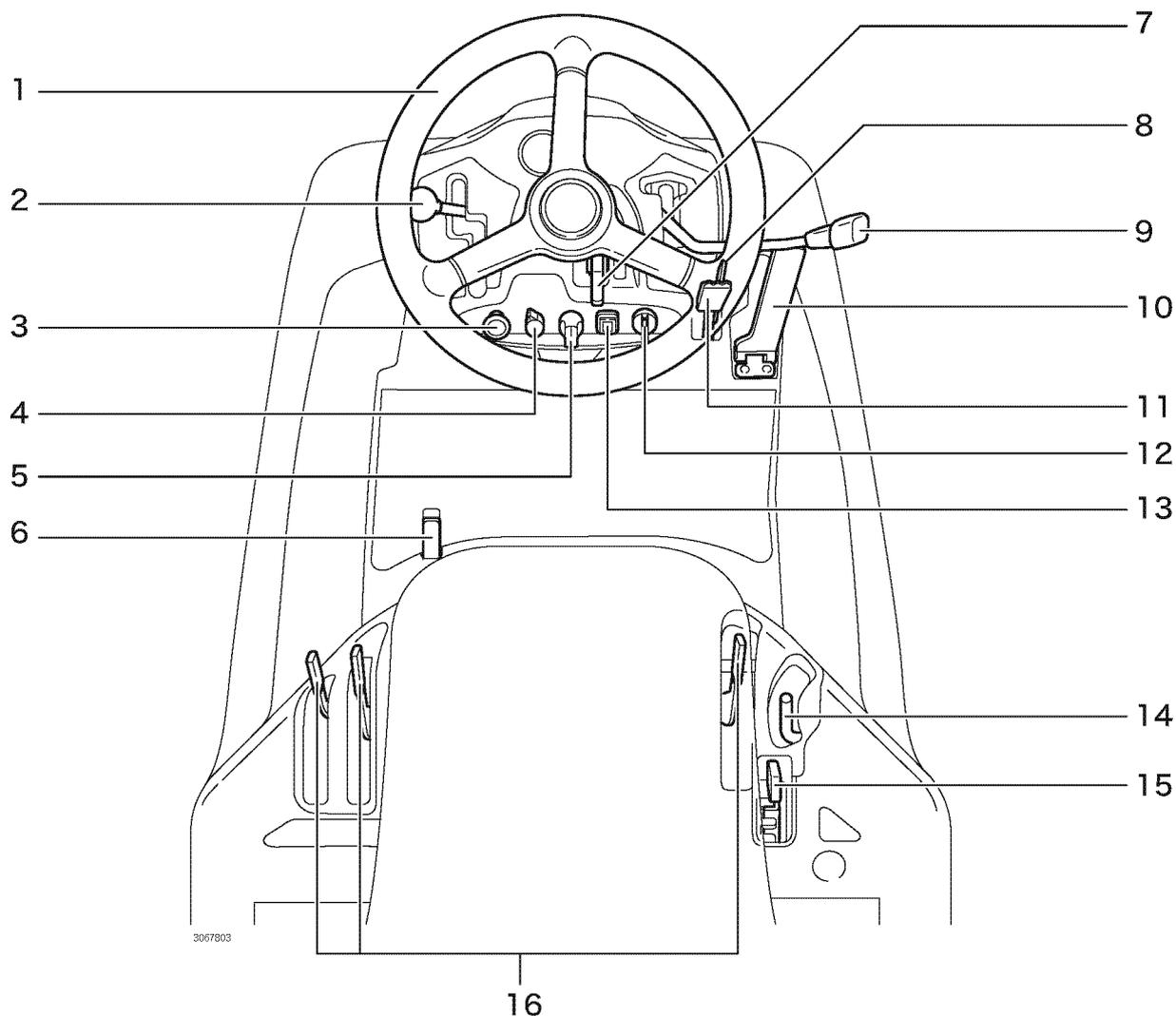
※図は、RJ6をモデルにしています。



	参照ページ		参照ページ
1. 苗のせ台		9. 風車マーカ	32
2. 苗マット押え	33	10. 予備苗のせ台	35
3. 苗ストッパ	32	11. サイドマーカ	34
4. フロート		12. 前輪	
5. 植付爪		13. ホイルディスク	
6. 苗押え棒	33	14. 燃料コックレバー	22
7. 苗取出板 (レール)	34	15. 株数変速レバー	27
(折りたたみはRJ6のみ)		16. 後輪	
8. サイドバンパー	33		
(折りたたみはRJ6のみ)			

2. 運転操作部

※図は、RJ6をモデルにしています。



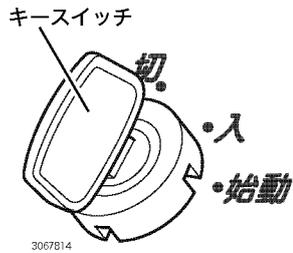
	参照ページ		参照ページ
1. ステアリングハンドル.....	23	11. ブレーキペダル.....	26
2. 主変速レバー.....	23	12. キースイッチ.....	21
3. チョークレバー.....	22	13. プザー停止・警報表示スイッチ.....	36
4. UFO自動調整ボリューム (U仕様).....	31	14. 油圧ストップレバー.....	26
5. ライトスイッチ.....	36	15. 油圧感度調節レバー.....	25
6. デフロックペダル.....	27	16. 植付条止レバー.....	28
7. アクセルレバー.....	21		
8. 駐車ブレーキレバー.....	26		
9. 植付昇降レバー.....	25		
10. 変速ペダル.....	24		

5章 各操作部のはたらき

エンジン関係

(1) キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



「切」位置……エンジンが停止し、電流が流れません。
(キーを抜き取れます)

「入」位置……各電装品スイッチに電流が流れます。

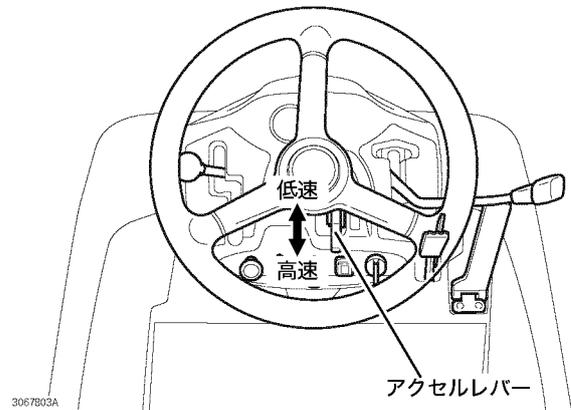
「始動」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「入」位置に戻ります。

【参考】

- 「入」位置にしたとき、苗のせ台に苗がないと、ブザーおよびブザー停止・警報表示スイッチのランプで苗がないことをお知らせします。

(2) アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。



「 (高速)」側(手前に引く)… エンジンの回転が上がる。

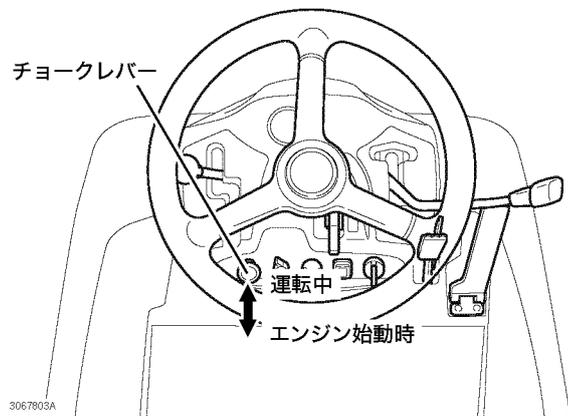
「 (低速)」側(前方に押す)… エンジンの回転が下がる。

【参考】

- 変速ペダルの踏み込み量に連動して、エンジン回転も上がります。
- 深いほ場での作業では、変速ペダル操作中にエンストしないように、あらかじめエンジン回転を「高速」側に上げておいてください。

(3) チョークレバー

エンジン始動時に使用します。
エンジン始動時には、必ずチョークレバーを引いて保持してください。



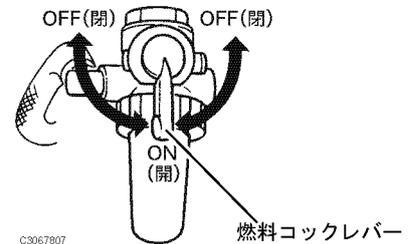
手前に引く…燃料の混合気が濃くなる。
押し込む…燃料の混合気が通常になる。

[重要]

● エンジンの始動時以外には、使用しないでください。

(4) 燃料コックレバー

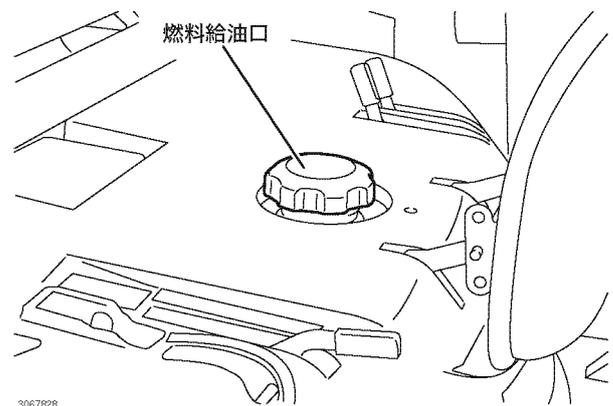
燃料コックレバーは、燃料の供給・停止に使用します。
(本機右側、ドライバーシートの下にあります。)



「ON」(開)位置…… エンジンに燃料が供給される。
(エンジン始動中)
「OFF」(閉)位置…… エンジンに燃料が供給されな
い。(長期保管時)

(5) 燃料給油口

燃料を給油するときに使用します。



ドライバーシートを倒すと給油口があります。

[重要]

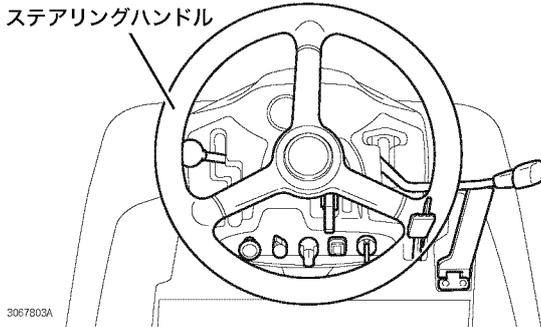
● 燃料給油口は、苗つぎ時などで踏まないように注
意してください。燃料タンクが破損するおそれ
があります。

作業・操作関係

(1) ステアリングハンドル

田植機を旋回するときに使用します。

ステアリングハンドル

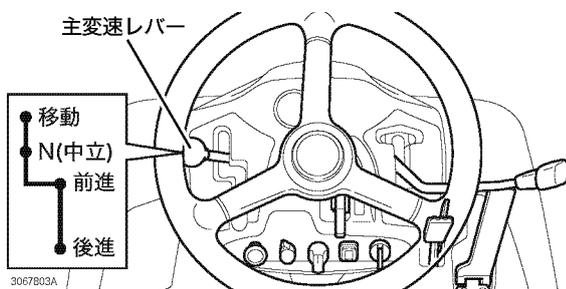


ハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。

また、ハンドルを右または左へいっぱい回すと、旋回側の後輪の動力が断たれ、旋回がスムーズに行えます。

(2) 主変速レバー

進行方向と走行速度の切り替えに使用します。前進2段・N(中立)・後進の切り替えができます。レバーの位置を変えるときは、機体を停止してから行ってください。



「移動」位置……農道などを高速で移動走行するとき。ほ場内では、ミッションが破損するおそれがあるので使用しないでください。

「N」(中立・苗つぎ)位置

……車輪への動力が断たれ、機体が停止する。植付部だけを駆動するときに使用。

「前進」(ほ場内移動)位置

……植付作業時、ほ場内の移動、トラックへの積み・降ろし、ほ場への出入り、農道を低速で前進するとき。

「後進」位置……機体を後進させるとき。

〈バックアップ機構について〉

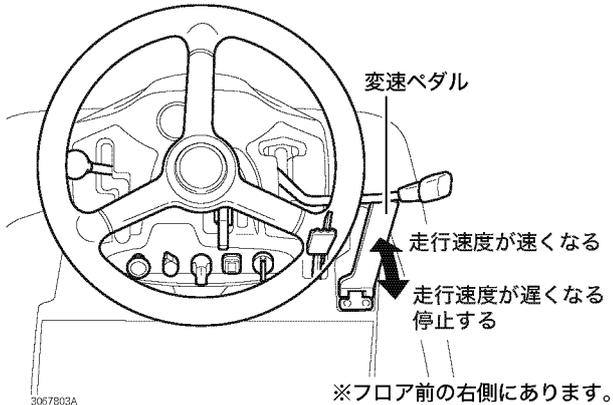
植付部が下がっている状態で、主変速レバーを「後進」位置にすると、植付部の駆動が停止すると同時に植付部が上昇します。

【参考】

- 植付昇降レバーが植付昇降「N」(中立)位置にあるときは、主変速レバーを「後進」位置にしても植付部は上昇しません。
- 植付部を最上げ位置より低い位置で後進したい場合は、下記の方法で行ってください。
 1. 植付昇降レバーで、植付部を上げたい位置まで上げて植付昇降「N」(中立)位置にしてください。
 2. 主変速レバーを「後進」位置にして、後進してください。

(3) 変速ペダル(アクセル連動)

植付けや移動時の走行速度の調節、および走行を停止するときに使用します。



踏み込む…走行速度が速くなる。

ミッション変速が高速側になり、同時にエンジン回転が上がる。

離す………走行速度が遅くなり、停止する。

ミッション変速が低速側になり、変速ペダルが完全に戻ると、ミッション変速が停止して、エンジン回転が下がる。

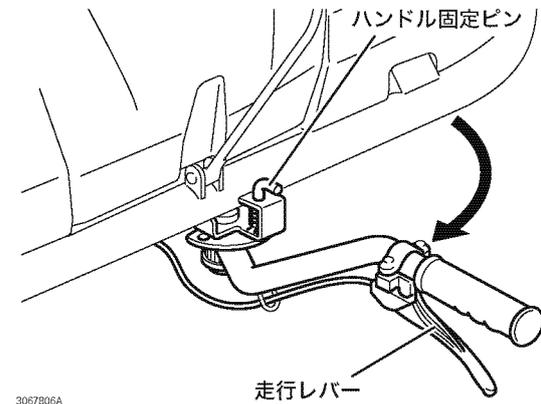
【重要】

- 変速ペダルを踏み込むとき、および離すときは、徐々に操作してください。
- 停止するときは、主変速レバーを「N」(中立)位置にして駐車ブレーキをかけて停止してください。

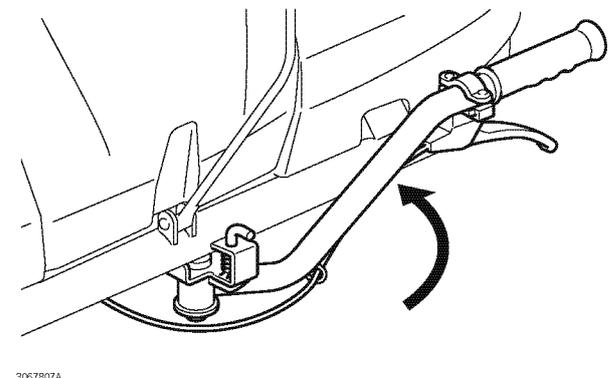
(4) フロントハンドル(RJ4のみ)

降りて操作するときの機体の走行・停止に使用します。

〈作業位置〉



〈収納位置〉



走行レバーを握ると走行し、離すと停止します。ハンドル固定ピンを引き上げて、ハンドルの位置を「作業位置」「収納位置」に変更できます。

【参考】

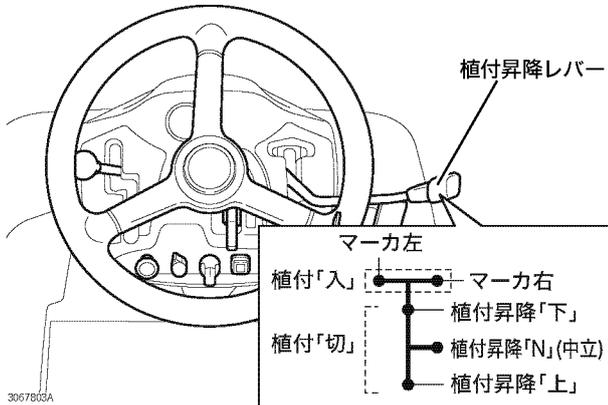
- 走行レバーは「作業位置」「収納位置」の両方で操作できます。

⚠ 警告

- あぜ越え時などで、機体前方がほ場にもぐり込むような場面では、フロントハンドルを「収納位置」にして使用してください。「作業位置」では走行レバーがほ場にもぐり込み、レバー操作ができなくなり危険です。

(5) 植付昇降レバー

植付部の昇降、植付けの「入」「切」、風車マーカの操作ができます。

**〈植付昇降〉**

植付部を上げたり、下げたり、固定したりできます。

「上」位置……植付部が上がる。

「N」(中立)位置…植付部を任意の高さで固定できる。

「下」位置……植付部が下がり、水平制御が働く。

〈植付〉

植付部の作動・停止ができます。

「入」位置……植付部が作動する。

「切」位置……植付部が停止する。

〈マーカ〉

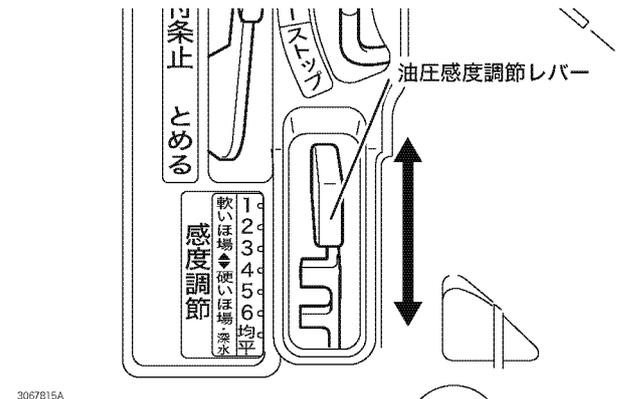
風車マーカの操作ができます。

「左」位置……左側の風車マーカが倒れてセットされる。

「右」位置……右側の風車マーカが倒れてセットされる。

(6) 油圧感度調節レバー

フロートにより、ほ場表面を整地するため、ほ場の硬さに合わせて、油圧制御の感度を調節するとき 사용합니다。(68ページ参照)



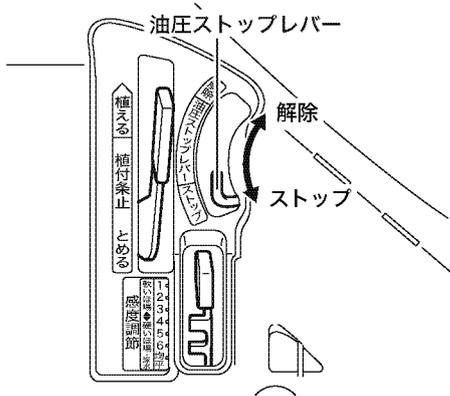
「軟いほ場」側 ……感度が上がる。(敏感)

「硬いほ場・深水」側…感度が下がる。(鈍感)

「均平」側 ……さらに感度が下がり、ほ場を均平にする。

(7) 油圧ストップレバー

移動時、点検・整備時などで、植付部が下降しないように固定するときに使用します。



3067815

「ストップ」位置

……植付部の昇降用の油圧をストップし、植付昇降レバーを植付昇降「上」・「下」位置にしても植付部は昇降しない。

「解除」位置

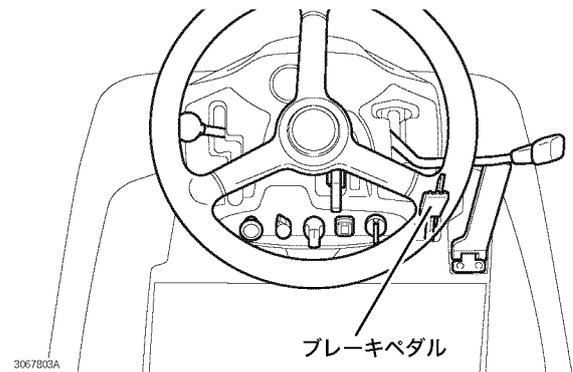
……植付昇降レバーを植付昇降「上」・「下」位置にすると、植付部が昇降する。

【重要】

- 油圧ストップレバーは、ガイドの両端まで確実に操作してください。
中間位置になっていないと、正しく作動しない場合があります。
- 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしたままで、植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にしないでください。ミッションオイルの温度が上がリ、破損の原因になります。
- 植付部を最上げ状態にして、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしても、植付部が約1日程度で自然降下する場合があります。長時間、植付部を上げた状態で放置する場合は、植付部の下に物を置かないでください。

(8) ブレーキペダル

作業・走行中の緊急停止時、駐車するときに使用します。

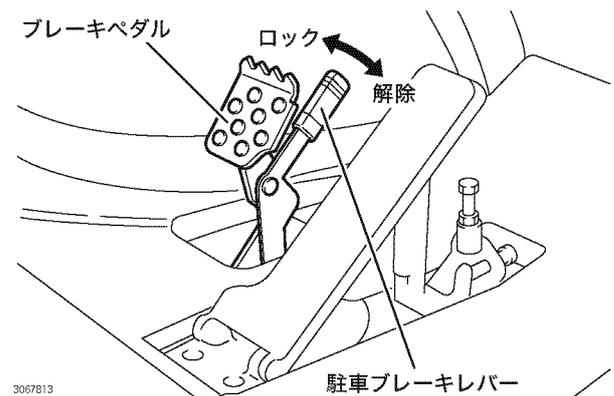


【参考】

- ブレーキペダルを踏むと、主クラッチが切れ、エンジンからの動力が、ミッションへ伝わらないようになっています。

(9) 駐車ブレーキレバー

機械を駐車するとき、または苗つぎのときに使用します。



ブレーキペダルをいっぱい踏み込んで、駐車ブレーキレバーを「ロック」位置にすると駐車ブレーキがかかります。

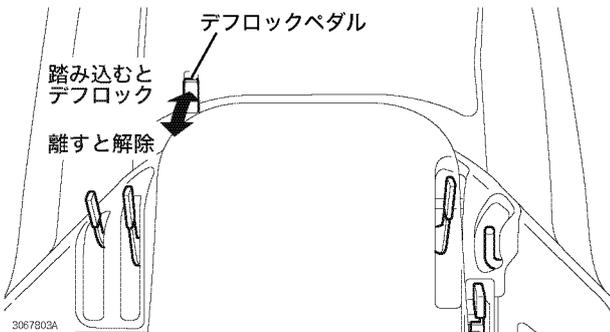
解除するときは、ブレーキペダルを軽く踏み込むと、駐車ブレーキレバーが「解除」位置に戻り、駐車ブレーキが解除されます。

⚠ 警告

- 運転席を離れるときは、主変速レバーを「N」（中立・苗つぎ）位置にし、必ず駐車ブレーキをかけてください。誤って変速ペダルを踏み込んだときに、田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。

(10)デフロックペダル(前輪)

あぜ越えやほ場内移動で、前輪の片側の車輪がスリップして走行しづらいときに使用します。



踏み込む…前輪の左右の車軸が連結されて、車軸の回転が左右同じになり、片輪空回りによるスリップを防止する。ペダルを踏み続けている間は、作動している。

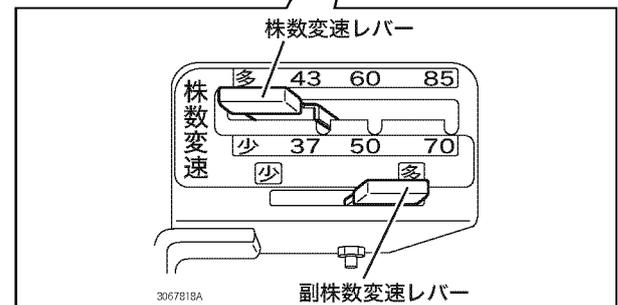
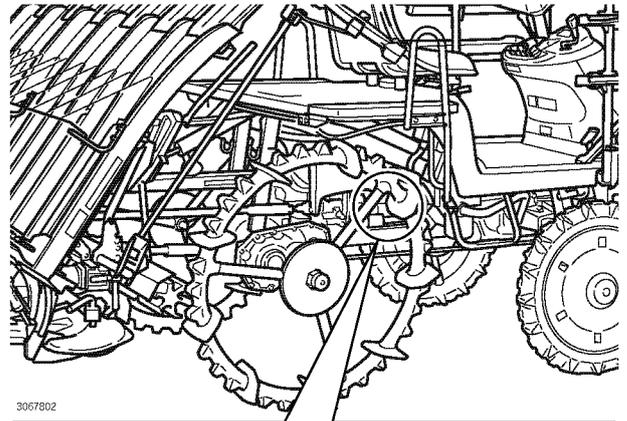
離す………左右の連結が自動的に解除される。

【参考】

- デフロックは前輪に作用します。
- デフロックペダルを操作するときは、速度を下げてください。
- デフロックペダルを踏み込んでも、ミッション内部のデフロック爪の山と山が当たっているときは、左・右の車輪に回転差ができ、爪の山と谷になるまで入りません。

(11)株数変速レバー

植付株数を切り替えるときに使用します。
(本機右側、ドライバーシートの下にあります。)



レバー 2本の組み合わせで、植付株数を6段階に調節することができます。(67ページ参照)

【参考】

- 植付株数は、ほ場条件によって変わります。植付状態を見ながら切り替えてください。

植付部関係

(1) 植付条止レバー

2条（または1条）ごとの植付爪と苗送りベルトの作動を停止することができます。

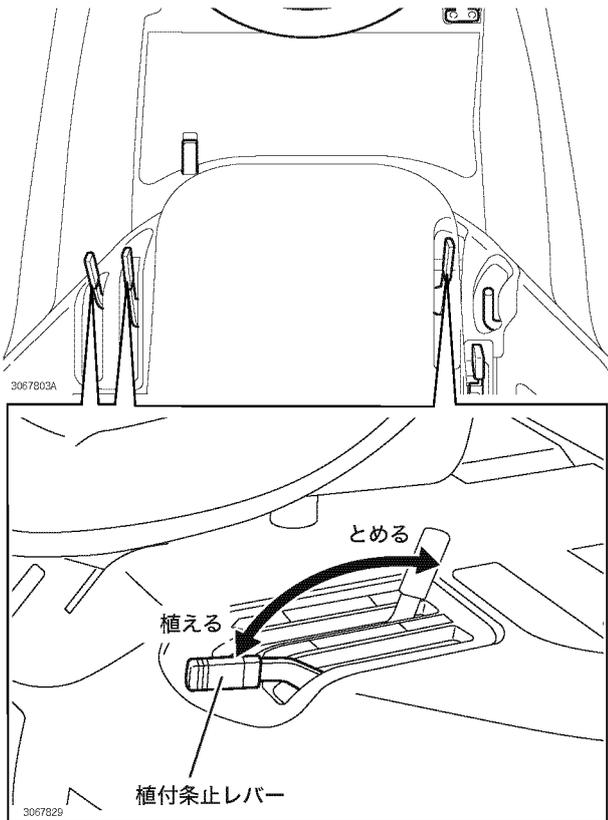
（条止めできる条数）

4条…1・2条、3・4条

5条…1・2条、3条、4・5条

6条…1・2条、3・4条、5・6条

最終行程で全条植えできるように、前行程で条止めして、条数合わせをするときに使用します。



※図は..RJ6です。

「植える」位置……植付爪・苗送りベルトが作動する。

「とめる」位置……植付爪・苗送りベルトが停止する。

【重要】

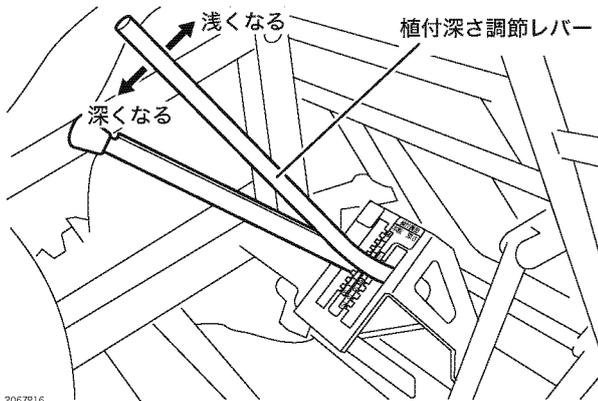
- 植付条止レバーの操作は、植付部の回転が高速の状態では行わないでください。部品の破損、故障の原因になります。

【参考】

- 苗ストップと併用すると、1条ごとの条数合わせができます。
- 植付条止レバーは、「植える」「とめる」位置へ確実に操作してください。
- 粒状施肥機付の場合は、肥料の繰り出しも停止します。

(2) 植付深さ調節レバー

植付深さを調節するときに使用します。



3067816

植付深さは、7段階に調節することができます。

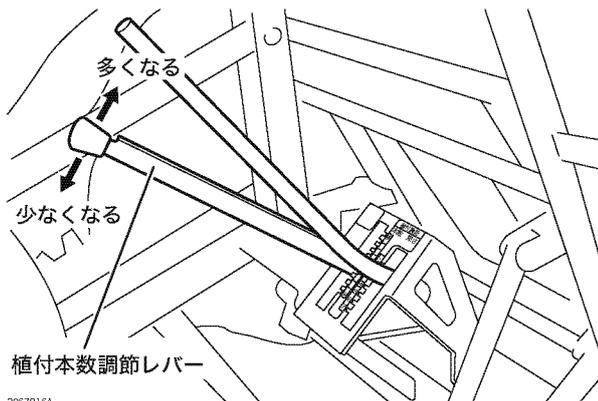
(68ページ参照)

「深植」側……植付深さが深くなる。

「浅植」側……植付深さが浅くなる。

(3) 植付本数調節レバー

苗の1株本数を調節するときに使用します。



3067816A

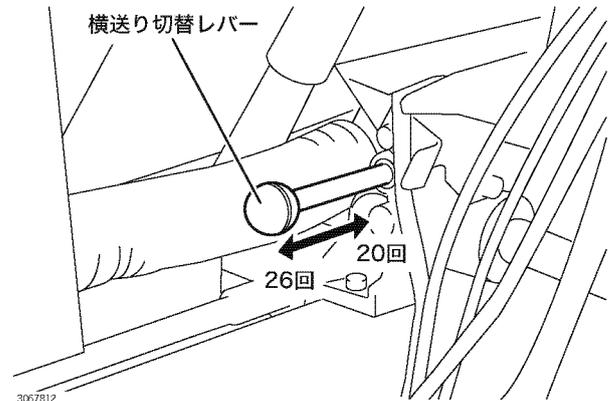
苗の1株本数の取り量は、苗の状態に合わせて10段階に調節することができます。(69ページ参照)

「多」側……1株本数が多くなる。

「少」側……1株本数が少くなる。

(4) 横送り切替レバー

苗マットの横送り量を調節するときに使用します。



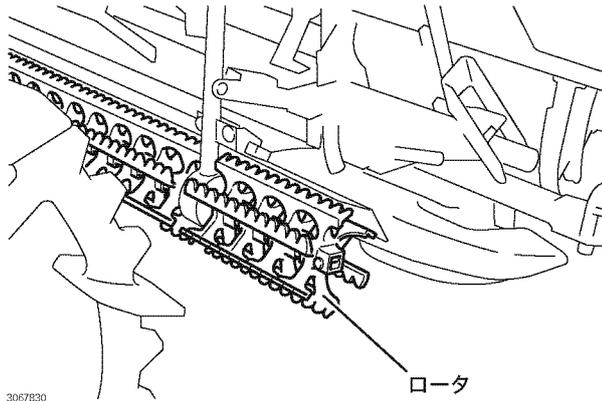
3067812

苗マットの横送り量の切り替えは、2段階に調節することができます。(69ページ参照)

すこやかロータ関係(Z仕様)

(1) ロータ

植付けすると同時に、ほ場の表面をならして均一にするときに使用します。

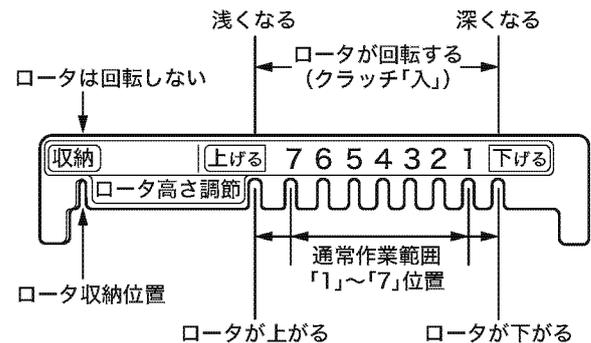
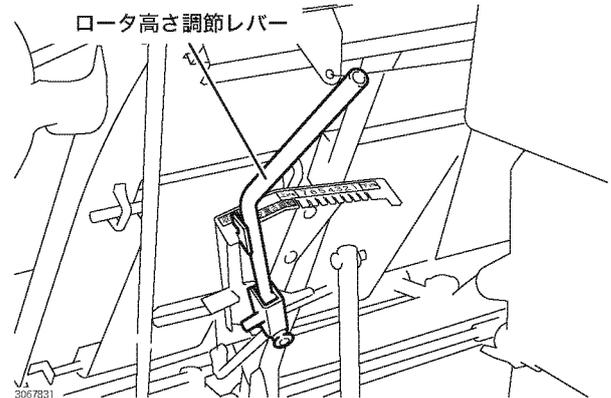


【参考】

- ロータは、後輪の駆動と連動していますので、走行すると回転します。
- ロータの回転は、植付部の昇降と連動してクラッチの「入」「切」をします。植付部を下げて走行するとロータが回転し、植付部を上げると止まります。
- ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にすると、ロータの回転は止まります。

(2) ロータ高さ調節レバー

ロータの高さを調節するとき、および収納するとき使用します。



- 「下げる」位置 … 「1」位置でも整地不足のときに使用する位置です。
- 「1」～「7」位置 … 植付深さ調節レバーの操作銘板の番号に合わせる位置です。
- 「上げる」位置 … 「7」位置でも泥を押しときに使用する位置です。
- 「収納」位置 …… ロータが最上段位置に収納されます。このときロータは駆動しません。

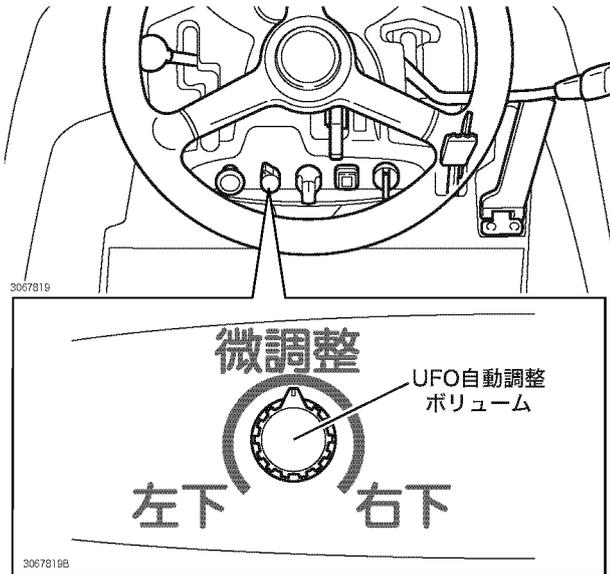
【参考】

- ロータが「収納」位置でもロータで泥を押し場合には、「上げる」位置にして、ロータを回転させてください。

ナイスティUFO関係(U仕様)

UFO自動調整ボリューム

植付作業中に、植付部が左、または右に少し傾いているときに、水平にするために使用します。また、あぜぎわなどで、少し傾けて植付けたいときに使用します。

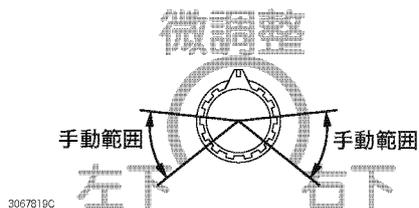


【参考】

- 植付昇降レバーが、植付昇降「下」、植付「入」位置のとき、UFOの水平制御が働きます。

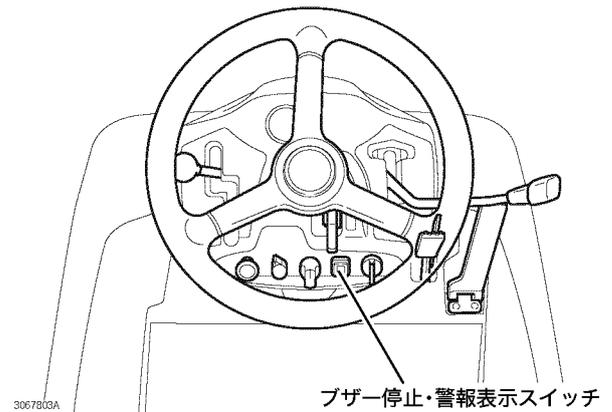
UFOの手動操作

植付昇降レバーが、植付昇降「N」（中立）位置、植付昇降「上」位置のとき、UFO自動調整ボリュームを「手動範囲」まで手で回すと、植付部を手動で任意に傾けることができます。



UFO自己診断機能

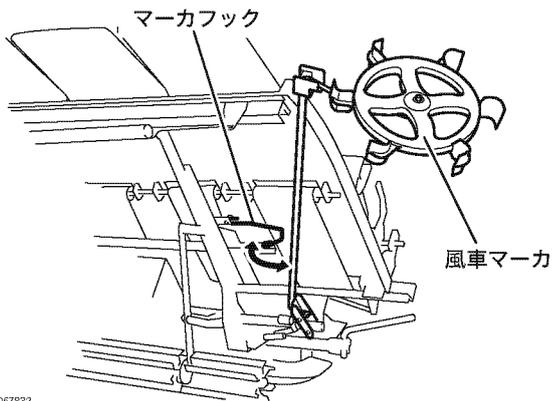
UFO装置には自己診断機能があり、ブザー停止・警報表示スイッチの点滅で状態をお知らせします。正常時には消灯していますが、不具合が発生すると点滅します。詳細は、「ナイスティチェッカ（自己診断）の表示について」（122ページ参照）を参照してください。



苗のせ台関係

(1) 風車マーカ

植付作業中に適正な隣接条間を保ち、直進の目標となるように、ほ場表面に線を付けるときに使用します。



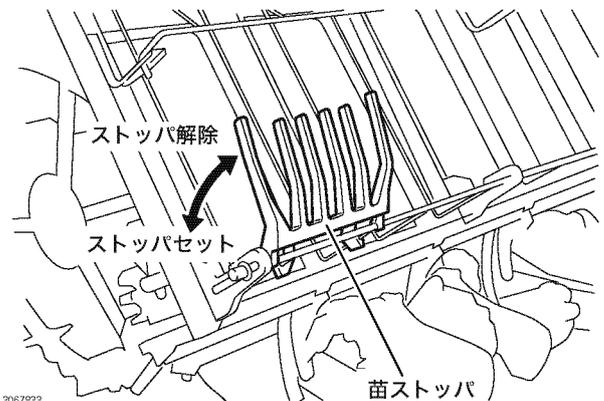
風車マーカの操作は、植付昇降レバーで行います。収納は、植付部の上昇と連動して、自動的に行われます。

⚠ 注意

- 移動走行時やトラックで運搬するときは、風車マーカをマーカフックにかけて収納状態にしてください。
- トラックで運搬するときは、風車マーカ（マーカロッド）を取り外してください。（53ページ参照）

(2) 苗ストップ

1条分の苗供給を止めるときに使用します。



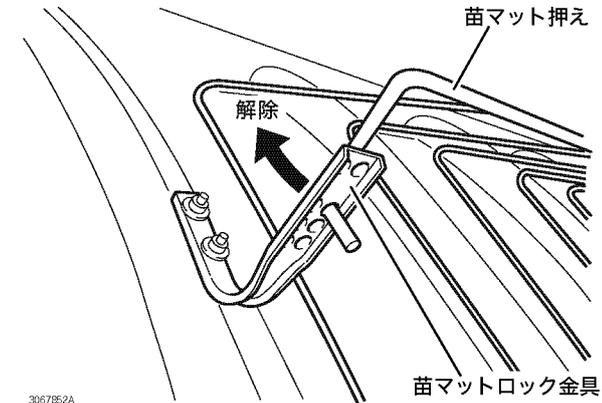
苗ストップのセットは、苗マットを上方にずらし、苗ストップをセット位置にして、苗の供給を止めます。

【参考】

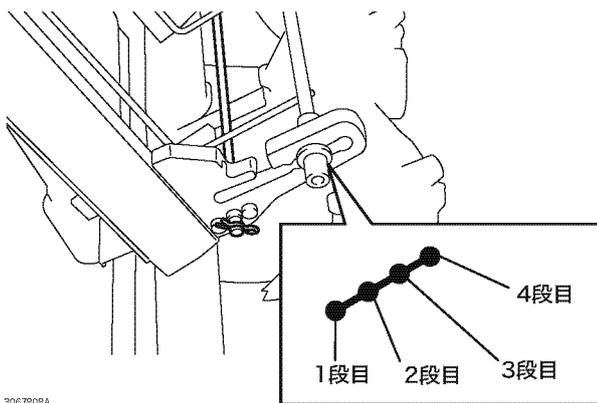
- 植付条止レバーと併用して1条植えができます。
- 苗ストップは取り外すことができます。必要に応じて付け替えてください。
- 苗ストップを解除するときは、フック部を苗マット押えに確実にはめ込んでください。

(3) 苗マット押え

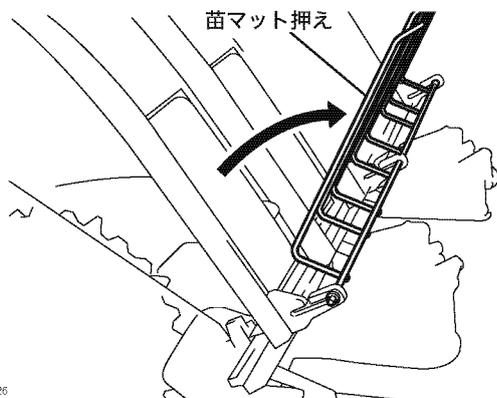
苗マットがぐずれないように、苗マットを補助するときに使用します。



3067852A



3067808A



3063526

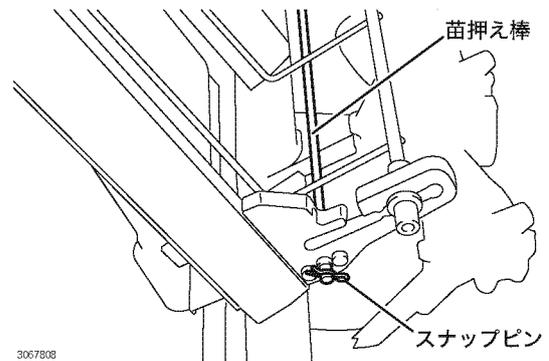
苗の状態や苗マットの厚さに応じて、苗マットロック金具の取り付け位置と苗マット押えを上下にスライド（4段階）させて調節します。（70ページ参照）

【参考】

- 苗マット押えを解除すると、残っている苗の取り出しが楽に行えます。

(4) 苗押え棒

苗の倒れを規制して、植付爪が苗を取りやすくし、苗を傷めたり、植付姿勢が乱れないようにします。



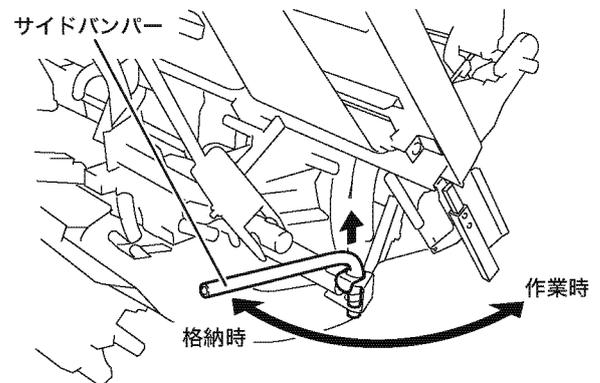
3067808

苗の草丈・育苗状態・植付姿勢などに合わせて、スナップピンを外して、苗押え棒を抜いて、高さ調節します。（70ページ参照）

(5) サイドバンパー

あぜなどから植付部を保護します。

RJ6の場合は、折りたたむことができます。納屋に格納できない場合や、トラックで運搬するときは、折りたたんでください。植付作業をするときは、必ず広げてください。



3067834

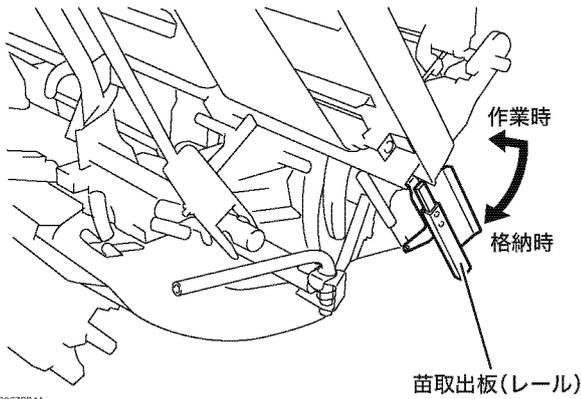
折りたたみ・広げかたは、機体上方にサイドバンパーを引き上げながら、回転してください。

【参考】

- 折りたたむときは、植付部を中央位置にしてください。（47ページ参照）
- サイドバンパーを折りたたむときは、苗取出板も一緒に折りたたんでください。
- 植付深さ調節レバーが「3」～「7」のいずれかの位置で行ってください。

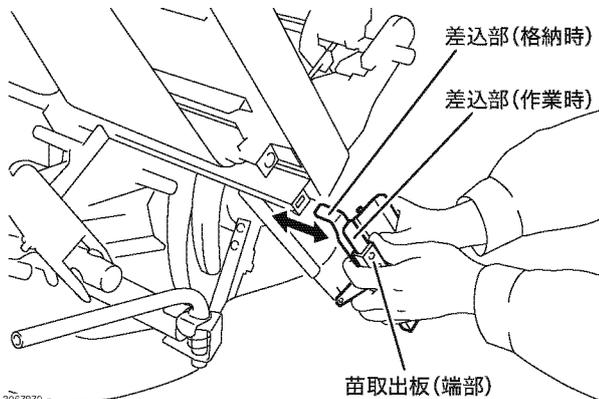
(6) 苗取出板(レール)

RJ6 の場合は、折りたたむことができます。納屋に格納できない場合や、トラックで運搬するときは、折りたたんでください。植付作業をするときは、必ず広げてください。



3067834A

折りたたみ・広げかたは、機体側方に苗取出板(端部)を引っ張り、差込部を差し替えてください。



3067879

【参考】

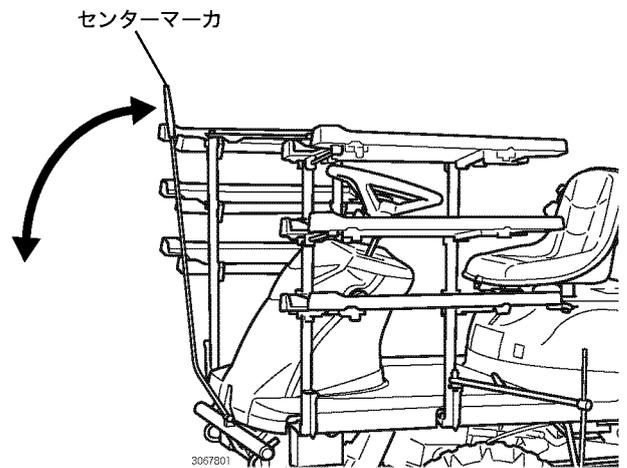
- 折りたたむときは、植付部を中央位置にしてください。(47ページ参照)

その他の装置関係

(1) センターマーカ

風車マーカでほ場に印された線に、センターマーカを合わせて植付作業を行うと、直進の目安になり、適正な隣接条間が保てます。

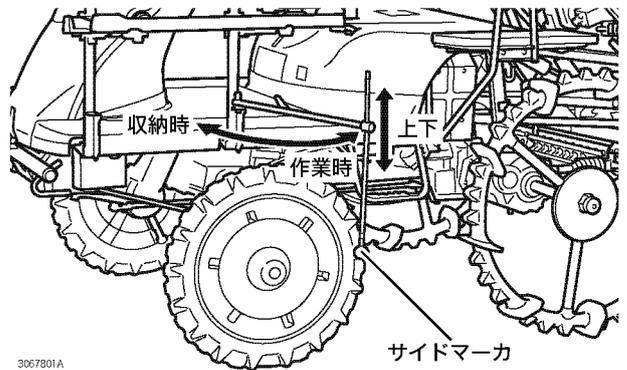
さらに、センターマーカは前方に回転できますので、運転者の見やすい位置に調節することができます。



3067801

(2) サイドマーカ

あぜぎわ植付けや、風車マーカで引かれた線が見えにくいときに、適正な隣接条間を保つための目安として使用します。

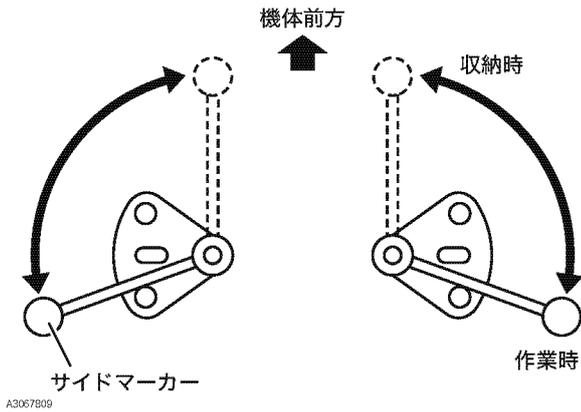


3067801A

サイドマーカが隣接条の真上になるように機体を合わせると、適正な隣接条間が保てます。

【参考】

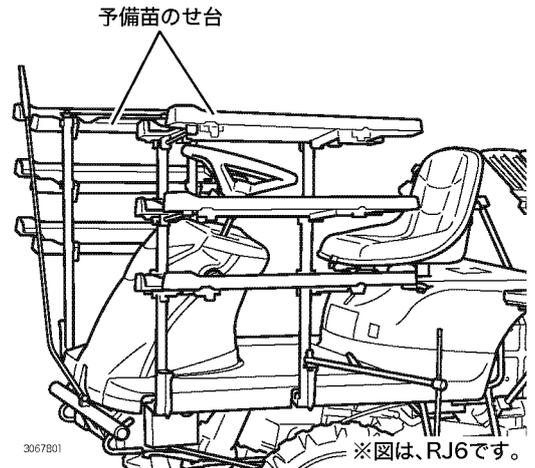
- 作業時は、サイドマーカを凸部と凸部の間にはまる位置（斜め後方）にセットしてください。
- 輸送時および移動走行時には、サイドマーカを前方に回転させて、前向きに収納することができます。



A3067809

(3) 折りたたみ式予備苗のせ台

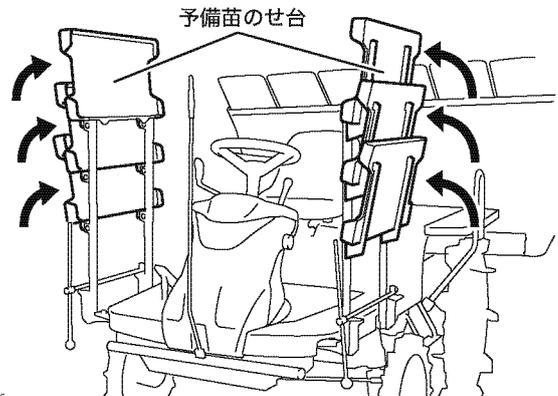
苗マットをRJ4は4マット、RJ5・6は6マットのせることができます。また予備苗のせ台は、使用しないとき、格納するときに上方に折りたたむことができます。



3067801

※図は、RJ6です。

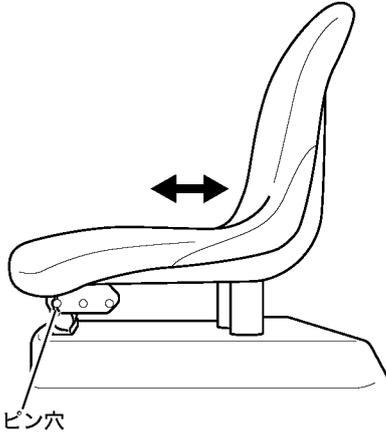
〈折りたたみ状態〉



3067836

(4) ドライバーシート

運転者が最適な姿勢で運転できるように、ドライバーシートの位置を、前後に3段階に調節できます。



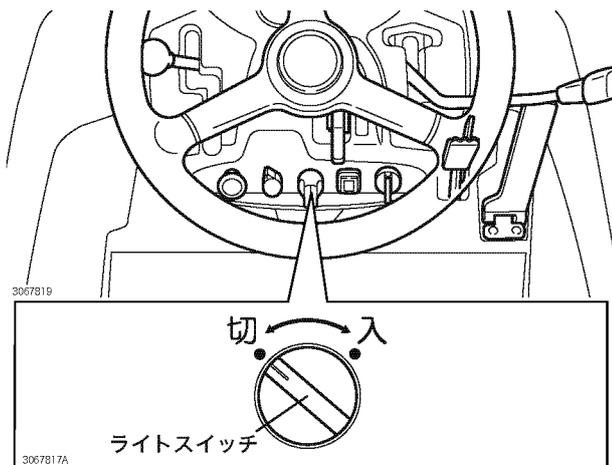
ドライバーシートの調節は、支点ピンの穴位置を差し替えて行うことができます。

(39ページ参照)

また、ドライバーシートは前方へ倒すことができます。

(5) ライトスイッチ

ヘッドランプを照射させるときに使用します。



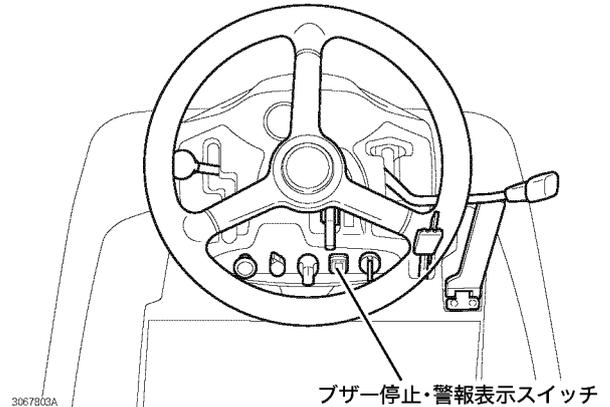
キースイッチが「入」位置のときに、ヘッドランプの照射、消灯ができます。

「切」位置……消灯する。

「入」位置……照射する。

(6) ブザー停止・警報表示スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。また、ランプが点滅し、警報内容をお知らせします。



警報ブザーは、下記のとおりお知らせします。

- 植付部の苗が残り少なくなったとき。
- 肥料が残り少なくなったとき。(施肥機装着時のみ)
- 肥料詰まりが発生したとき。(施肥機装着時のみ)

6章 運転前の準備

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。燃料に引火して、火災のおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に田植機を駐車させ、エンジンを停止してください。

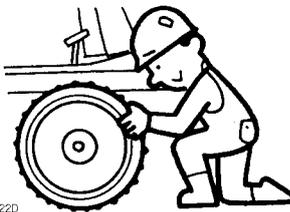
⚠ 注意

- 田植機の点検・整備などで取り外したカバー類は、元通りに取り付けてください。取り外した状態で運転しますと、機械に巻き込まれるおそれがあります。
- 田植機は常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部に、ゴミや燃料の付着があると火災の原因になります。

1. 運転前の点検

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか.....	109
本機の周りを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量と燃料もれ、および油もれはありませんか..... ●タイヤの損傷・摩耗はありませんか..... ●爪は摩耗していませんか.....	22・88 108 98
エンジン周辺をみて	●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか..... ●ベルトの損傷はありませんか ●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか..... ●エアクリーナーの汚れはありませんか.....	106 90 94



点検順序	点検箇所	参照ページ
ドライバーシートに座ってみて	●ドライバーシートの取り付け位置が体格に合っていますか.....	39
エンジン始動してみても	<ul style="list-style-type: none"> ●エンジン始動後に異常な音がしませんか ●排気ガスは、正常な色（透明または薄い青紫色）をしていますか ●ライトスイッチで、ヘッドランプの点灯・消灯が行えますか..... ●各操作レバーの作動状態は正常ですか 	36
ゆっくり発進してみても	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキのきき具合は正常ですか ●主変速レバーの作動具合は正常ですか..... ●変速ペダルの作動具合は正常ですか..... 	23 24



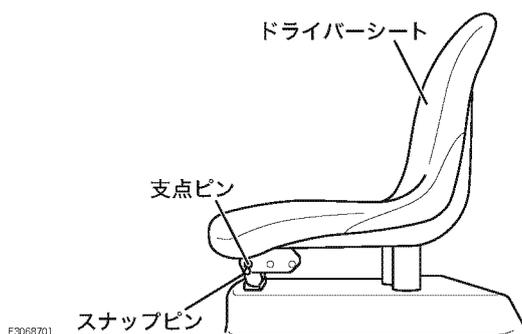
警告

- この取扱説明書の「1章 安全な作業をするために必ずお守りください」と、田植機に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから運転してください。
- エンジンを始動するときは、必ずドライバーシートに座り、駐車ブレーキをかけて、主変速レバーが「N」(中立)位置、植付昇降レバーが植付昇降「N」(中立)位置にあるか確認してください。誤って変速ペダルを踏み込んだときに、田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。
- 運転席を離れるときは、主変速レバーを「N」(中立・苗つぎ)位置にし、必ず駐車ブレーキをかけてください。誤って変速ペダルを踏み込んだときに、田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。
- 田植機に乗降するときには、周囲の安全を確認してください。
- RJ4のF仕様(粒状施肥機付)およびL仕様(ペースト施肥機付)の場合は、機体の左右の傾きが大きくなると、警報ブザー(連続音)でお知らせします。警報ブザーが鳴ったときは、それ以上機体を傾けないでください。転倒事故につながります。
F仕様：右「14度以上」、左「14度以上」
L仕様：右「14度以上」、左「22度以上」

1. ドライバーシート位置の調節のしかた

ドライバーシートの位置は、前後に3段階の調節ができます。運転者の体格に合わせて調節してください。

1. スナップピンを外し、支点ピンを抜いてください。
2. ドライバーシートの位置を移動し、支点ピンを差し込み、スナップピンで固定してください。

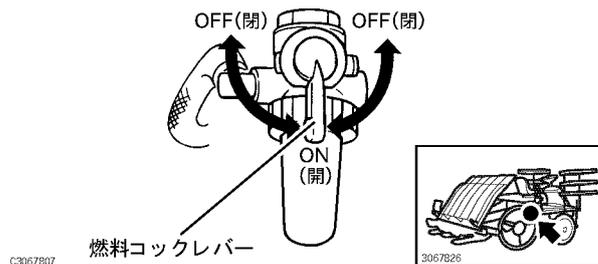


E3068701

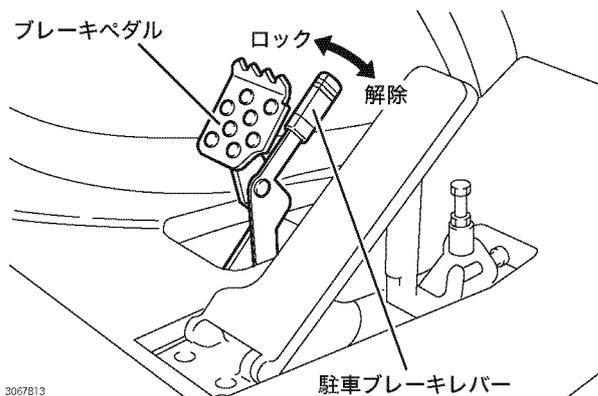
2. エンジンの始動のしかた

(1) エンジン始動前の確認・準備

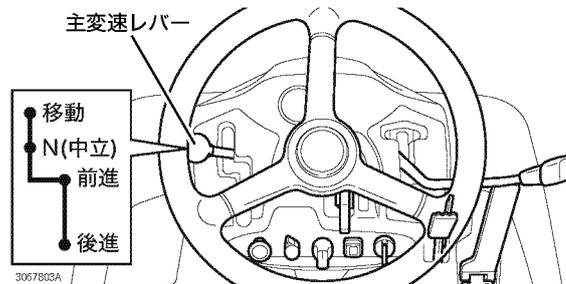
1. 燃料コックレバーを「ON」(開)位置にしてください。(22ページ参照)



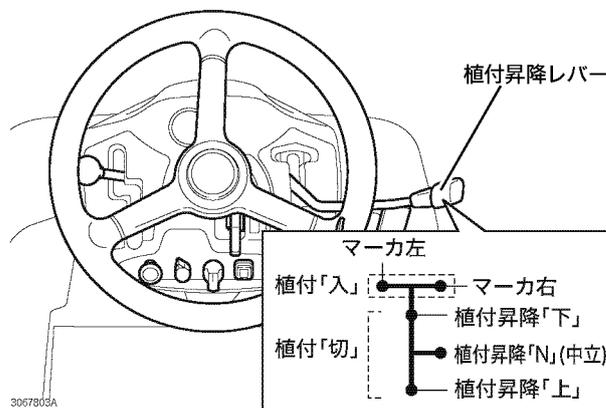
2. 駐車ブレーキをかけてください。(45ページ参照)



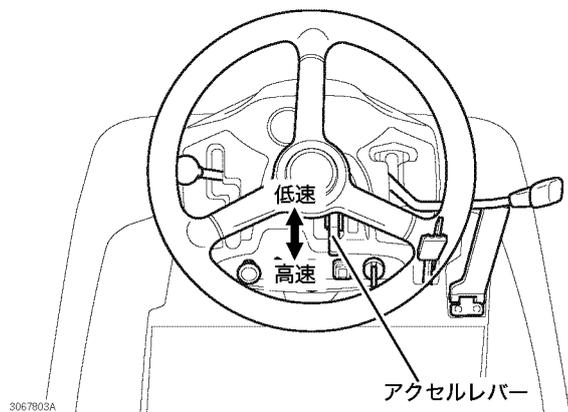
3. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



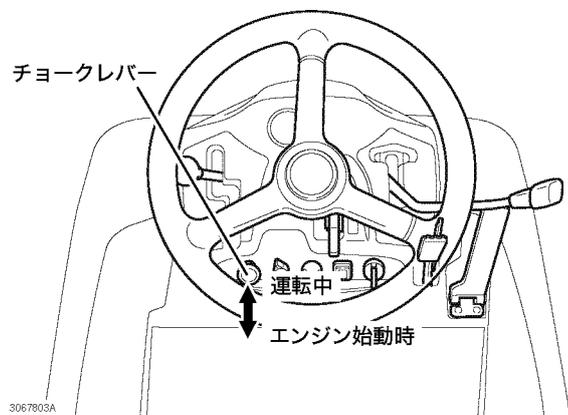
4. 植付昇降レバーを植付昇降「N」(中立)位置にしてください。



5. アクセルレバーを「高速」(作業時)側と「低速」側の中間位置にしてください。



6. チョークレバーを引いて保持してください。

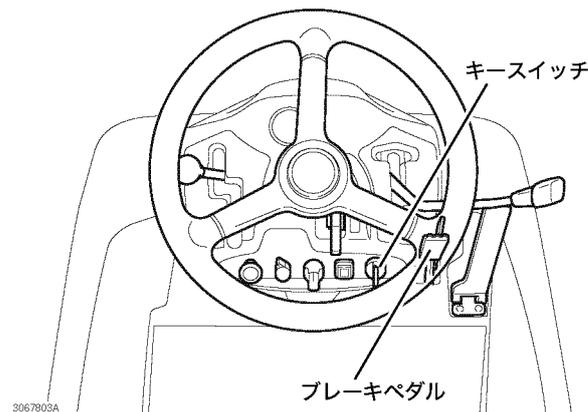


[重要]

- チョークレバーは、エンジン始動時以外には使用しないでください。

(2) エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
2. キースイッチにキーを差し込んで、ブレーキペダルをいっばいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。エンジンが始動します。



[参考]

- ブレーキペダルをいっばいに踏み込むと、駐車ブレーキは解除されます。
 - 駐車ブレーキがかかっている場合は、ブレーキペダルを踏み込まなくてもエンジンの始動ができます。
3. エンジンが始動したら、キースイッチから手を離してください。キースイッチは「入」位置に戻ります。
このとき、苗のせ台に苗がないと苗つき警報ブザーが鳴りますので、ブザー停止・警報表示スイッチを押してください。
 4. エンジンの回転状態をみながら、チョークレバーを押し込んでください。
 5. アクセルレバーを「低速」位置に戻してください。
キースイッチを「始動」位置にしても、10秒以内に始動しないとき
 - 1) キースイッチを「切」位置に戻してください。
 - 2) チョークレバーを押し込んでください。
 - 3) 1分以上経過後、キースイッチを「始動」位置にしてください。
 - 4) キースイッチを「始動」位置にして、セルモータを回しながら、チョークレバーをゆっくり操作してください。

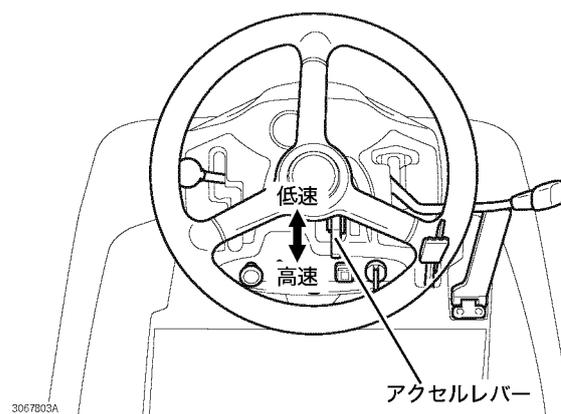
[重要]

- キースイッチは、10秒以上連続で「始動」位置にしないでください。セルモータは大電流を消費しますので、モータの焼き付きやバッテリーが損傷するおそれがあります。10秒以上「始動」位置にしていた場合は、いったんキースイッチを「切」位置にして、1分以上バッテリーを休ませてから、再始動してください。
- 外部電源での始動は、絶対にしないでください。モータの焼き付きや故障のおそれがあります。
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

3. 暖機運転のしかた**⚠ 注意**

- エンジンの排ガスは有害です。倉庫や車庫などでエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気をじゅうぶんに行ってください。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけて、主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。（45ページ参照）
2. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。



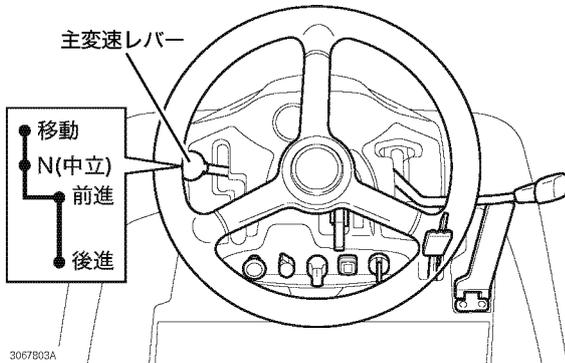
3. 約5分間は、エンジンをかけたままにしておいてください。

[重要]

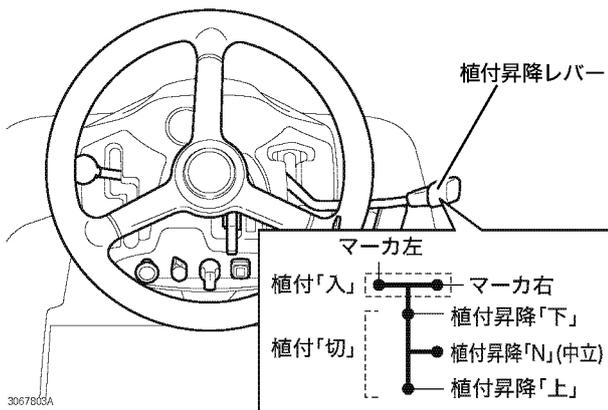
- 冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）を起こす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高速」側と「低速」側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

4. エンジンの停止のしかた

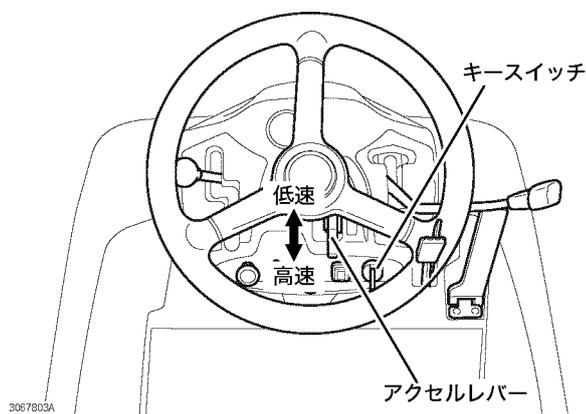
1. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



2. 植付昇降レバーを植付昇降「N」(中立)位置にしてください。



3. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
4. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。



【参考】

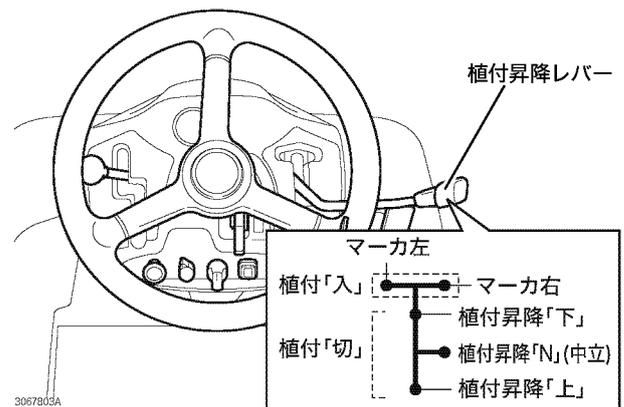
- ほ場内では植付部を上げて、植付昇降レバーを植付昇降「N」(中立)位置にし、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にして、停止してください。

5. 発進・速度調節のしかた

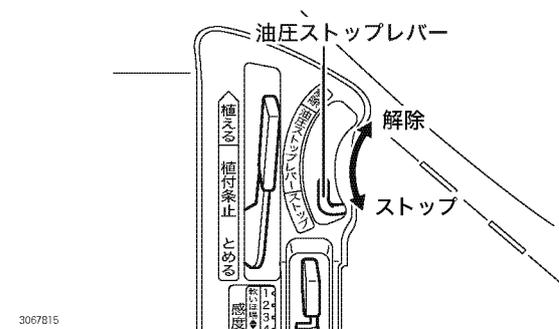
⚠ 警告

- 主変速レバーを操作の途中(中間位置)で止めないでください。また、操作はすばやく行ってください。坂道などで田植機が急に下がり出すことがあります。
- 作業中および移動時には、安全のためにヘルメットをかぶってください。

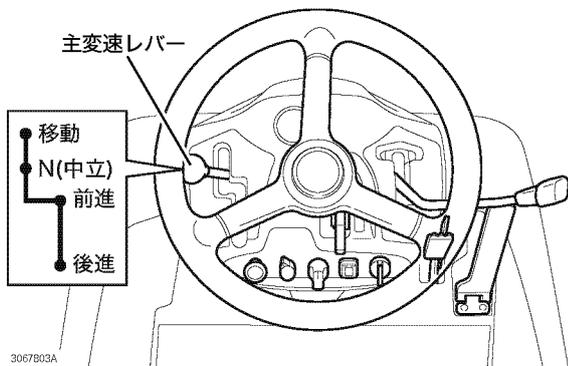
1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にして、植付昇降「N」(中立)位置にしてください。



3. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。

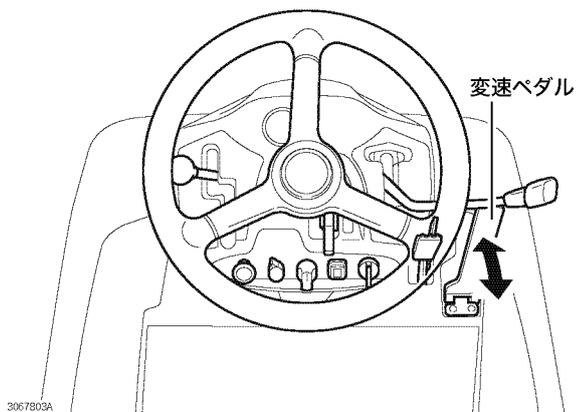


4. 主変速レバーを、作業や状況に合った位置にしてください。



【重要】

- ほ場内では、必ず「前進」および「後進」位置で使用してください。「移動」位置で使用すると、ミッションが破損するおそれがあります。
5. 駐車ブレーキを解除してください。
(45ページ参照)
6. 変速ペダルを徐々に踏み込むと、田植機が発進します。
7. 変速ペダルの踏み込み量で、走行速度が変化しますので、走行速度を調節してください。



【参考】

- 本機は、アクセル連動ペダル変速のため、基本的にはアクセルレバーの操作は必要ありません。ただし、深いほ場での作業では、変速ペダル操作中にエンストしないように、あらかじめエンジン回転を「高速」側に上げておいてください。

6. 主変速の操作のしかた

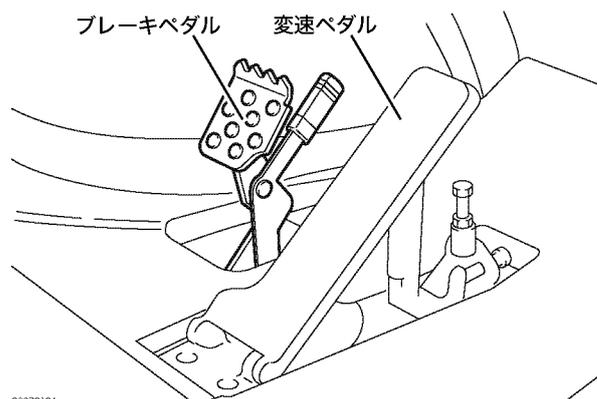
⚠ 警告

- 坂道の途中で変速する必要がある場合は、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

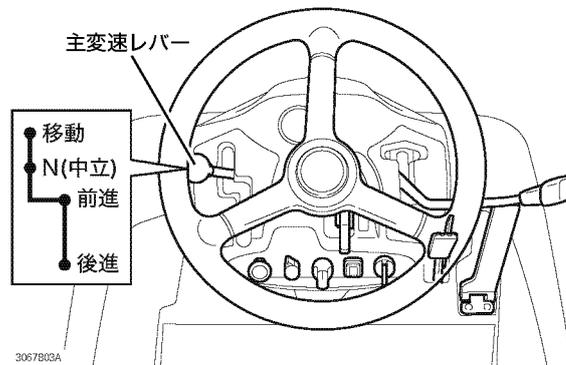
⚠ 注意

- 後進するときは、後方の安全を確認してください。

1. 変速ペダルから徐々に足を離し、機体を停止してください。



2. 主変速レバーで変速してください。



【重要】

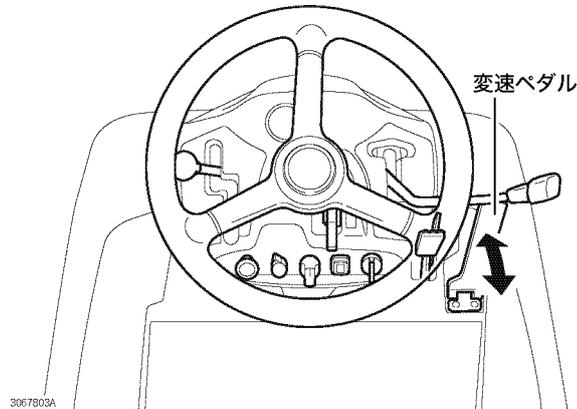
- 変速するときは、機体の停止を確認してから行ってください。停止していない状態で変速すると、ミッションが破損するおそれがあります。
- 主変速レバーの変速位置が切り替えにくい場合、ギヤの山と山のかみ合いが悪く、切り替わりにくくなっている可能性があります。無理に操作せず、変速ペダルを少し踏んでからもう一度行ってください。無理に操作すると、機械が破損する恐れがあります。

7. 旋回のしかた

警告

- 高速での移動時では、急旋回をしないでください。転倒・転落事故の原因になります。

1. 変速ペダルから徐々に足を離して、減速してください。



2. ハンドルを回して旋回してください。

【参考】

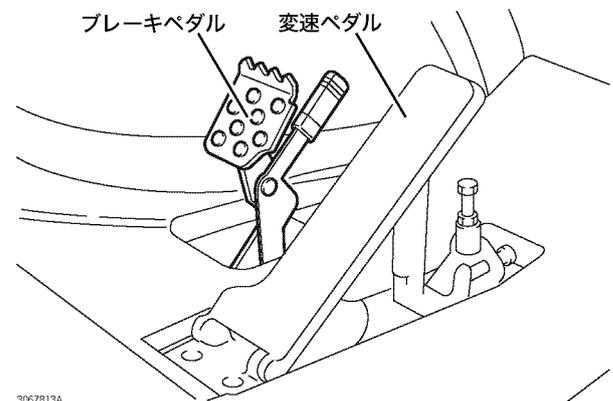
- ほ場内での旋回要領は、59ページを参照してください。

8. 停止のしかた

注意

- 機体を停止するときは、変速ペダルから徐々に足を離してください。
- 移動走行中に、ブレーキペダルを急に踏み込むと、機体が急停止することがありますので、十分注意して操作してください。

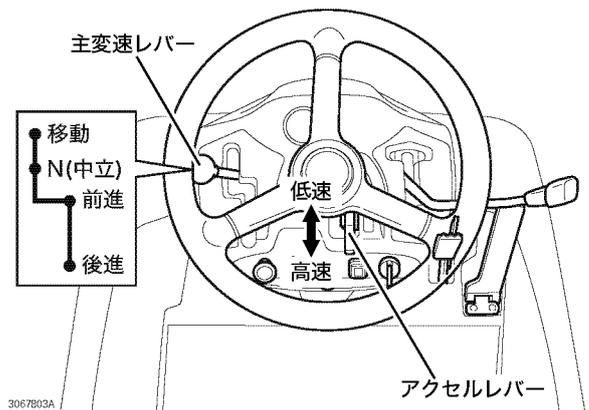
1. 変速ペダルから徐々に足を離し、機体を停止してください。



2. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
3. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。

【参考】

- エンジンがかけたまま停止する場合は、主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキをかけてください。



4. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
5. 機体が止まっていることを確認し、駐車ブレーキをかけてください。(45ページ参照)

9. 駐車のみ

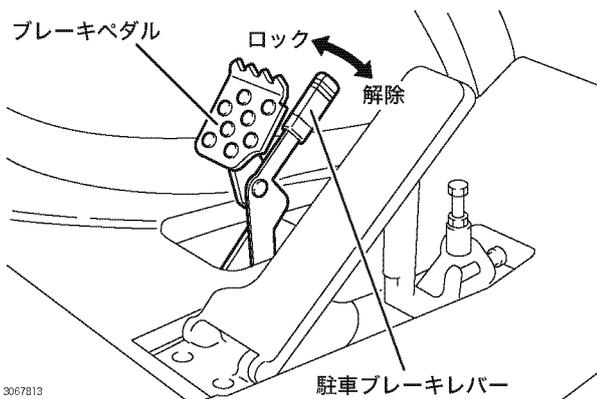
⚠ 警告

- やむを得ず傾斜地に止める場合は、主変速レバーを「前進」または「後進」位置にして、植付部を地面に降ろし、駐車ブレーキをかけて、必ず車輪止めをしてください。

⚠ 注意

- 駐車するときは、平坦で安全な場所に駐車してください。
- 機械から離れる場合は、キースイッチからキーを抜いてください。

1. 平坦で安全な場所に、機体を移動してください。
2. 変速ペダルから徐々に足を離し、機体を停止してください。
3. エンジンを停止してください。(42ページ参照)
4. ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、駐車ブレーキレバーを「ロック」位置にしてください。駐車ブレーキがかかります。



3067813

5. キースイッチからキーを抜き取ってください。

〈駐車ブレーキの解除のしかた〉

1. ブレーキペダルを軽く踏み込んでください。
2. 駐車ブレーキレバーが「ロック」位置から「解除」位置に戻り、駐車ブレーキが解除されます。

10. 移動走行のみ

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。

⚠ 警告

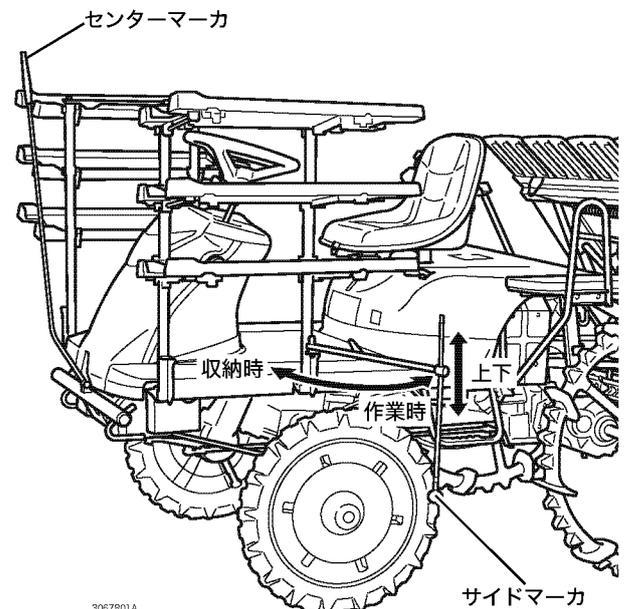
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

⚠ 注意

- 発進する前に、レバー位置や田植機が走行姿勢になっているか必ず確認してください。
- 田植機の始動や発進をするときは、周囲の安全を確認してください。

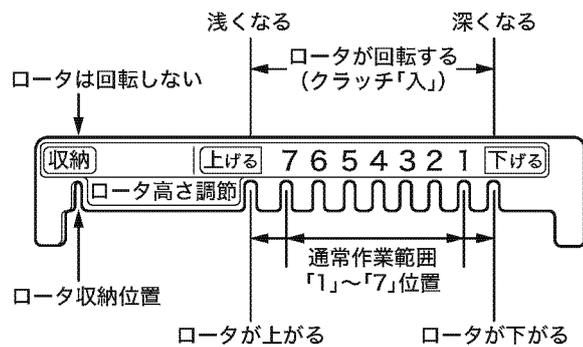
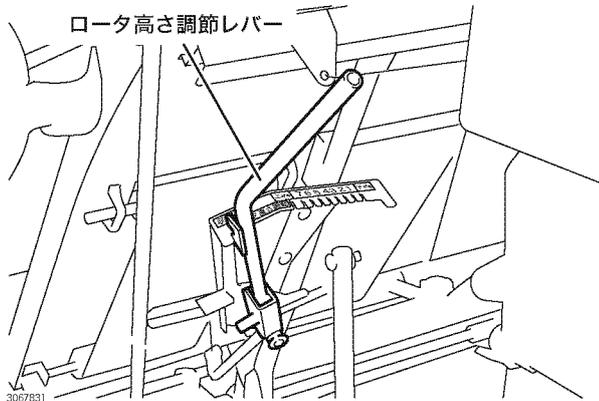
(1) 機体を走行姿勢にする

1. センターマーカを後方に収納し、サイドマーカを前方に収納してください。

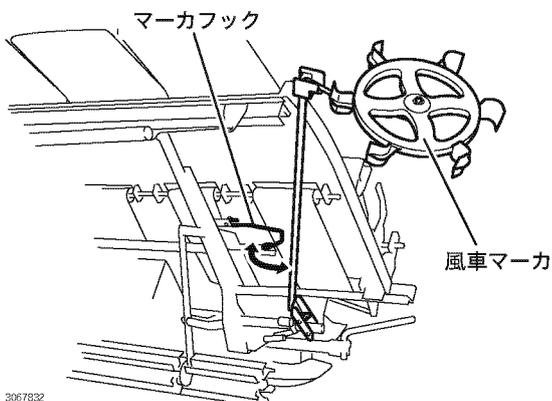


3067801A

2. Z仕様の場合は、ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして、ロータを収納してください。



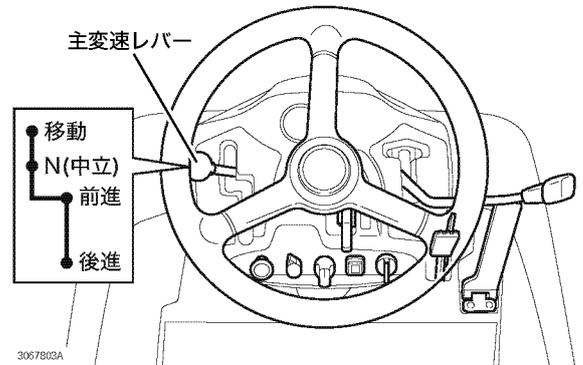
3. 風車マーカは、マーカフックに引っ掛けて固定してください。



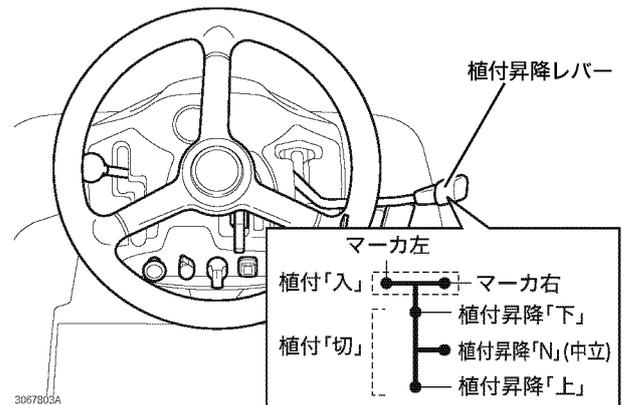
【重要】

- 風車マーカは、マーカフックに収納しても苗のせ台の外側にはみ出します。引っ掛かるおそれのある場合は、53ページの要領で風車マーカ（マーカロッド）をいったん取り外してください。

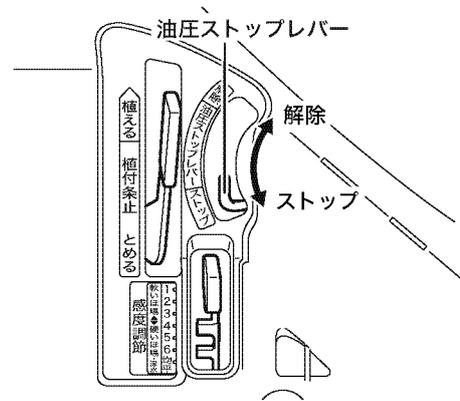
4. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



5. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
6. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にしてください。



7. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。

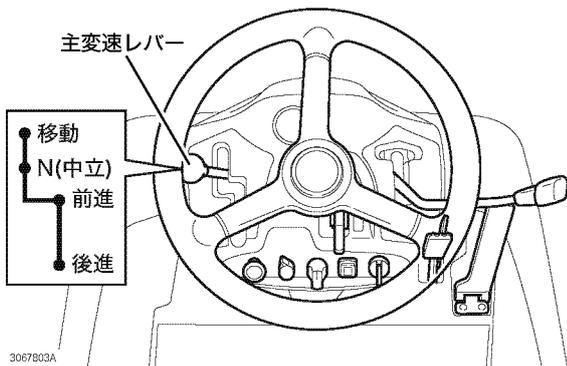


(2) 苗のせ台を、機体の中央にする

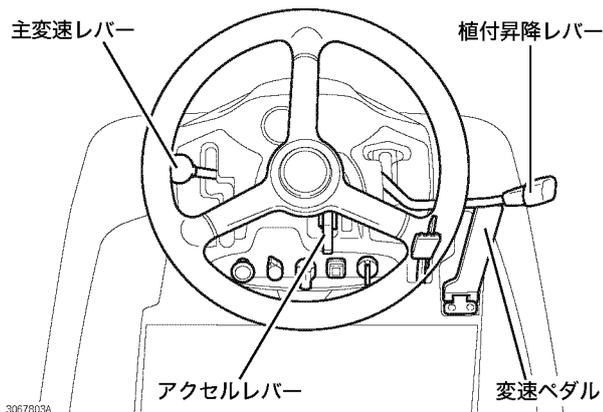
警告

- 苗のせ台を機体の中央にするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。
- 苗のせ台の左右移動は、植付部を回転させて行いますので、巻き込まれないように注意してください。
- 苗のせ台を左右移動するときは、アクセルレバーを「低速」位置にしてから行ってください。

1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。

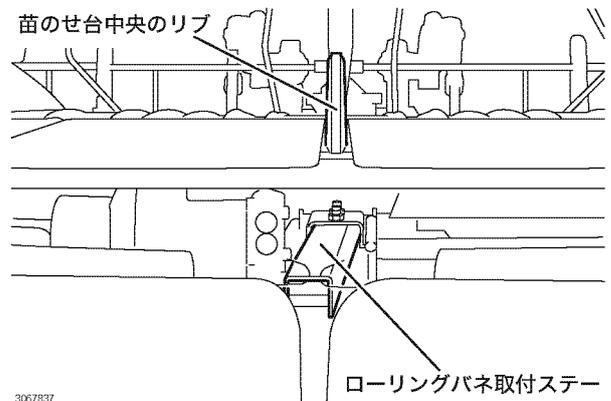


3. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にしてください。
4. 油圧ストップレバー「ストップ」位置にしてください。
5. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
6. 植付昇降レバーを植付「入」位置にしてください。
7. 変速ペダルを徐々に踏み込んでください。植付部が回転し、苗のせ台が左または右に動きます。



8. 苗のせ台が機体の中央にきたら、変速ペダルから足を離してください。植付部が止まります。
9. 植付昇降レバーを植付「切」位置にしてください。
10. 変速ペダルを徐々に踏み込んでください。植付クラッチが切れて、植付部の回転が止まります。苗のせ台の機体中央位置の目安は、下記を参考にしてください。

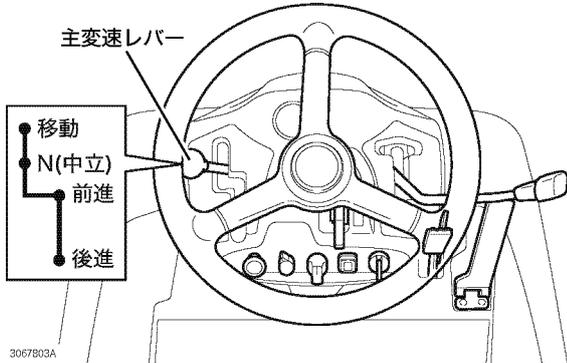
- 4条の場合…ローリングバネ取付ステーと、苗のせ台のリブ (2条目と3条目) が合う位置です。
- 5条の場合…ローリングバネ取付ステーと、苗のせ台の3条目の中央が合う位置です。
- 6条の場合…ローリングバネ取付ステーと、苗のせ台のリブ (3条目と4条目) が合う位置です。



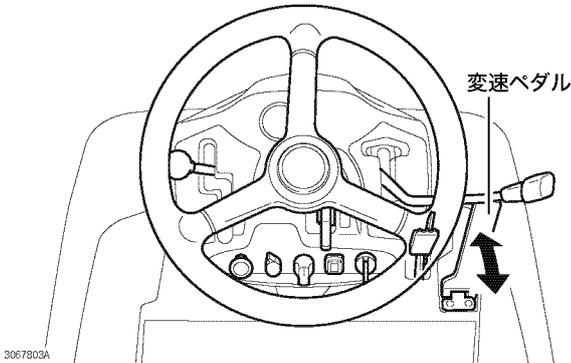
※図は、6条の場合です。

(3) 発進・走行・速度調節をする

1. 主変速レバーを「前進」または「移動」位置にしてください。



2. 駐車ブレーキを解除していることを確認してください。(45ページ参照)
3. 周囲の安全を十分に確認しながら、変速ペダルを徐々に踏み込んでください。田植機がゆっくり発進します。走行速度は、変速ペダルの踏み込み量で変化しますので、走行速度を調節してください。



【重要】

- 変速するときは、機体の停止を確認してから行ってください。停止していない状態で変速すると、ミッションが破損するおそれがあります。
- 主変速レバーの変速位置が切り替えにくい場合、ギヤの山と山のかみ合いが悪く、切り替わりにくくなっている可能性があります。無理に操作せず、変速ペダルを少し踏んでからもう一度行ってください。無理に操作すると、機械が破損する恐れがあります。

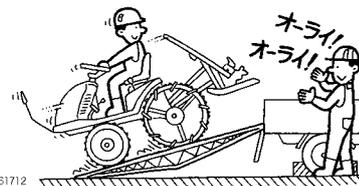
(4) 停止をする

1. 停止のしかたは、「8.停止のしかた」(44ページ参照)の記載内容に従って行ってください。

11.トラックでの運搬のしかた

⚠ 警告

- アユミ板のフックは、荷台と段差のないように確実に取り付けてください。
- 予備苗のせ台や苗のせ台に、苗や肥料、物を積んでいる状態での積み・降ろしは絶対にしないでください。機体のバランスが変わりますので大変危険です。転倒・転落事故の原因になります。
- 積み・降ろし作業は、苗のせ台を機体中央にして、植付部は最上げ位置の状態、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にして行ってください。
- 積み込みは後進、降ろすときは前進、速度は最低速で行ってください。守らないと、バランスをくずし、転倒・転落事故の原因になります。



- アユミ板の上では、進路変更をしないでください。車輪がアユミ板から外れて、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、ハンドルを大きく切らないでください。ハンドルを大きく切ると、後輪のサイドクラッチが切れ、田植機が予期せぬ動きをするおそれがあります。
- トラックに積み込んだ田植機は、主変速レバーを「前進」または「後進」位置にして、駐車ブレーキを掛け、十分な強度のあるロープでトラックに固定してください。固定が不十分ですと、田植機が荷台から落下するおそれがあります。
 - ・ 苗のせ台や予備苗のせ台などにのせてある物は、必ず降ろしてください。落下事故の原因になります。
 - ・ サイドマーカと風車マーカは収納状態、苗のせ台は機体中央にしてください。周囲の障害物との接触事故の原因になります。
 - ・ 風車マーカ(マーカロッド)を取り外してください。

(1) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅……30cm以上。
- 強度…1枚が500kgに十分耐えられるもの。
- 表面…すべらないように処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

(2) トラックの準備

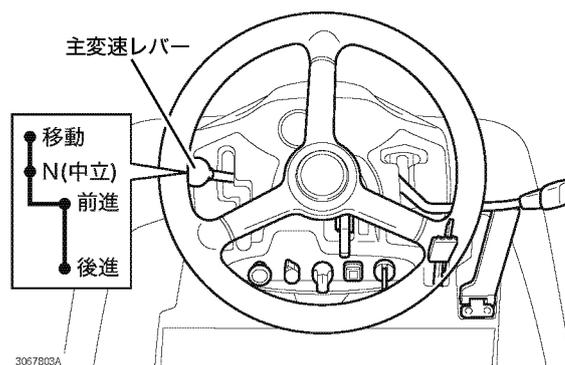
トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。

- トラックの変速は、「P」・「1速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
- トラックのタイヤに車輪止めをしてください。
- トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差がないように確実に掛けてください。

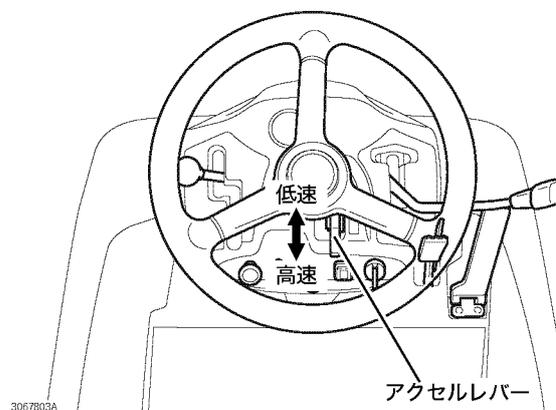
(3) 本機の積み込みかた

トラックへの積み込みは、後進で行ってください。

1. 田植機を移動走行姿勢にしてください。
(45ページ参照)
2. 苗のせ台を機体の中央にしてください。
(47ページ参照)
3. RJ6の場合は、サイドバンパー・苗取出板(レール)を折りたたんでください。(33・34ページ参照)
4. 田植機をアユミ板に近づけ、アユミ板と田植機の前後輪がまっすぐになるように、またアユミ板の中央に前後輪がくるように移動してください。
5. 主変速レバーを「後進」位置にしてください。



6. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。



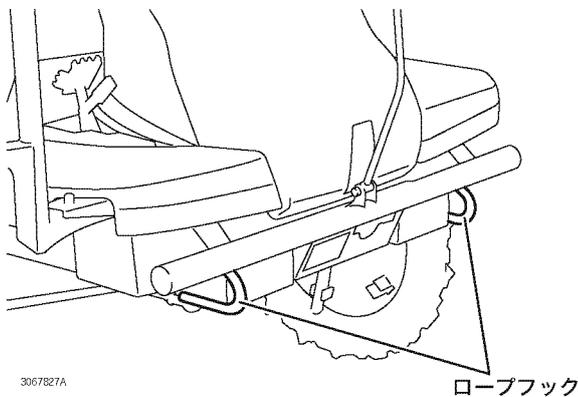
7. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、後進でゆっくり積み込んでください。

(4) トラックに積み込んだら

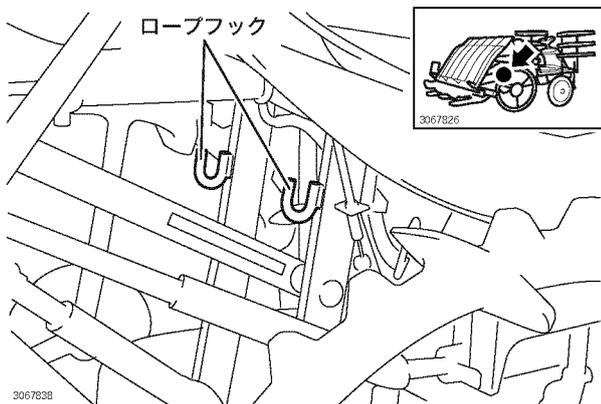
下記の要領で、トラックに固定してください。

1. 植付部は最上げ状態にして、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
2. 田植機のエンジンを停止してください。
3. 田植機の駐車ブレーキをかけてください。
4. 燃料コックレバーを「OFF」(閉)位置にしてください。
5. サイドマーカを機体前方に収納してください。
6. 風車マーカをマーカフックにかけ、マーカロッドを取り外してください。
7. ロープフック (前2か所・後2か所) にロープを掛けて、確実に固定してください。

機体前方部

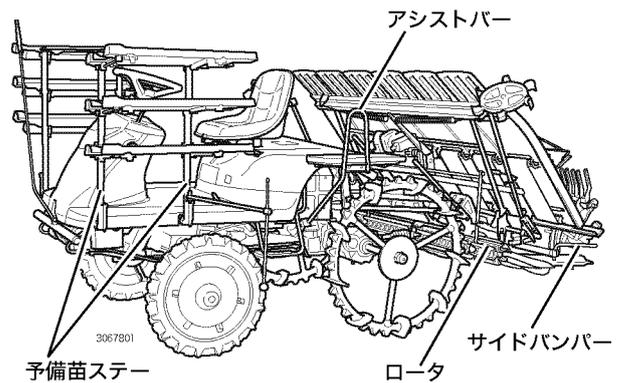


機体後方部

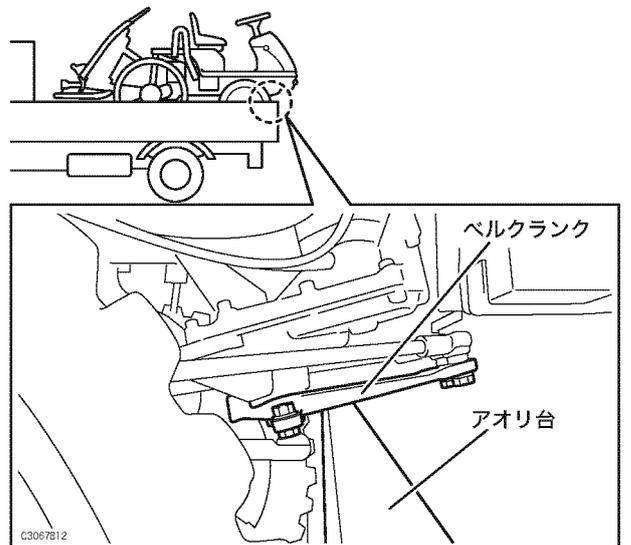


[重要]

- 植付部のサイドバンパーやアシストバー・予備苗ステーには、絶対にロープ掛けをしないでください。また、Z仕様の場合は、ロータにも絶対にロープ掛けをしないでください。変形や破損の原因になります。



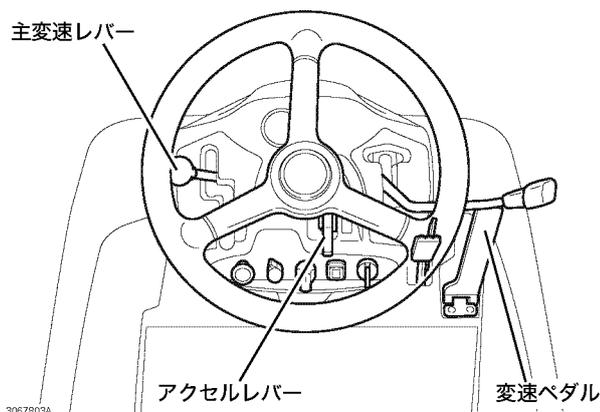
- 田植機は、後進でトラックに積み込むのが基本ですが、やむを得ず前進で積み込んで運搬する場合は、以下の点に注意してください。
 - ・ 植付部をトラックのアオリ台の上に載せないでください。機械の破損や故障の原因になります。
 - ・ 植付部は、最上げ状態にし、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
 - ・ 苗のせ台などは、風の抵抗を受けやすいので、トラックは低速で運転してください。
- 田植機を積み込んだとき、トラック荷台の後方寄りで停止すると、トラックのアオリ台と田植機のベルクランクが干渉するおそれがあり、機械の破損や故障の原因になります。田植機はトラック荷台の中央寄りに積み込んでください。



(5) 本機の降ろしかた

田植機をトラックから降ろすときは、前進で行ってください。

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
3. 主変速レバーを「前進」位置にしてください。
4. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
5. 植付部を上げてください。
6. 駐車ブレーキを解除してください。
(45ページ参照)
7. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、田植機を移動してください。田植機は、アユミ板の上で進路変更しなくてすむように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。

**(6) 積み・降ろしの途中で
エンストしたときの処置のしかた**

万一、積み・降ろしの途中でエンストしたときは、下記の要領で操作してください。

〈乗車している場合〉

1. ブレーキペダルをいっばいに踏み込んでください。
2. エンジンをアユミ板の上で再始動してください。
(39ページ参照)
3. エンジン始動後、ブレーキペダルの踏み込みを徐々にゆるめてください。
4. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、最低速で行ってください。

**12. フロントハンドルの使いかた
(RJ4のみ)****田植機から降りて操作するとき**

この田植機は乗用操作が基本です。しかし、ほ場への出入り、あぜ越え、坂道など、降りて操作した方が使いやすいと判断したときは、下記の要領で、安全に気を付けて操作してください。

⚠ 警告

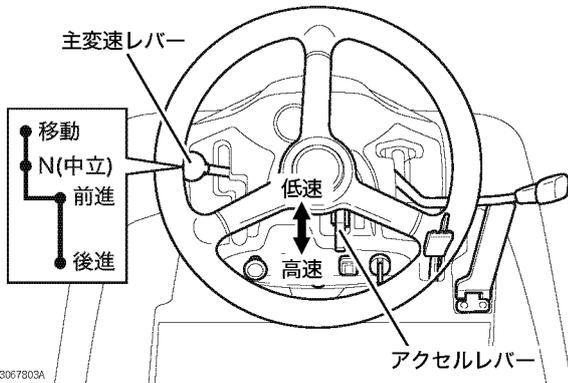
- 道路交通法により、軽トラックへの積み込みはできません。
トラックへ積み込む場合は、田植機に乗って後進で行ってください。
- 降りて操作するときは、主変速レバーを「移動」位置にしないでください。走行速度が速くなり危険です。
- あぜ越え時などで、機体前方がほ場にもぐり込むような場面では、フロントハンドルを「収納位置」にして使用してください。「作業位置」では走行レバーがほ場にもぐり込み、レバー操作ができなくなり危険です。
- 機体が左右に大きく傾くような場所での使用は危険です。あらかじめ安全を確認してから使用してください。

⚠ 注意

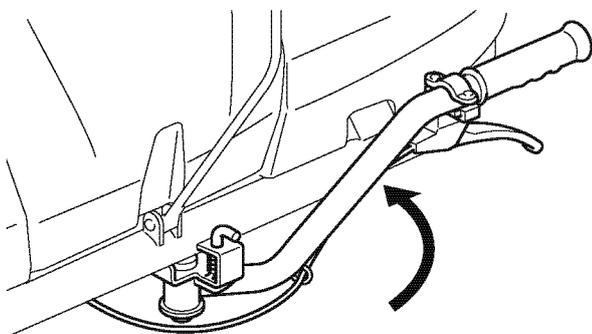
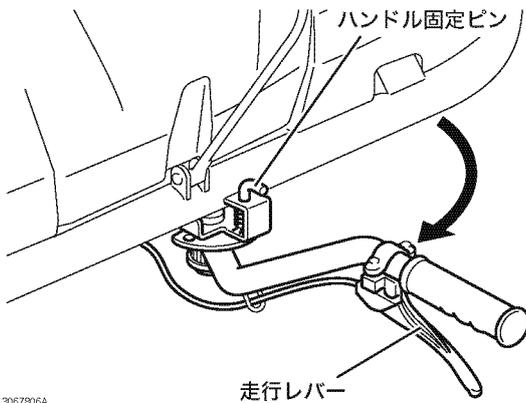
- フロントハンドル操作時は、デフロックされません。ステアリングハンドルを操作しながら、フロントハンドルで走行させてください。

1. 田植機を走行姿勢にしてください。
(45ページ参照)
2. 苗のせ台を、機体の中央にしてください。
(47ページ参照)

3. 主変速レバーを「前進」または「後進」位置にしてください。
4. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。



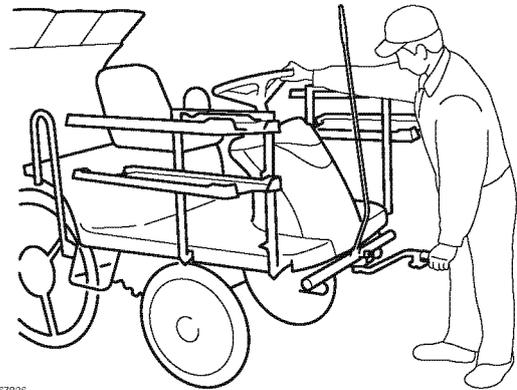
5. 田植機から降りて、フロントハンドルのハンドル固定ピンを持ち上げて「作業位置」に変更してください。



【参考】

- 降りて操作するときのフロントハンドルの位置は「作業位置」が基本ですが、「収納位置」でも操作できますので、必要に応じて変更してください。

6. フロントハンドルの走行レバーを握ってください。田植機が発進します。

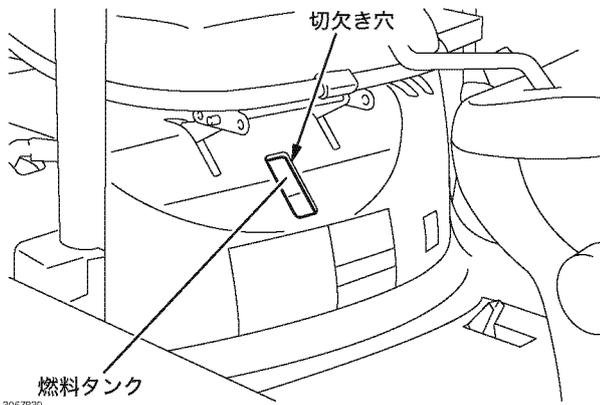


7. 田植機を停止するときは、フロントハンドルの走行レバーから手を離してください。

8章 植付作業のしかた

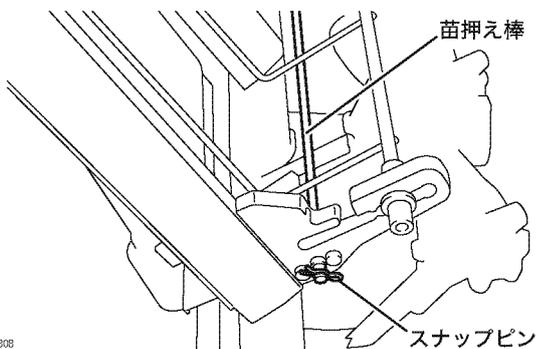
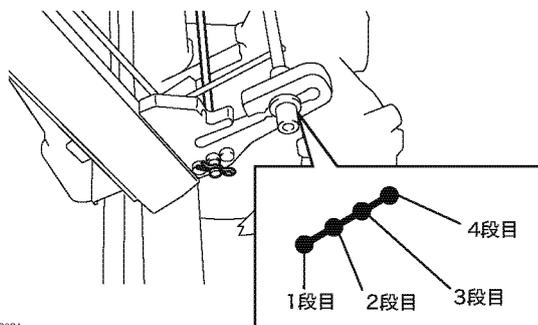
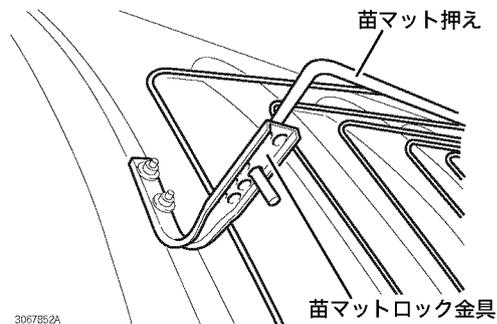
1. ほ場に入る前の準備

1. 燃料の残量を確認してください。



燃料が不足している場合は、「4.燃料の点検・補給のしかた」(88ページ参照)の要領で行ってください。

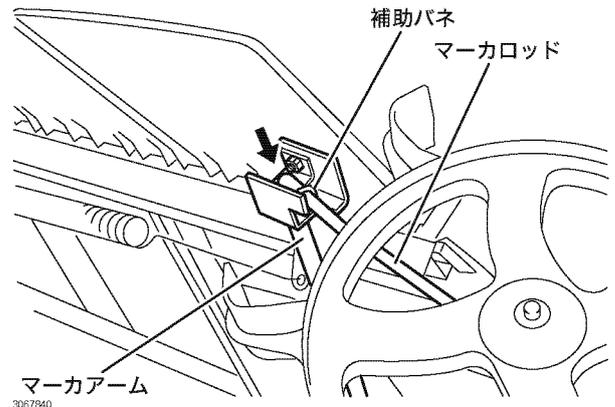
2. 苗マット押え・苗押え棒がセットされているか確認してください。



3. 風車マーカを、マーカアームに取り付け、マーカフックから外してください。

《風車マーカの取り付け・取り外しかた(作業位置)》

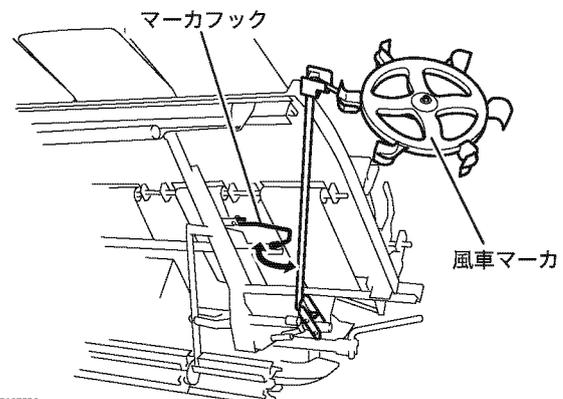
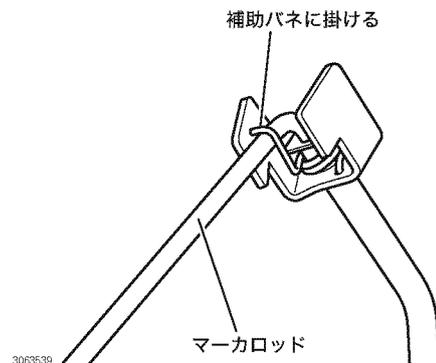
- 1) マーカアームを持って、マーカロッドを規制する補助バネを解除してください。
- 2) 補助バネをよけながら、マーカロッドを矢印方向に差し込んでください。



3) 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

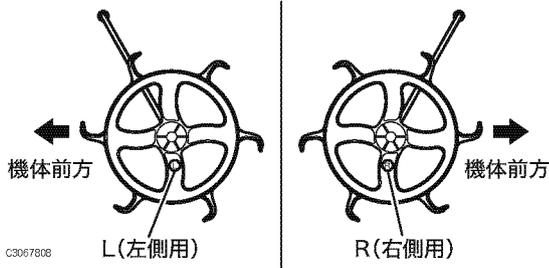
【参考】

- 取り付けるときは、マーカロッドを補助バネに掛けてください。

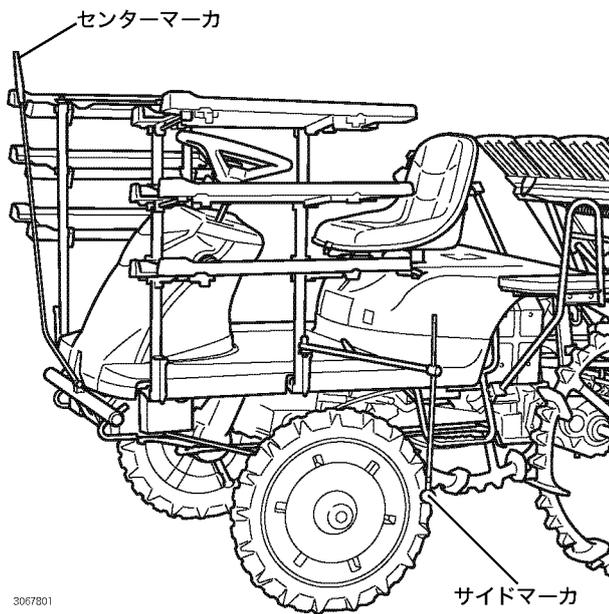


【重要】

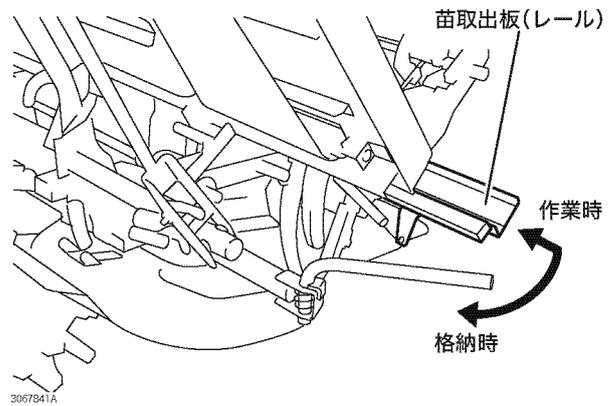
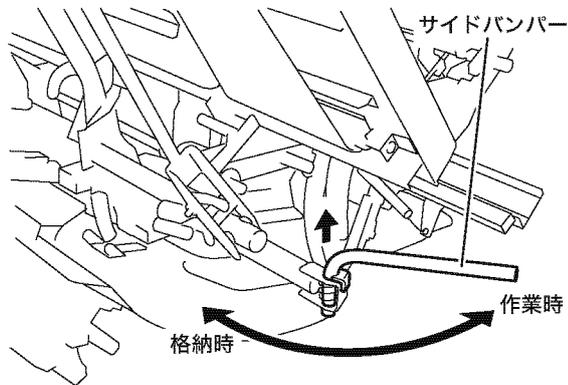
●風車マーカには左用・右用があります。左用と右用の区別は、「L」「R」の浮き出し文字で確認してください。また、「L」「R」の浮き出し文字が機体外側に向くように取り付けてください。



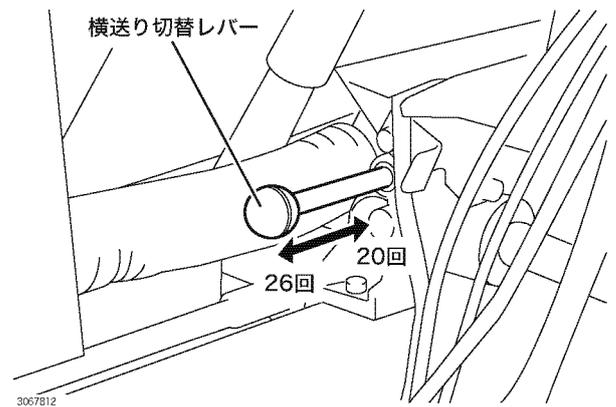
4. センターマーカを、運転席からを見やすい位置にセットして、サイドマーカを作業位置にセットしてください。



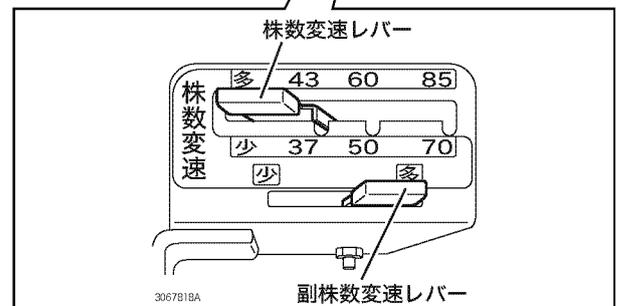
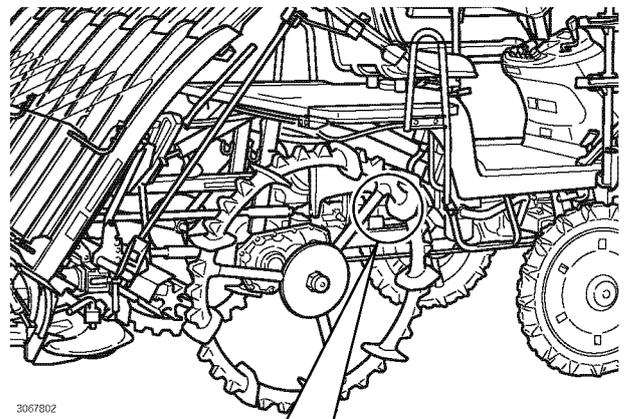
5. RJ6の場合は、サイドバンパー・苗取出板を広げてください。(33・34ページ参照)



6. 横送り切替レバーを、希望の横送り量にセットしてください。(69ページ参照)



7. 株数変速レバーを、希望の株数にセットしてください。(67ページ参照)

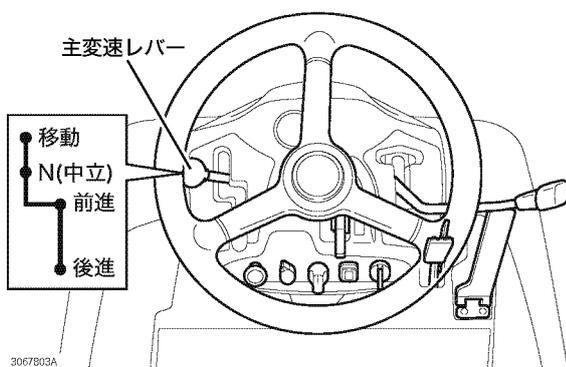


8. 苗のせ台を右端、または左端になるように寄せてください。

警告

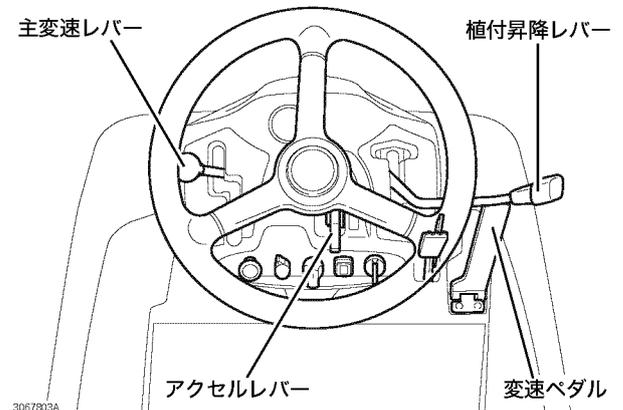
- 苗のせ台を機体の右端、または左端にするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。
- 苗のせ台の左右移動は、植付部を回転させて行いますので、巻き込まれないように注意してください。
- 苗のせ台を左右移動するときは、アクセルレバーを「低速」位置にしてから行ってください。

- 1) エンジンを始動してください。
(39ページ参照)
- 2) 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



- 3) 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にしてください。
- 4) 油圧ストップレバー「ストップ」位置にしてください。
- 5) アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
- 6) 植付昇降レバーを植付「入」位置にしてください。

- 7) 変速ペダルを徐々に踏み込んでください。植付部が回転し、苗のせ台が右または左に動きまわります。



- 8) 苗のせ台が右端、または左端になったら変速ペダルから足を離してください。植付部が止まります。
- 9) 植付昇降レバーを、植付昇降「N」(中立)位置にしてください。
- 10) 変速ペダルを徐々に踏み込んでください。植付クラッチが切れて、植付部の回転が止まります。
- 11) エンジンを停止してください。
(42ページ参照)

2. ほ場への出入り

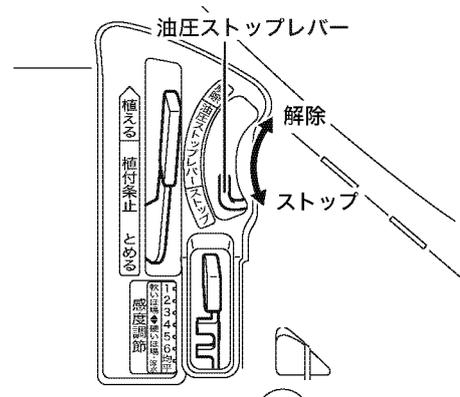
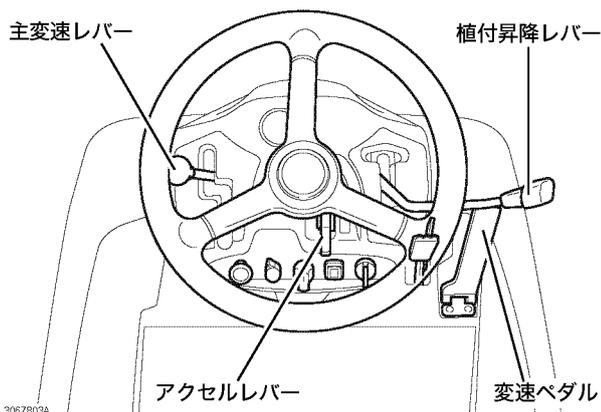
警告

- あぜとほ場の段差が大きい場合は、アユミ板を使用し、降りるときは「前進」、登るときは「後進」で行ってください。守らないと、転倒や傷害事故のおそれがあります。
- ほ場の出入り、あぜ越え、坂道や農道の走行時には、苗のせ台と予備苗のせ台の苗マットを取り除いてください。機体のバランスが悪くなって、転倒するおそれがあります。

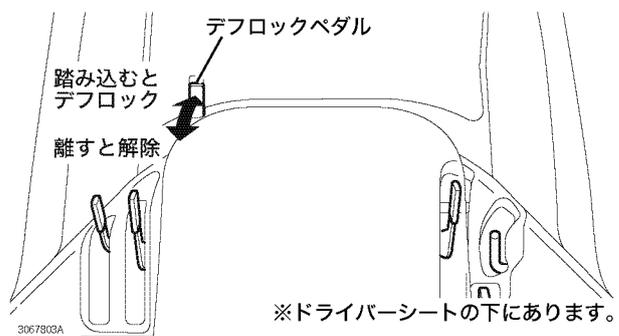
1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にし、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
3. 主変速レバーを「前進」または「後進」位置にしてください。

【重要】

- ほ場内では、主変速レバーを「移動」位置にしないでください。ミッションが破損するおそれがあります。
4. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
 5. 植付昇降レバーを、植付昇降「N」(中立)位置にしてください。
 6. 走行速度は、変速ペダルを少しだけ踏み込んで、最低速度で行ってください。



7. ほ場への出入りは、デフロックペダルを踏み込み、あぜに対して直角に出入りしてください。



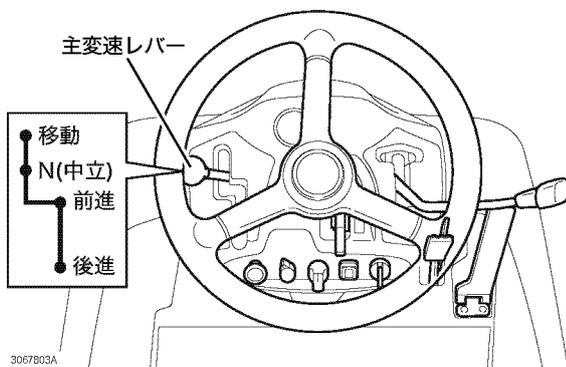
8. RJ4の場合で、田植機から降りてほ場への出入りをするときは、「12. フロントハンドルの使いかた (RJ4のみ)」(51ページ参照)の要領で行ってください。

3. ほ場に入ってからの準備

1. ほ場に入ったら、変速ペダルから足を離して田植機を停止し、主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。

【重要】

- 主変速レバーの切り替えは、田植機を完全に停止してから行ってください。停止しない状態で切り替えると、ミッションが破損するおそれがあります。

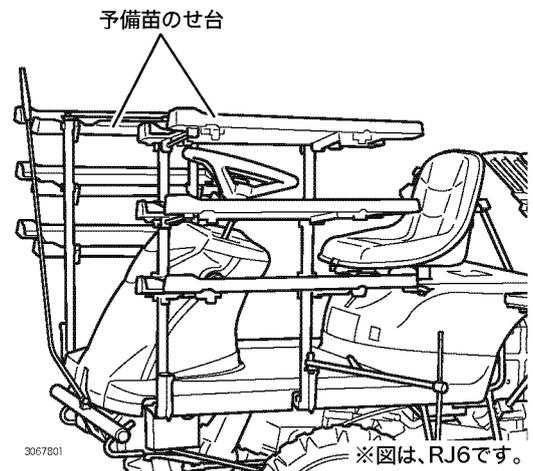


2. 苗のせ台に苗マットをのせてください。

【参考】

- 苗マット押えを解除状態にしているときは、苗つぎを行わないでください。

3. 苗つぎ後、苗マット表面と苗マット押えのすき間の確認・調節を行ってください。(70ページ参照)
4. 予備苗のせ台を広げて、予備の苗マットをのせてください。



【重要】

- ひとつの予備苗のせ台にのせられる苗マットは1枚です。2枚以上苗マットをのせないでください。機械が破損するおそれがあります。

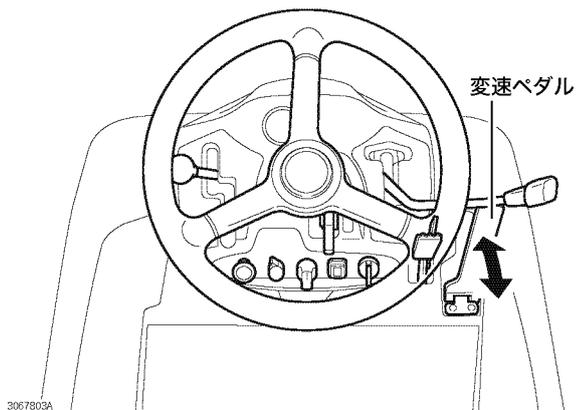
【参考】

- 予備の苗マットは、ひとつの予備苗のせ台に1枚のせられます。左右の予備苗のせ台にバランス良くのせてください。

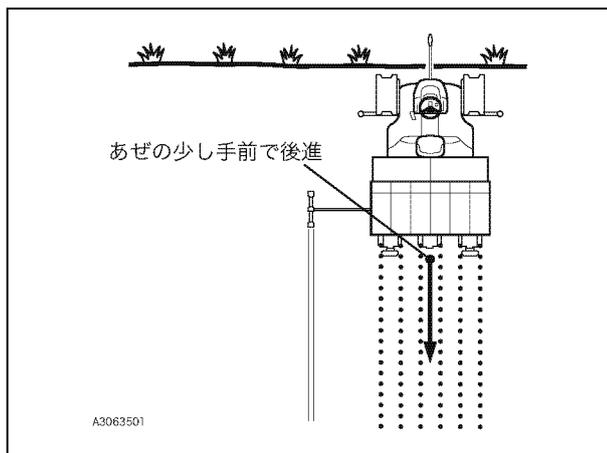
③ 旋回のしかた

〈一度後進してから旋回する場合〉

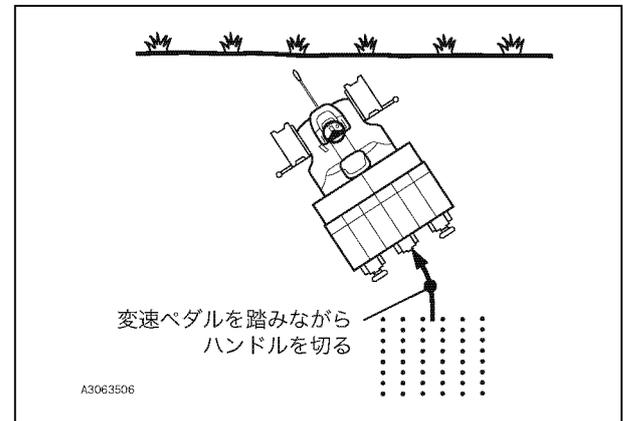
1. あぜに近づいたら、変速ペダルで減速してください。
2. 前輪があぜに当たる少し手前で、変速ペダルから足を離して停止してください。



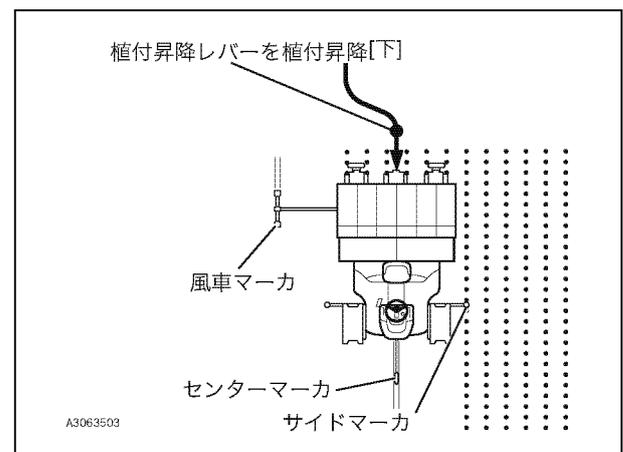
3. 主変速レバーを「後進」位置にしてください。植付部が自動的に上がります。
4. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、旋回しやすい位置までまっすぐに後進してください。



5. 主変速レバーを「前進」位置にし、変速ペダルを踏み込みながらステアリングハンドルを切り、田植機があぜに当たらないように旋回してください。



6. サイドマーカとセンターマーカで隣接条間を合わせ、機体を進行方向に真っすぐにしてください。
7. 植付昇降レバーを植付昇降「下」位置にして、植付部を降ろしてください。
8. 植え始め位置を合わせて、植付昇降レバーで風車マーカをセットしてください。(このとき、植付「入」位置になり、変速ペダルを踏み込むと植付部が駆動します。)



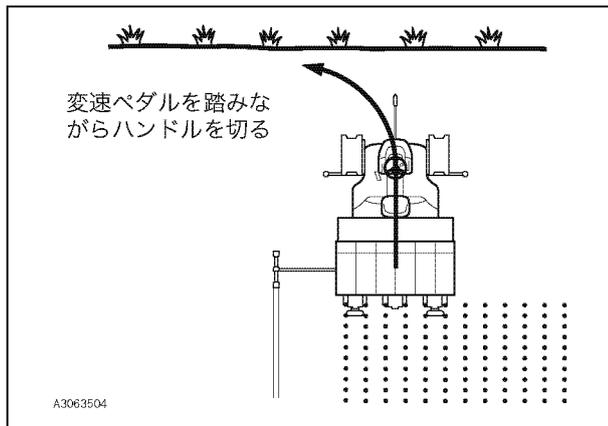
9. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、植付作業を続けてください。

【参考】

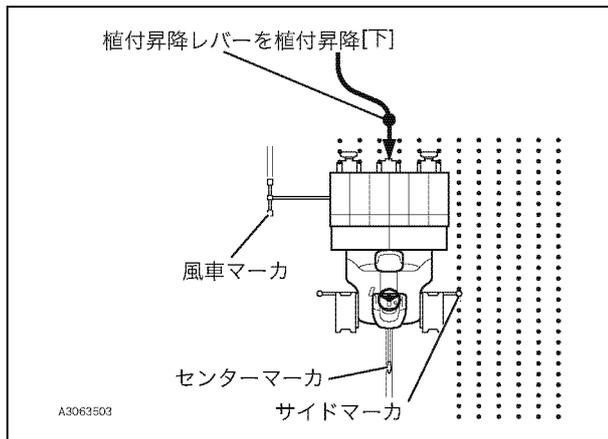
- 前輪があぜに当たる少し手前で、植付昇降レバーを「入」位置、主変速レバーを「N」（中立）位置にし、植付アームを回して1株植付けると、植え終わりがそろいやすくなります。

〈後進せずに旋回する場合〉

1. あぜに近づいたら、変速ペダルで減速してください。
2. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を上げてください。
3. 変速ペダルを踏み込みながらステアリングハンドルを切り、旋回してください。



4. サイドマーカとセンターマーカで隣接条間を合わせ、機体を進行方向に真っすぐにしてください。



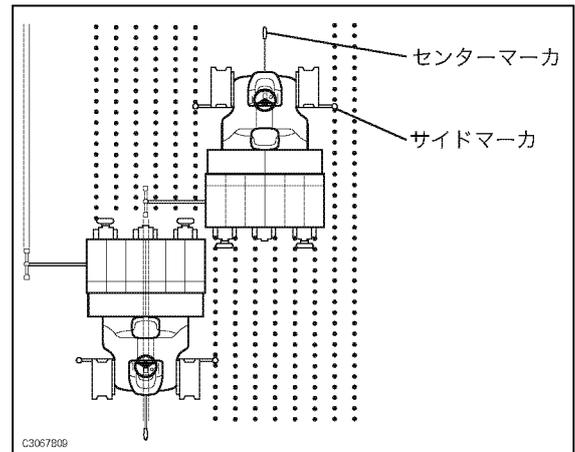
5. 植付昇降レバーを植付昇降「下」位置にして、植付部を降ろしてください。
6. 植え始め位置を合わせて、植付昇降レバーで風車マーカをセットしてください。(このとき、植付「入」位置になり、変速ペダルを踏み込むと植付部が駆動します。)
7. 変速ペダルを徐々に踏み込んで、植付作業を続けてください。

【参考】

- 後進せずに旋回する場合では、一度後進してから旋回する場合と比べて、枕地の幅が広がる傾向にあります。

④直進時の植付け

1. 前行程で風車マーカが引いた線（跡）に、センターマーカを合わせて植付けてください。
 - 1) 次行程側の風車マーカを倒してほ場に線を引き、次行程でセンターマーカをその線に合わせて進むと、直進の目安になり、隣接条間がほぼ30cmになります。



【参考】

- 水深が深すぎると、風車マーカで引いた線が見えにくくなりますので、水深を1～2cmのヒタヒタ水程度に落水してください。
- 2) 風車マーカで引いた線が見えにくいときは、植え終わった隣の苗にサイドマーカを合わせて、目安にして作業してください。隣接条間がほぼ30cmになります。

⑤ 苗つぎのしかた

⚠ 警告

● 苗つぎをするときは、必ず主変速レバーを「N」（中立・苗つぎ）位置にして、駐車ブレーキをかけてください。誤って変速ペダルを踏み込んだときに、田植機が突然動き出し、追突事故や機械にはさまれるおそれがあります。

1. 苗のせ台の苗が少なくなり、苗つぎが必要な位置まで減ると、警報ブザーが鳴ります。また、ランプが点滅します。
2. 苗が少なくなったら、以下の要領で苗つぎをしてください。

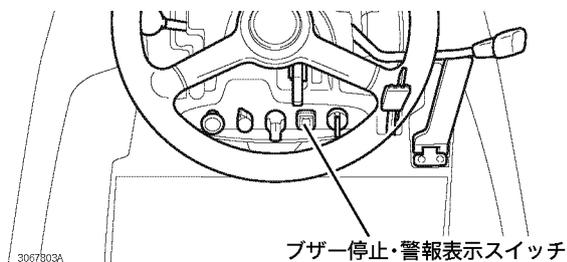
側条施肥機付きの場合は、肥料詰りや肥料が少なくなったときも肥料補給警報ブザーが鳴ります。

警報の種類	ブザーの繰り返し回数/秒	ブザー音の間隔
苗つぎ	1(ピー)	— — —
肥料詰り	連続音(ピー)	—————
肥料補給	2(ピピッ)	●●●●●●

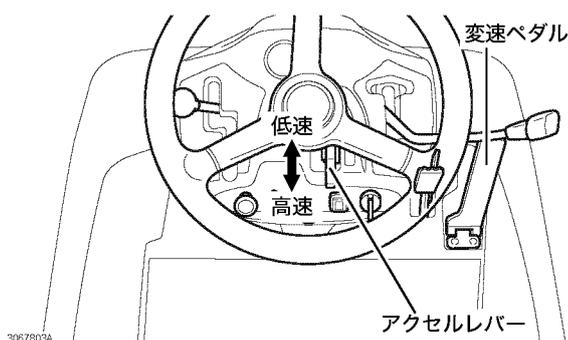
【参考】

● 肥料詰り警報と肥料補給警報は、施肥機を装着しているときに作動します。

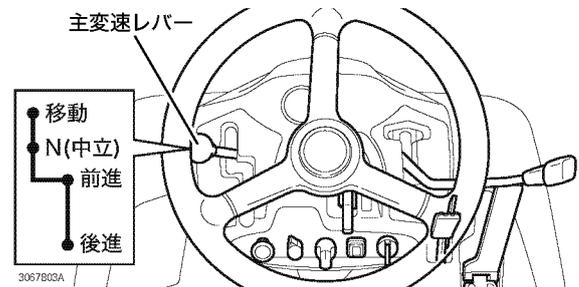
- 1) ブザー停止・警報表示スイッチを押してください。警報ブザーが鳴り止みます。



- 2) 変速ペダルから足を離し、田植機を停止してください。
- 3) アクセルレバーを「低速」位置にしてください。



- 4) 主変速レバーを「N」（中立・苗つぎ）位置にしてください。



- 5) 必要な条に、苗を補給してください。
- 6) 主変速レバーを「N」（中立・苗つぎ）位置から「前進」位置にしてください。
- 7) 変速ペダルを徐々に踏み込んでください。機体が発進し、植付作業が再開できます。

⑥ 枕地やあぜぎわの仕上げ

枕地やあぜぎわに近づいたら、最終行程で全条植えできるように、植付条止レバーまたは苗ストップを使用して、最終の一行程前で条数合わせを行ってください。

【参考】

- 植付条止レバーを「とめる」位置にすると、植付爪と苗送りベルトが止まります。また、施肥機を装着している場合は、肥料の繰り出しも止まります。
- 1条だけ条数合わせをしたいときは、苗ストップを使用してください。

1. 枕地は、あぜ側で条数合わせを行ってから、ほ場内側を全条植付けてください。

〈RJ4(4条植え)の場合〉

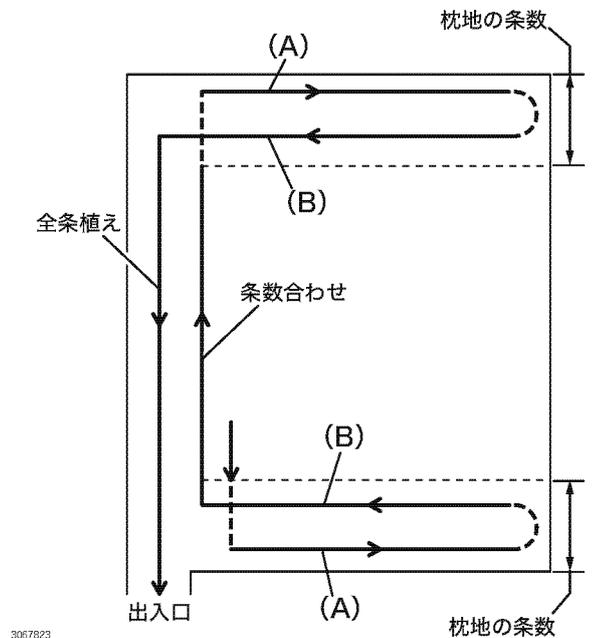
残りが6条の場合には、植付条止レバーを使って、あぜ側2条を植付けてから、ほ場内側を4条で植付けてください。

〈RJ5(5条植え)の場合〉

残りが8条の場合には、植付条止レバーを使って、あぜ側3条を植付けてから、ほ場内側を5条で植付けてください。

〈RJ6(6条植え)の場合〉

残りが8条の場合には、植付条止レバーを使って、あぜ側2条を植付けてから、ほ場内側を6条で植付けてください。



	RJ4	RJ5	RJ6
枕地の条数	6条	8条	8条
(A)行程	2条植え	3条植え	2条植え
(B)行程	4条植え (全条植え)	5条植え (全条植え)	6条植え (全条植え)

- ※ (A)行程では、植付条止レバーを使用します。
- 2. あぜぎわは、最終行程で全条植えできるように、最終の一行程前で条数合わせを行ってください。

【重要】

- 根張りが弱くずれやすい苗で、長い距離、植付条止レバーを使用していると、苗くずれの原因になります。苗ストップを使用するか、苗マットを取り除いてください。
- 植付条止レバーを戻す位置によっては、苗をかき取らずに欠株になることがあります。
- 植付条止レバーの操作は、植付部の回転が高速の状態では行わないでください。部品の破損、故障の原因になります。

- 3. Z仕様の場合は、枕地を植付けるときに、すこやかロータを使用してください。

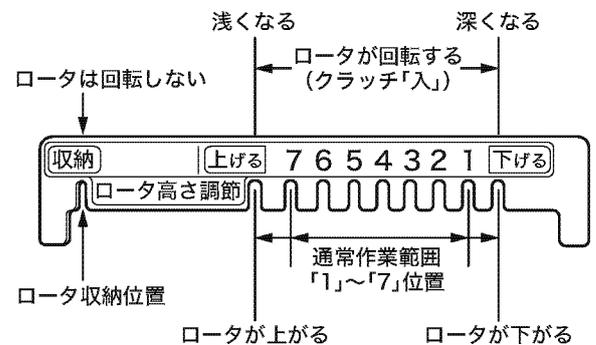
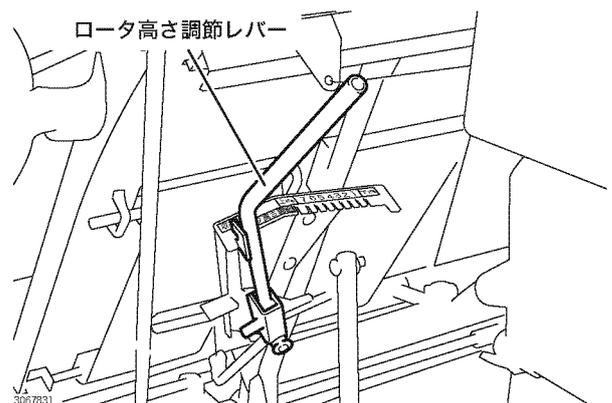
〈ロータの高さ調節のしかた(Z仕様のみ)〉

ロータは、田植作業時の旋回などで荒れた枕地の整地を行うことができます。

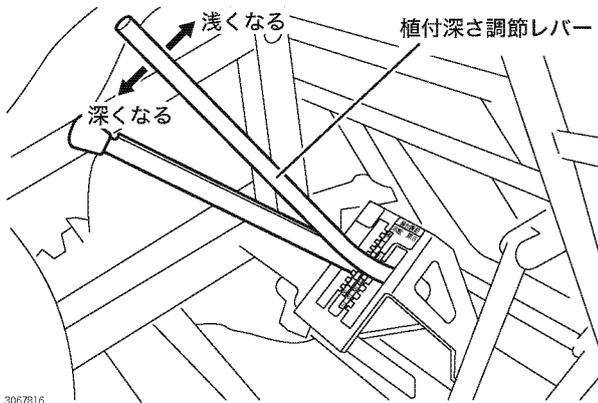
- 1) ロータ高さ調節レバーを、植付深さ調節レバーの操作銘板の番号と同じ番号に合わせて、ロータの高さを決めてください。

【参考】

- 例えば、植付深さ調節レバーを「5」位置で作業する場合は、ロータ高さ調節レバーも「5」位置に、植付深さ調節レバーを「4」位置に変更した場合は、ロータ高さ調節レバーも「4」位置に変更してください。



〈植付深さ調節部〉



【重要】

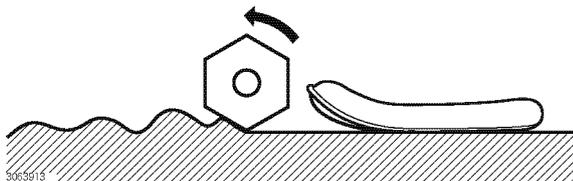
- 植付深さの調節を変更したときは、ロータ高さ調節レバーの調節も同時に変更してください。

2) ほ場の表面の仕上がり状態を見ながら、必要に応じてロータ高さ調節レバーを調節してください。

- 凹凸が残る場合…「下げる」側
- 泥押しが多い場合…「上げる」側

〈ロータ高さの目安〉

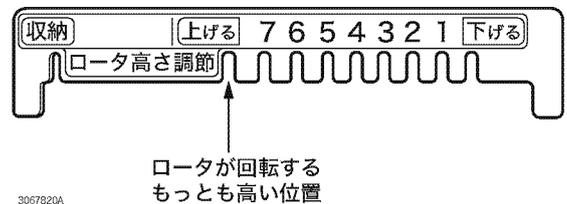
ほ場にロータの回転跡が残るくらい



【参考】

- ロータがフロートに対して深くなりすぎると、泥押しが多くなり、隣接条の苗を押し倒すことがあります。
- ロータがフロートに対して浅すぎると、整地性能が悪くなります。
- 表面が軟らかいほ場や水深のあるほ場でロータを使用すると、苗が浮いたり、流れたりすることがあります。その場合は、ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして、ロータを収納してください。

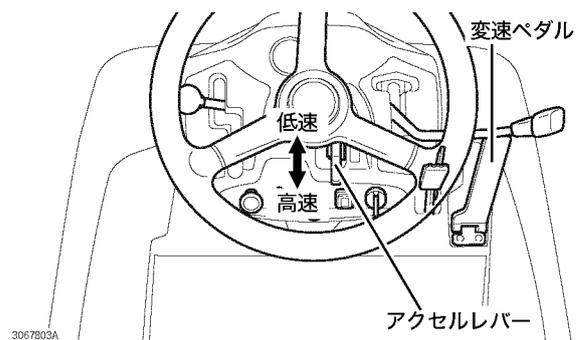
- ロータが「収納」位置でもロータで泥を押し出す場合には、「上げる」位置にして、ロータを回転させてください。



- 湿田などで本機前方が浮き上がり、整地不足となり凹凸が残る場合があります。その場合は、ロータを「下げる」側に調節するか、油圧感度を1～2段「硬いほ場」（鈍感）側に調節してください。また、別売りのフロントウエイトとウエイトステーを装着してください。

深いほ場で作業をする場合

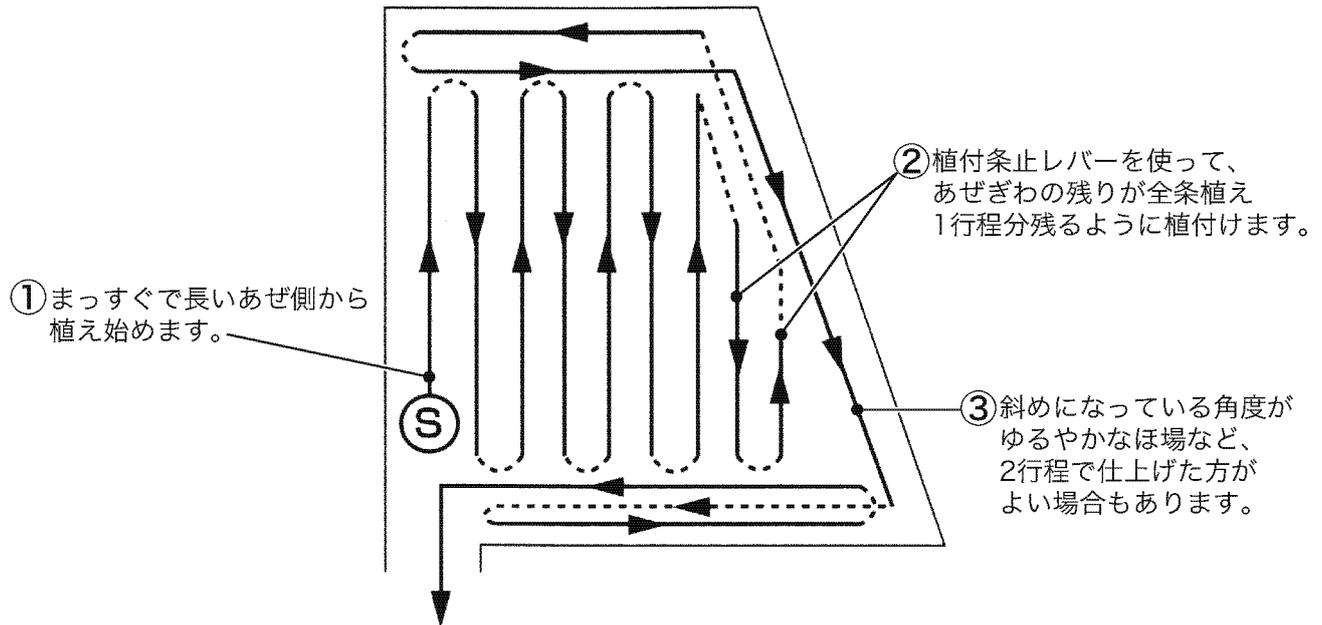
本機は、アクセル連動ペダル変速のため、基本的にはアクセルレバーの操作は必要ありません。ただし、深いほ場での作業では、変速ペダル操作中にエンストしないように、あらかじめエンジン回転を「高速」（作業時）側に上げて作業してください。



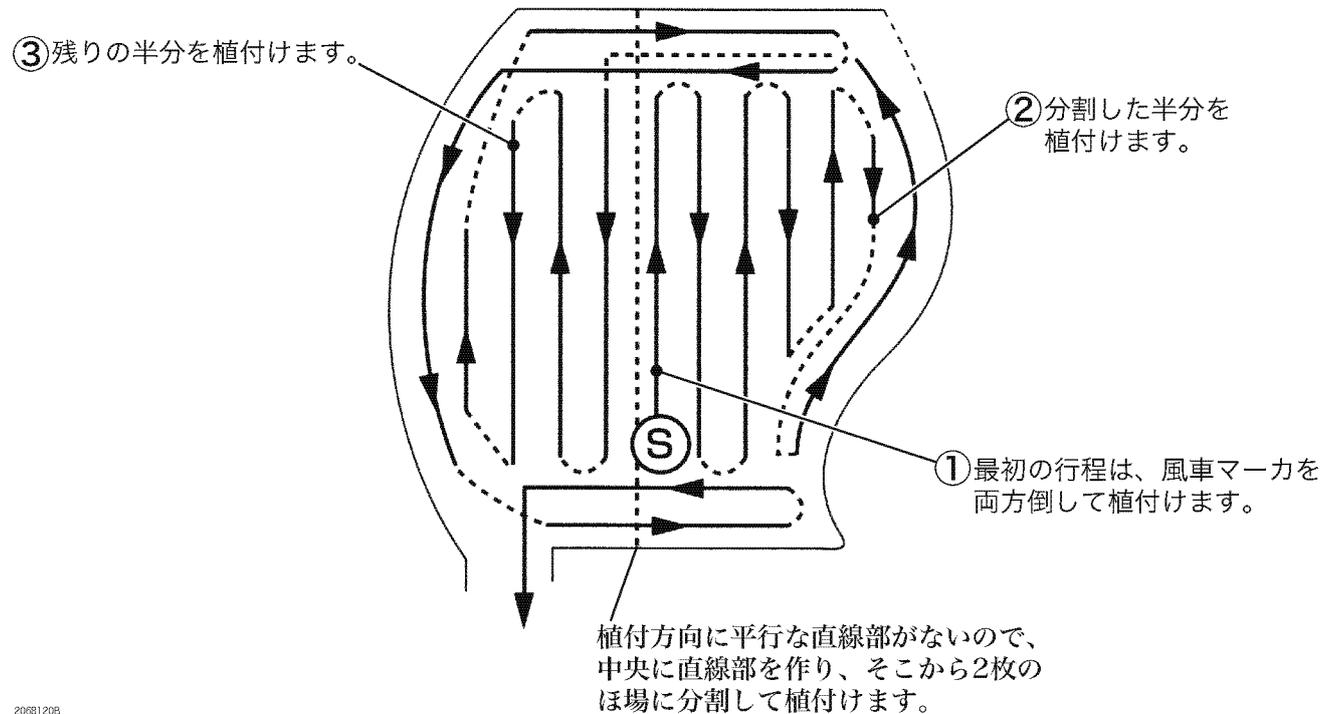
変形田の植付けかた(例)

以下は、変形田での植付けかたについて一例を示したものです。類似のほ場でも、面積や長さの違いにより様々な植付けかたが考えられます。ほ場の状況によって最適な植付方法を行ってください。

〈例1:あぜの一面が斜めの場合〉



〈例2:あぜの二面が変形している場合〉



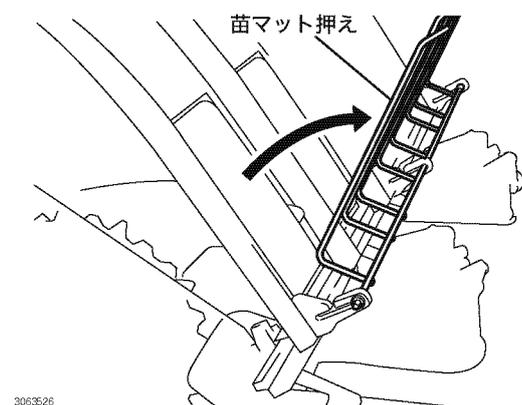
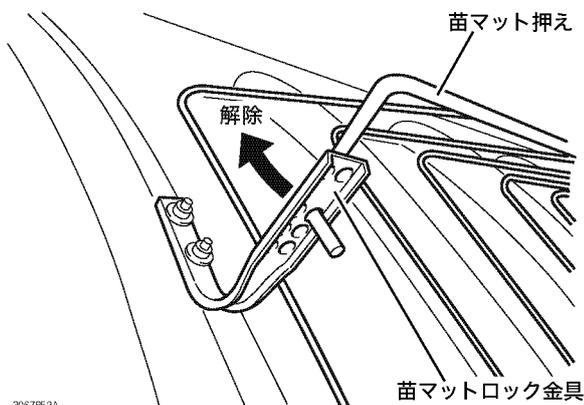
残っている苗の取り除きかた

残っている苗マットを取り除いて新しい苗マットをのせる場合は、下記の要領で行ってください。

1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 苗のせ台が右端または左端になるように、植付部を駆動してください。(55ページ参照)
3. エンジンを停止してください。(42ページ参照)
4. 残っている苗マットを取りやすい高さまで植付部を下降させ、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
5. 苗マットロック金具から苗マット押えを矢印方向に操作して、苗マット押えを解除してください。

【重要】

- 苗マット押えを解除状態で、植付部を回したり、走行したりしないでください。機械の破損やケガをする場合があります。



6. 残っている苗マットを取り除いて、苗マット押えをセットした後、新しい苗マットをのせてください。

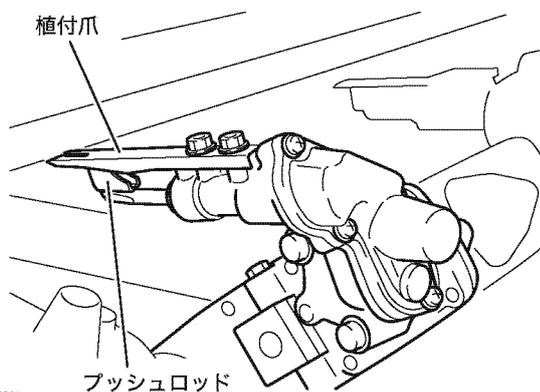


安全クラッチが作動したとき

注意

- 安全クラッチが作動したときは、直ちに植付作業を中止し、エンジンを停止してください。

安全クラッチは、植付作業中の植付爪に石などの硬い異物がはさまったときに、破損防止のために作動します。「ガッガッ」と音がしたときは、作業をすみやかに中止し、エンジンを停止してから異物を取り除いてください。



【重要】

- 植付作業前には、苗マットに異物がないか確認してください。
- 安全クラッチが作動している状態で作業を続けると、植付爪やブッシュロッドが破損したり、安全クラッチの摩耗により安全クラッチが作動しやすくなり、植付不良が起こりやすくなります。

〈異物を取り除いた後の確認〉

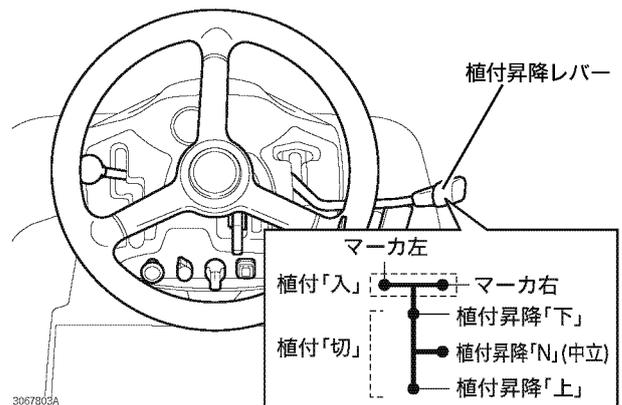
- 異物を取り除いた後は、植付爪やブッシュロッドが破損していないか確認してください。異常があれば特販店、またはJAに連絡してください。
- ロータケースを手動で1回転回して、安全クラッチの爪をかみ合わせてください。爪がかみ合うと動きが重くなります。

ロータケースの手動による回転のしかた

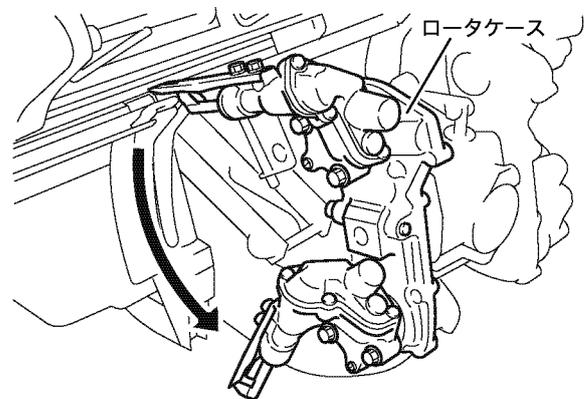
警告

- ロータケースを手動で回転させるときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータケースを手動で回転させるときは、植付爪の先などで、ケガをしないように十分注意して行ってください。
- ロータケースを手動で回転させるときは、必ず、1人作業で、ひとつずつゆっくり行ってください。

1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にしてください。
3. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
4. エンジンを停止してください。(42ページ参照)
5. 植付昇降レバーを、植付「入」位置にしてください。



6. ロータケースを順に、矢印の方向に動かしてください。



5. 苗・ほ場・作業条件に合わせた調節のしかた

植付株数の調節のしかた

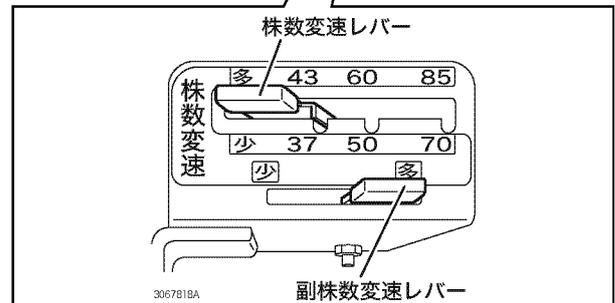
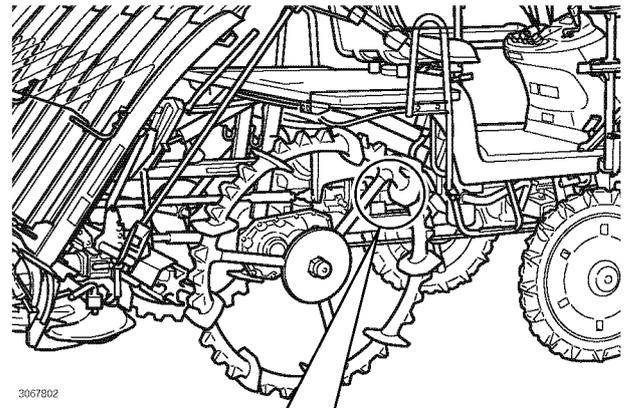
植付株数の調節は、本機右側、ドライバーシートの下にある株数変速レバーと副株数変速レバーで選んでください。

【参考】

- レバー 2本の組み合わせで、植付株数を6段階に調節することができます。
- レバーが切り替えにくいときは、エンジンをかけて、主変速レバーを「N」（中立）位置、植付昇降レバーを「N」（中立）位置にして、ブレーキペダルがロックされていない状態で、変速ペダルを軽く踏み込んでから、もう一度行ってください。

ほ場に入る前に、株数の調節を行ってください。

植付株数は、ほ場の条件などによって、数値が多少異なる場合がありますので、4～5 m進んだ後に確認して、必要であれば再調節してください。



植付株数一覧表(条間30cm仕様)

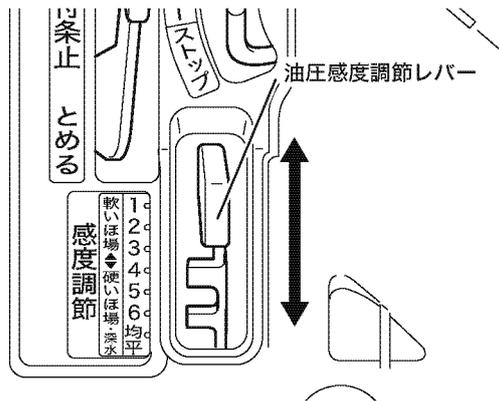
株数変速	37	43	50	60	70	85
植付株間(cm)	30	26	22	18	16	13

【参考】

- 植付株間・植付株数の数値は、スリップ率で変化しますので、目安としてください。

油圧感度の調節のしかた

ほ場の軟らかさに合わせて、フロートが適切に接地するように、油圧自動制御の感度を油圧感度調節レバーで調節してください。



3067815A

調節の目安

ほ場の状態	レバー位置
ほ場が軟らかい (フロートで泥を押し) 場合	1・2
出荷状態	3
ほ場が硬い (フロートでの均平が悪い・ フロートが接地しない) 場合 深水時	4~6
枕地など車輪跡や足跡で、 ほ場が荒れている場合	均平

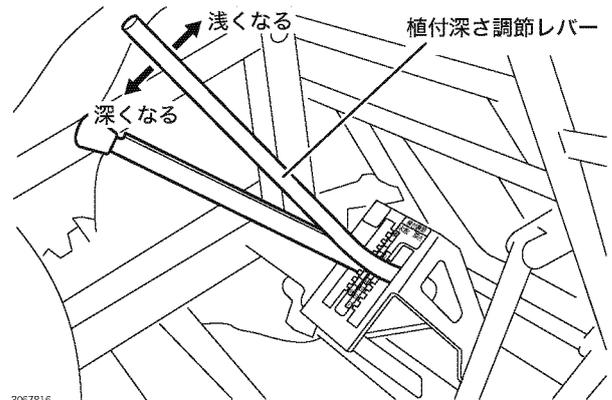
【重要】

- 油圧感度調節レバーを「軟いほ場」側にすると、植付深さが浅くなり、「硬いほ場・深水」側にすると深くなりますので、植付深さ調節レバーも同時に調節してください。
- 油圧感度調節レバーの適切な位置は、作業条件によって変わりますので、低速作業時・高速作業時の両方で必ず確認してください。浮苗や泥押しの原因になります。

植付深さの調節のしかた

植付深さは約3cmが適正です。

ほ場や苗の条件に合わせて、適正な植付深さに調節してください。作業を開始し、4~5m進んだ後に植付深さを確認し、必要に応じて調節してください。植付深さ調節レバーを「浅植」側にすると植付深さが浅くなり、「深植」側にすると深くなります。



3067816

【重要】

- 植付深さを調節するときは、植付部を上げてから行ってください。上げないと、機械を破損するおそれがあります。
- 植付深さ調節レバーの適切な位置は、作業条件によって変わりますので、低速作業時・高速作業時の両方で必ず確認してください。浮苗や泥押しの原因になります。

縦取り量の調節のしかた

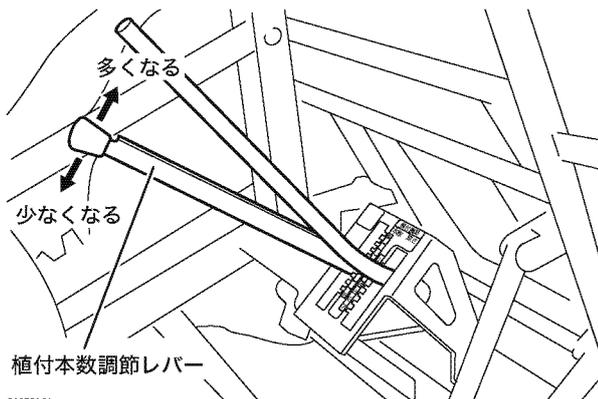
苗マットの状態や播種量に合わせて、苗の1株本数を植付本数調節レバーで調節してください。

調節範囲は、8～17mmまでの10段階ありますので、1株本数が3～4本（目安）になるように調節してください。

作業を開始し、4～5m進んだ後に植付本数を確認し、必要に応じて調節してください。

植付本数調節レバーを「多」側にすると植付本数が多くなり、「少」側にすると少なくなります。

この調節は、後述の「横送りの調節のしかた」と合わせて選択してください。



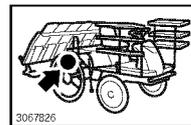
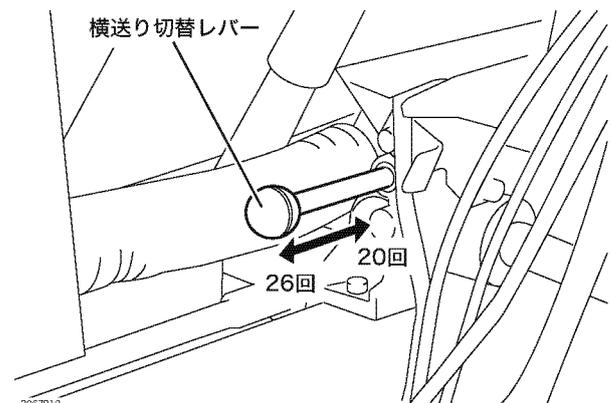
【参考】

- 株数・横送り量・縦取り量・苗マットの播種量に応じた、10a当たりの必要な箱数（苗マット数）の目安を、12章の「5. 横送り回数・縦取り量のセットのしかた」に記載しています。（132ページ参照）

横送りの調節のしかた

苗マットの状態に合わせて、1株の苗取量を苗のせ台の横送り量によって調節してください。

横送り切替レバーを押す、または引くと、横送り量が切り替わります。横送り量の切り替えは、苗のせ台の位置にかかわらず行えます。

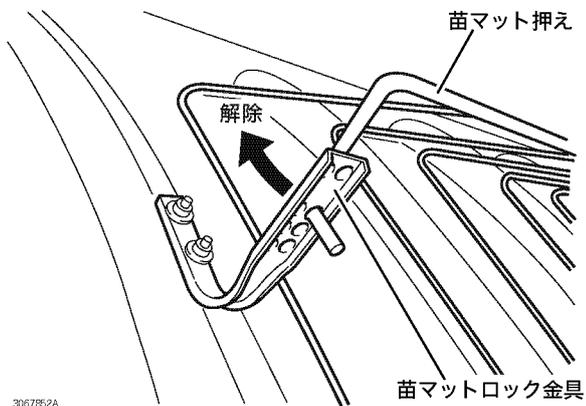


苗マット押え・苗押え棒の調節のしかた

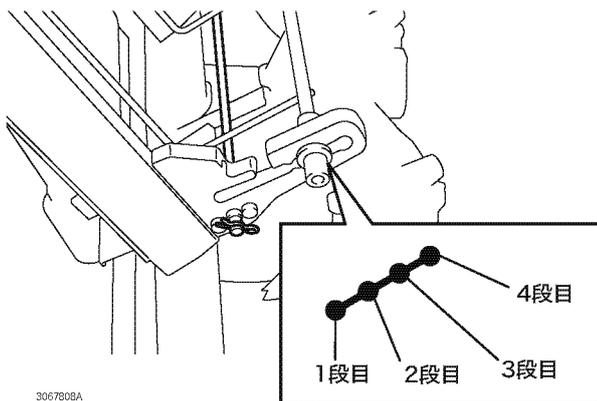
警告

- 苗押え棒・苗マット押えを調節するときは、必ずエンジンを停止し、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてから行ってください。不意に植付部が動いて、傷害事故を起こすおそれがあります。

〈苗マット押えの調節〉

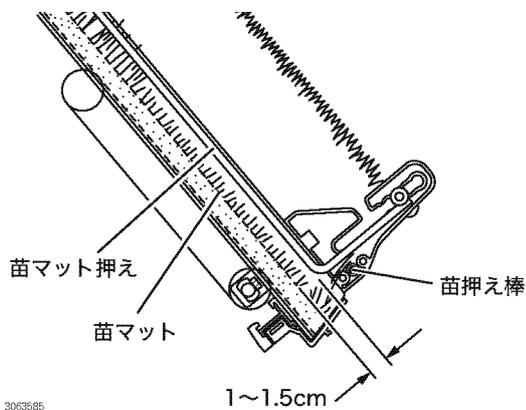


3067852A



3067808A

- 苗マット押えを、苗マットの表面から1～1.5cm程度離れるようにセットしてください。



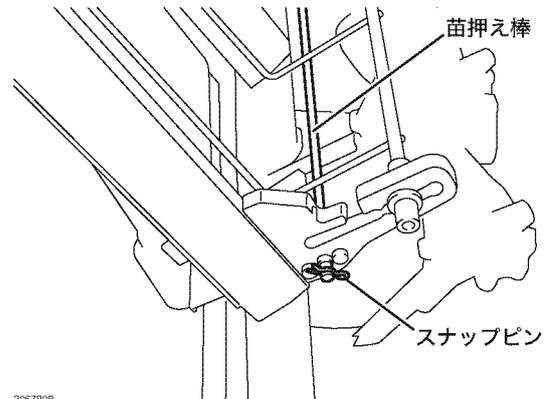
3063885

- 葉がからんで苗がすべりにくい場合は、苗マット押えを少し上げてください。

【参考】

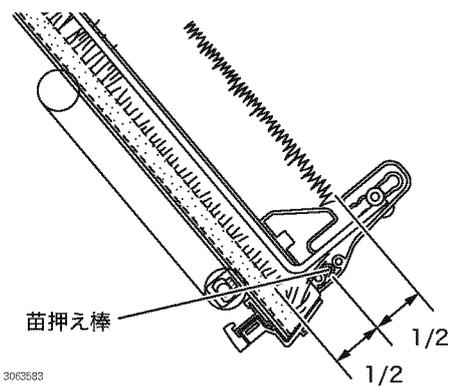
- 苗マット押えのセット位置は、苗マット表面から1～1.5cm程度が標準ですが、苗マットの条件に応じて調節してください。

〈苗押え棒の調節〉



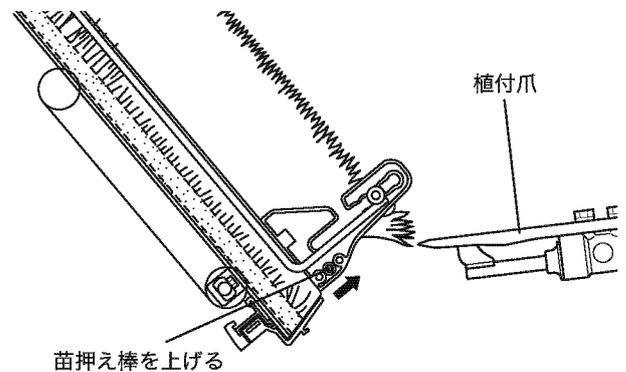
3067808

- 苗押え棒は、通常、苗丈が約半分のところにくるようにセットしてください。



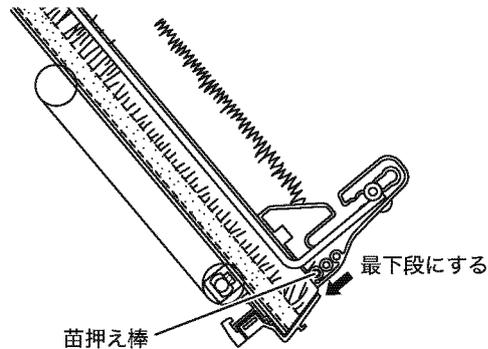
3063883

- 苗が軟弱徒長苗で、葉先がたれ下がるような場合は、葉先が植付爪にあたらないように、苗押え棒を上げてください。



3067407

- 草丈が短い（約12cm以下）場合には、苗押え棒を最下段にセットしてください。



【参考】

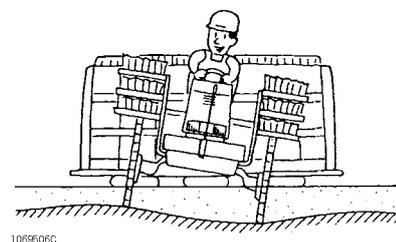
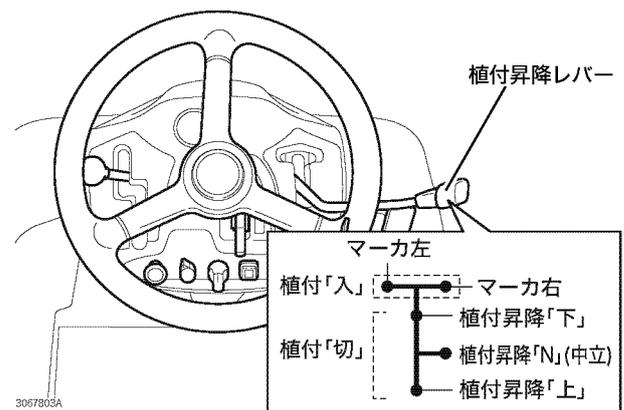
- 苗マット押えが苗のせ台と平行になっているか確認してください。
- 苗つぎ警報が鳴ったら、苗がめくれているか、苗取出口までセットされていません。苗マット押えの調節を確認してください。

6. ナイスティUFO装置の基本的な使いかた(U仕様のみ)

植付昇降レバーを植付昇降「下」位置にすると、植付部の水平制御（UFO）が「入」（自動）になり水平制御が働きます。耕盤の凸凹により機体が傾いても、植付部は常に水平に保たれます。

通常の田植作業時

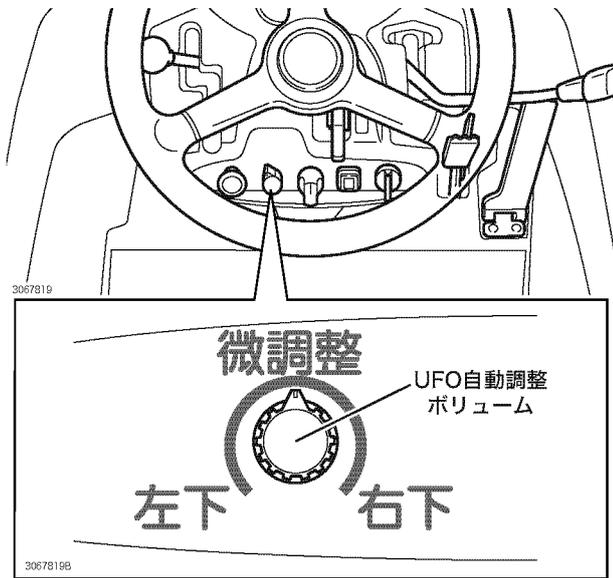
1. 植付昇降レバーが、植付昇降「下」位置から植付「入」位置までの範囲にあるときにUFO装置が作動します。



【参考】

- 植付昇降レバーが植付昇降「N」（中立）位置、または「上」位置にすると、植付部は機体と水平になります。

2. UFO自動調整ボリュームを回して、植付部と地面が水平になる位置にしてください。

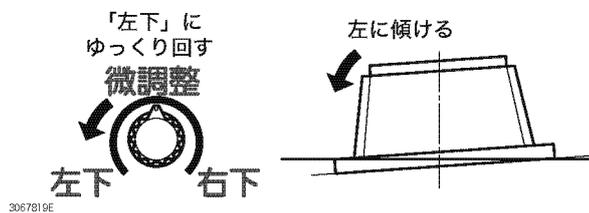


植付部の傾きの調節のしかた

植付作業時に植付部を、少し左または右に傾けたい場合は、下記の要領で植付部を傾けてください。

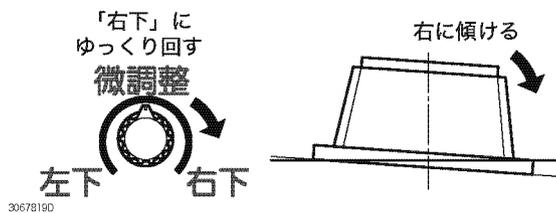
〈植付部を少し左に傾けたいとき〉

UFO自動調整ボリュームを「左下」側に回してください。



〈植付部を少し右に傾けたいとき〉

UFO自動調整ボリュームを「右下」側に回してください。

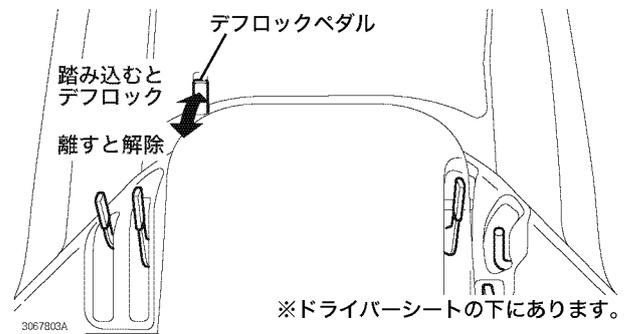


7. 機体が沈下したときの脱出のしかた

沈下の状態に合わせて、以下のいずれかの方法で脱出してください。

(1) 前進中に後輪が沈下を始める場合

植付部を下げたまま、デフロックペダルを踏み込み、低速で直進してください。



【重要】

- ステアリングハンドルを切ると余計に沈下します。また後進しても、前輪が沈下する可能性が大きくなります。
- 機体重量を軽くするため、予備苗のせ台、苗のせ台の苗マットを降ろしてください。
- 発進時は、変速ペダルを徐々に踏み込んでください。急に踏み込むと、エンジンが止まる場合があります。
- 完全に自力脱出が不可能な場合は、ロープフックにロープを掛けて、トラクターなどでゆっくりけん引しながら、田植機はエンジンをかけて車輪をゆっくり駆動させ、進行方向に対してまっすぐに引き上げ、前進させてください。本機が変形・破損するおそれがあります。

(2) 後進中に前輪が沈下する場合

- 予備苗のせいの苗マットを降ろし、前を軽くしてください。
- 低速で後進してください。

(3) 旋回中に沈下する場合

前輪の片側だけが回転して旋回しにくいときは、デフロックペダルを踏み込んで、できる限り低速で、大きく旋回してください。(ハンドルをいっぱいに切ると、後輪の片側の動力が切れ、駆動力が半減します。)それでも旋回できない場合は、旋回操作を中止し、ステアリングハンドルをまっすぐ(直進状態)にして、デフロックペダルを踏み込み、脱出してください。

【重要】

- 沈下から自力脱出するときは、木材などを前後車輪のスポークの間に差し込んで、引っ張らないでください。機械を破損させる原因になります。
- 沈下から自力脱出するときは、木材などを前輪の下に敷き込まないでください。機械を破損させる原因になります。

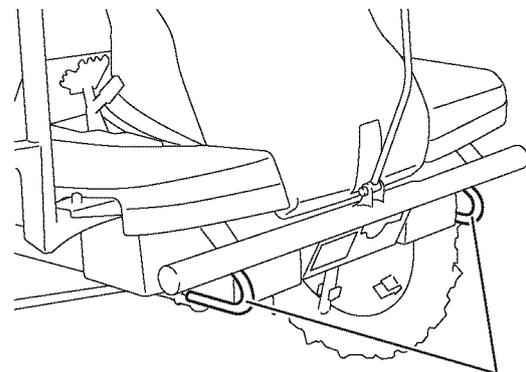
【参考】

- 沈下しやすいほ場でも、補助車輪を装着すると走行できるようになる場合があります。特販店、またはJAに相談してください。

(4) 田植機のけん引のしかた

田植機がほ場の中で沈下し、脱出のために田植機をけん引する場合は、以下の要領で行ってください。

1. 機体前方のロープフックにロープを掛けてください。



3067927A

ロープフック

2. ドライバーシートに座って、キースイッチを「入」位置にし、変速ペダルを踏み込んでいる状態でけん引してください。

【参考】

- キースイッチを「入」位置にして、変速ペダルを踏み込まないと、ブレーキが効いた状態になっています。
- キースイッチを「入」位置にして、変速ペダルを踏み込んだまま、キースイッチを「切」位置にするとブレーキが解除されます。このとき、変速ペダルから足を離してもブレーキは解除されています。

【重要】

- けん引するときは、必ず2人(田植機に乗車する人、田植機をけん引する人)で行ってください。
- ロープフック以外の場所にロープを掛けて、田植機をけん引しないでください。変形・破損・故障の原因になります。
- 田植機をけん引する場合は、進行方向に対して真っすぐに引き上げ、田植機自体も変速ペダルを踏んで駆動してください。本機が変形・破損するおそれがあります。

⚠ 危険

- 燃料抜き取り時は、火気を近づけないでください。

⚠ 警告

- ボンネット・フロアの取り外し・取り付けを行うときは、エンジン停止後、エンジンがじゅうぶんに冷えていることを確認してから行ってください。
ヤケドをするおそれがあります。
- 田植機にシートを掛けるときは、エンジンなど過熱部分がじゅうぶんに冷えてから行ってください。過熱した状態でシートを掛けると、シートに引火して火災を起すおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。外したままで運転するとケガをするおそれがあります。
- 植付部を上げて植付爪やロータなどの点検・整備をするときは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。さらに、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にして、植付部を台などで支えて、落下を防止してください。

1. 機体の洗浄のしかた

作業後、その日の内に水洗いし、回転部などに巻き付いたゴミなどをきれいに除去した後、水分をよくふき取ってください。次に、回転部・摺動部にたっぷり油をさし、サビやすい所にはグリスを塗ってください。また、Z仕様の場合はロータに異物がはさまっていたり、巻き付いているときは取り除いてください。

⚠ 注意

- 植付部を回しながら洗浄をした後は、必ず変速ペダル固定フックをフック収納位置に戻してください。田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。

【重要】

- スイッチ・センサなどの電装品や、エアクリナー・エンジンには、水をかけないでください。故障の原因になります。
- Z仕様の場合は、ロータとロータ上部のカバーとの間に泥が付着していると、泥が固まりロータが動かなくなるおそれがあります。洗車のときは必ず泥を落としてください。
- 洗浄後は、注油箇所に必ず注油をしてください。注油をしないと、次に使用するとき、機械がスムーズに、正確に作動しなくなることがあります。
- 回転部に巻き付いているゴミやワラなどは取り除いてください。オイルシールやベアリング・車軸などの早期破損の原因になります。
- 機械の洗浄は、平坦で安定した場所で行ってください。



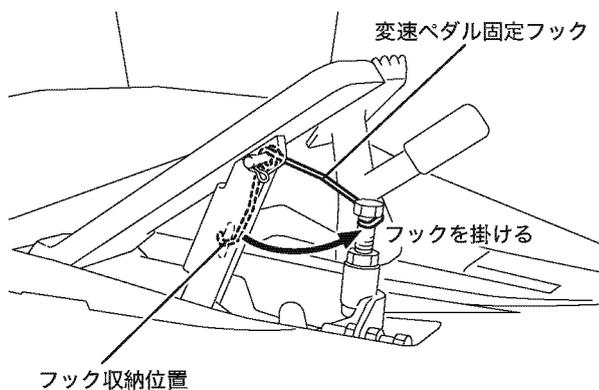
2061638A

植付部を回しながらの洗浄のしかた

警告

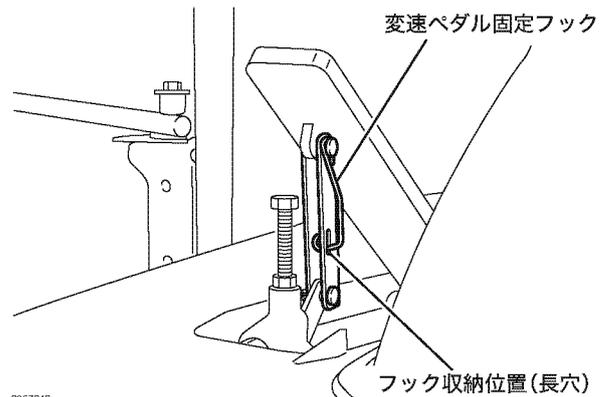
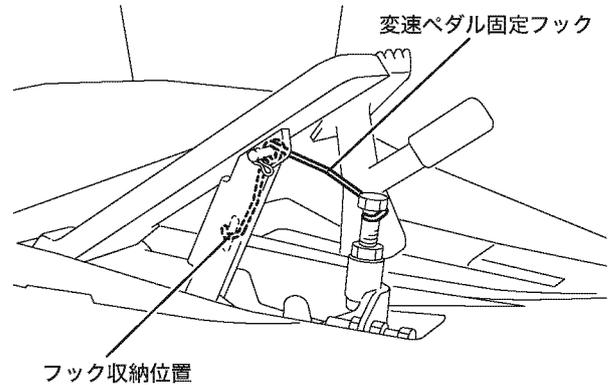
- 変速ペダル固定フックは、植付部を回しながら洗浄するときのみ使用してください。
- 植付部を洗浄するときは、ホースなどで水をかけるようにしてください。ブラシなどで直接洗浄することは絶対に行わないでください。ケガをするおそれがあります。
- 変速ペダル固定フックを、フック収納位置に戻した後は、変速ペダルを踏まなければ、機体が進まないことを必ず確認してください。田植機が突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。

1. エンジンを始動してください。(39ページ参照)
2. 駐車ブレーキを解除してください。
3. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。
4. 植付昇降レバーを植付昇降「上」位置にして、植付部を最上げ位置にしてください。
5. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
6. アクセルレバーを「低速」位置にしてください。
7. 変速ペダルを少し押し込んで、変速ペダル固定フックを図のように掛けてください。



8. 植付昇降レバーを植付「入」位置にしてください。植付部が回転します。
9. この状態で洗浄を行ってください。
10. 洗浄が終了したら、植付昇降レバーを植付昇降「N」(中立)位置にしてください。植付部の回転が停止します。

11. 変速ペダルを少し押し込んで、変速ペダル固定フックを掛け位置から外して、フック収納位置に戻してください。



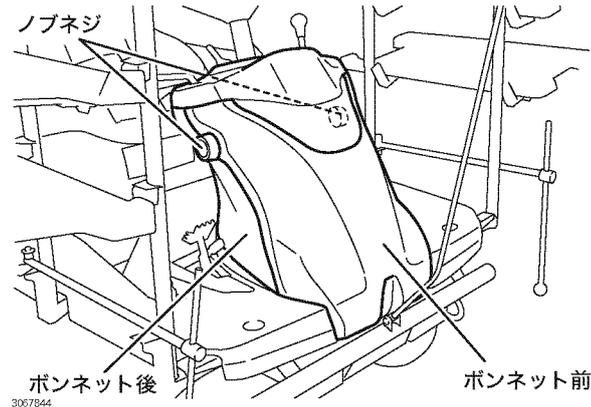
12. ドライバーシートに座り、主変速レバーを「前進」「後進」位置にしても、変速ペダルを踏まなければ、機体が進まないことを確認してください。
13. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。
14. エンジンを停止してください。

2. ボンネットの取り外し・取り付けかた

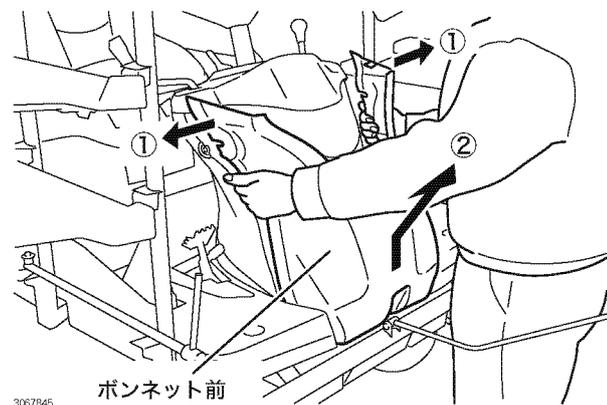
ボンネット前・後の取り外しかた

〈ボンネット前の取り外しかた〉

1. ボンネット左右のノブネジをゆるめてください。

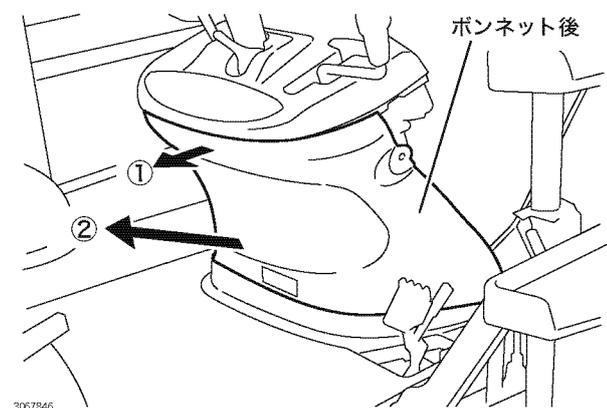


2. ボンネット前の上側を左右に開き、機体前方斜め上に取り外してください。



〈ボンネット後の取り外しかた〉

1. ボンネット前を取り外してください。
2. 左右のノブネジを取り外してください。
3. ボンネット後の上側を後方に倒し、機体後方斜め上に取り外してください。

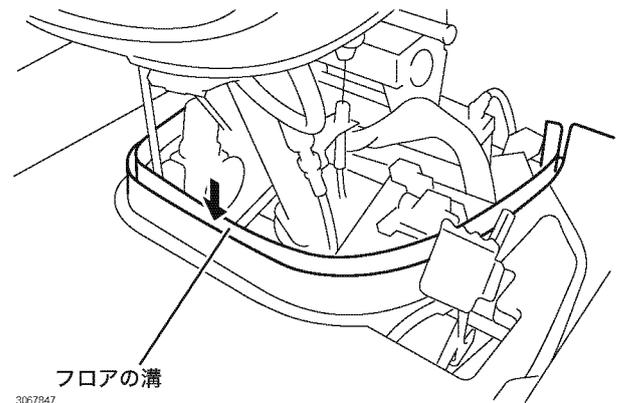


【重要】

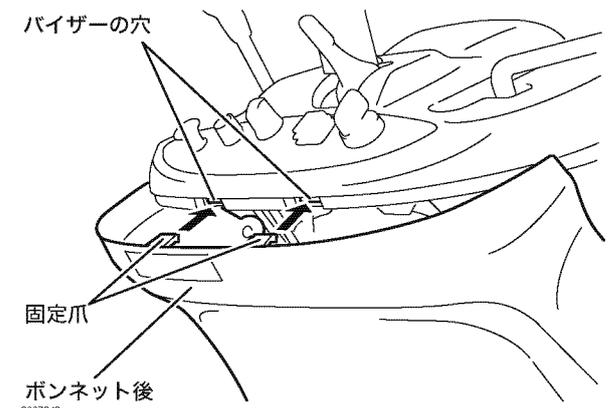
- ボンネット前・後の固定爪がバイザーの穴に掛かっているので注意して取り外してください。固定爪が破損するおそれがあります。

ボンネット前・後の取り付けかた

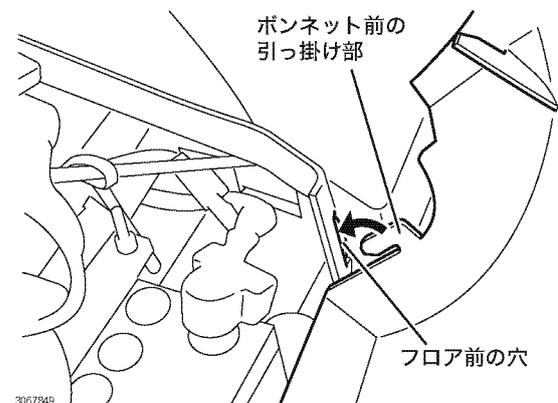
1. ボンネット後をフロア前の溝に入れてください。



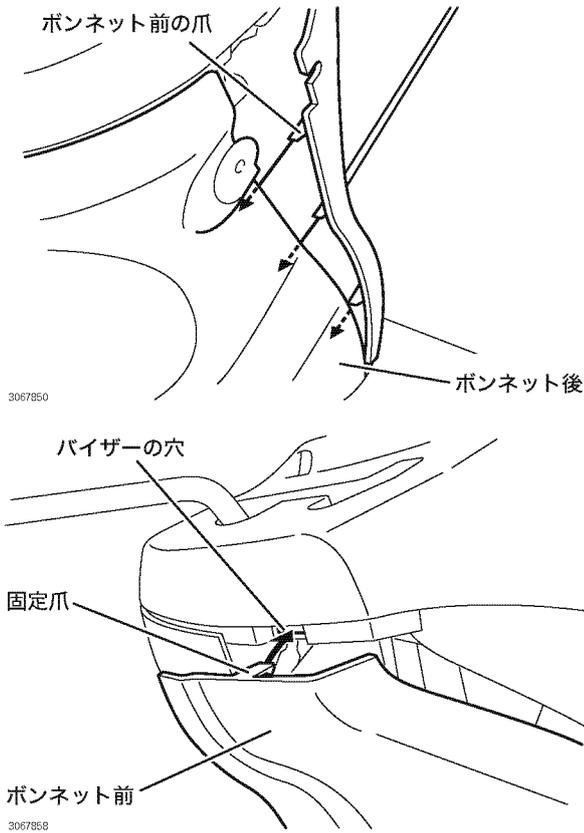
2. ボンネット後の固定爪を、バイザーの穴に入れてください。



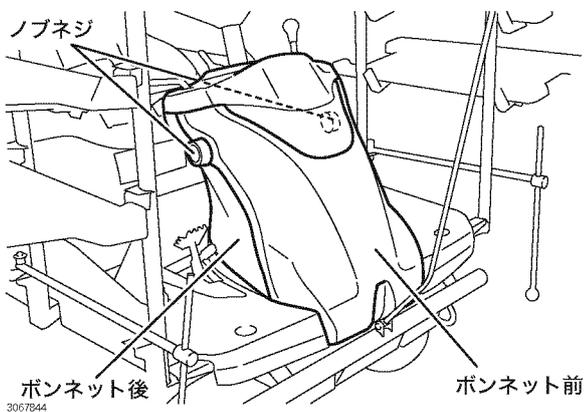
3. ボンネット前の引っ掛け部を、フロア前の穴に掛けてください。



4. ボンネット前の爪を、ボンネット後に入れながら、ボンネット前の固定爪を、パイザーの左右の穴に入れてください。



5. ボンネットを左右のノブネジで固定してください。

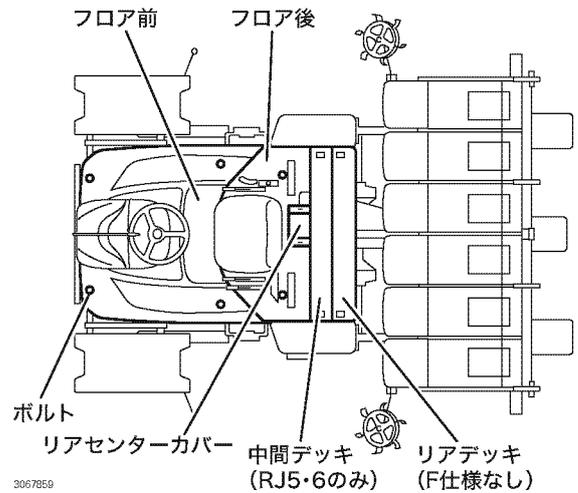


【重要】

- ボンネット前・後の固定爪がパイザーの穴に確実に入るように注意して差し込んでください。無理に差し込むと破損します。

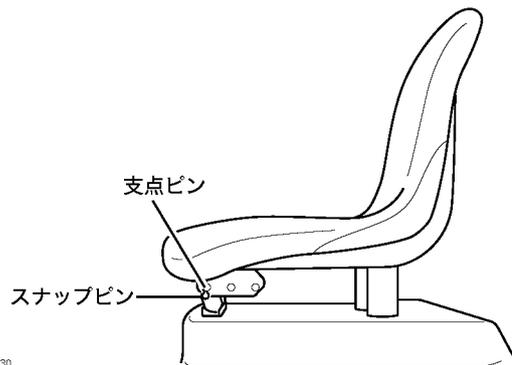
3. フロアの取り外し・取り付けかた

フロアは、前・後に2分割されています。フロア前を取り外すときは、フロア後を取り外してください。

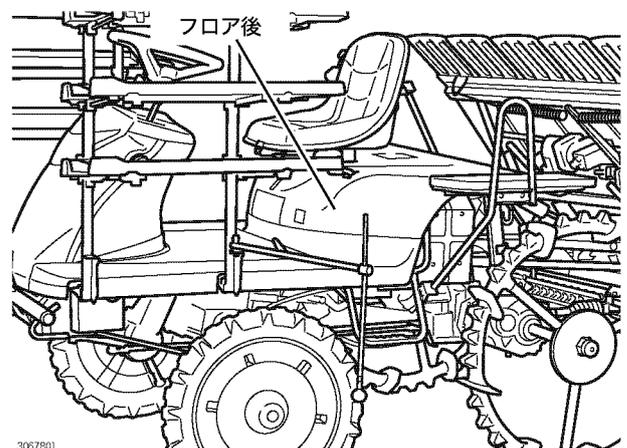


フロア後の取り外しかた

1. ドライバーシートを、スナップピンと支点ピンを外して、台座から取り外してください。



2. フロア後を固定しているボルト (2本) を外して、フロア後を待ち上げて取り外してください。



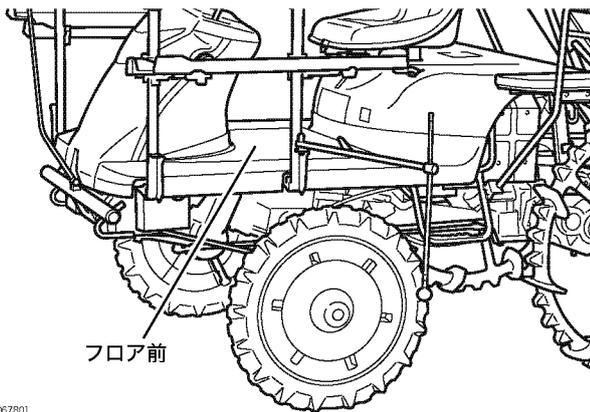
- フロア後を取り付けるときは、取り外しの逆の手順で行ってください。

【参考】

- フロア後の取り外し・取り付けをするときは、植付条止レバー、および油圧ストップレバーのグリップに気をつけて行ってください。

フロア前の取り外しかた

1. フロア後を取り外してください。
2. ボンネット前・後を取り外してください。
(76ページ参照)
3. フロア前を固定しているボルト(4本)を外して、フロア前を待ち上げて取り外してください。

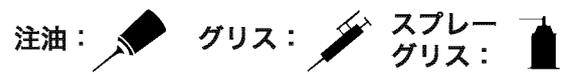


4. フロア前を取り付けるときは、取り外しの逆の手順で行ってください。

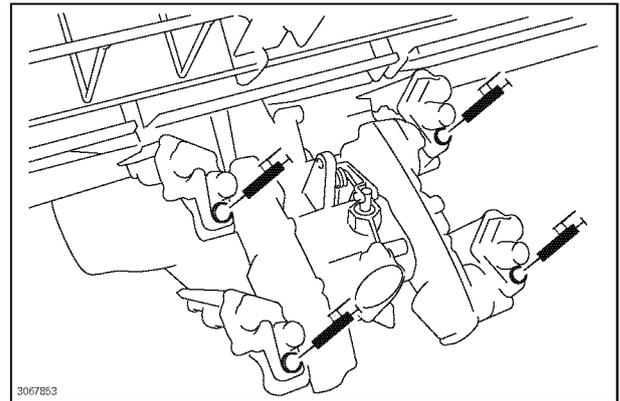
【重要】

- 各レバー類にフロアを当てないように、慎重に行ってください。
- 配線類の噛み込みがないように注意してください。

4. 各部の注油・グリス塗布箇所



植付アーム



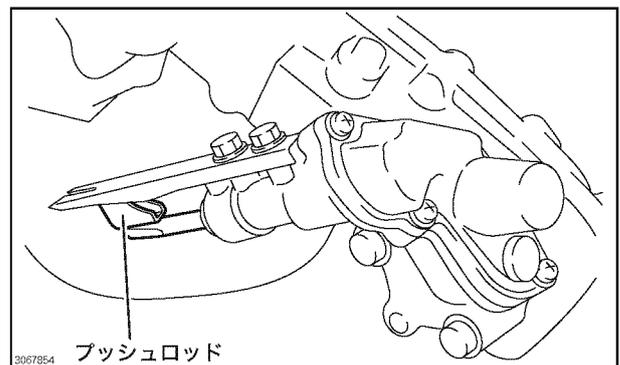
グリスは、植付アーム内の残量を確認して、1~15cc以内で追加してください。

【重要】

- グリスを入れすぎると、プッシュロッドの作動が遅くなり、苗の植付姿勢が悪くなったり、爪に苗が詰まることがあります。そのときは、グリスを取り出してください。

【参考】

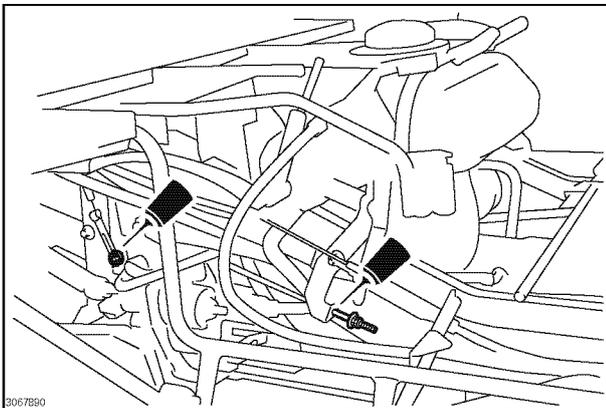
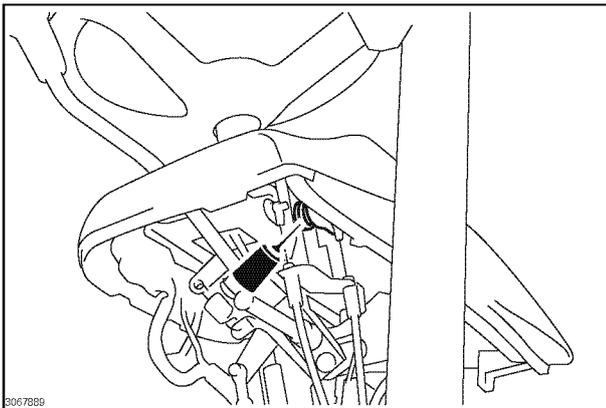
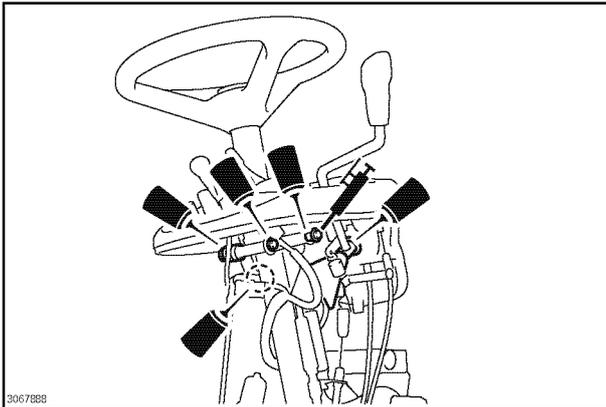
- プッシュロッド(押し出し爪)の動きが鈍い場合は、少量のギヤオイルを、植付アーム(グリスと同じ場所)に給油してください。



〈レバー部の注油箇所について〉

各レバーを前後左右に動かして、回動および摺動部に注油してください。

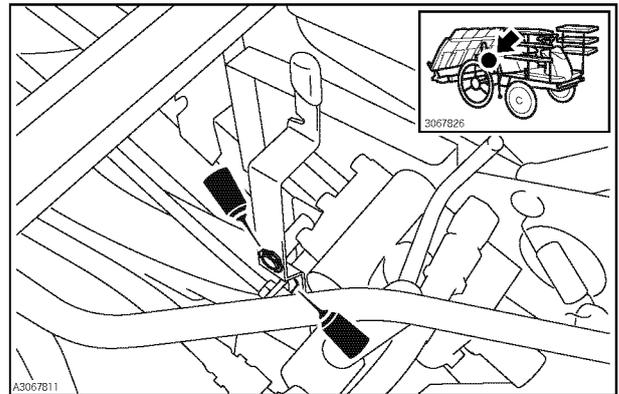
植付昇降レバーリンク部



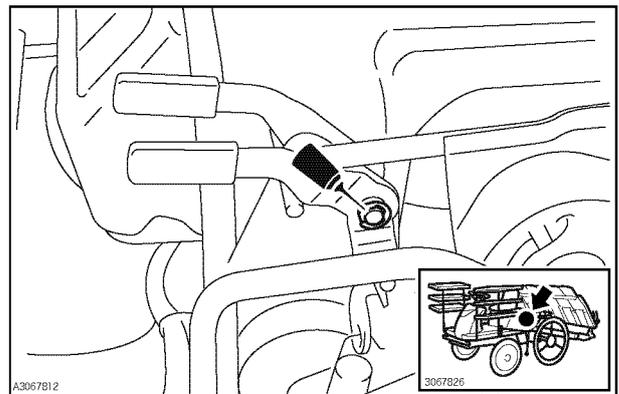
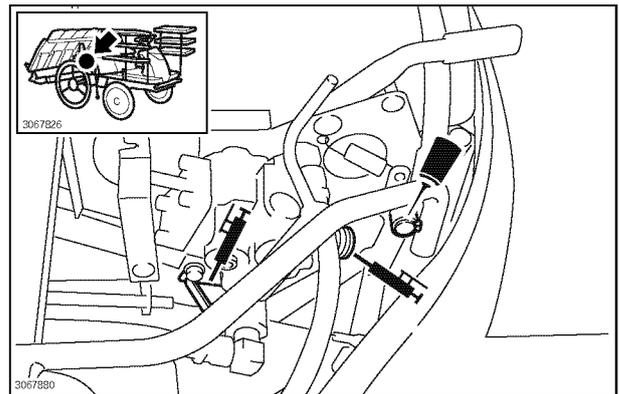
【重要】

● アクセルレバーの回動部には、注油しないでください。

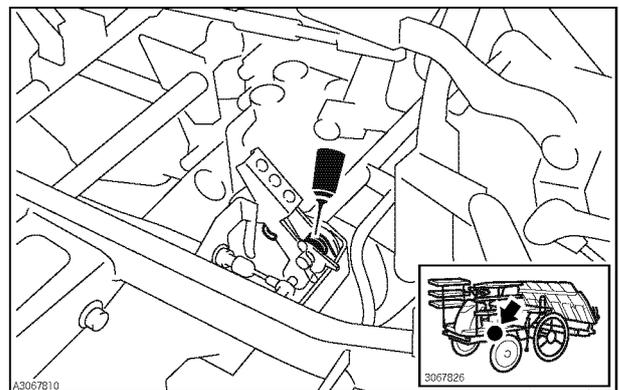
油圧感度調節レバーリンク支点部



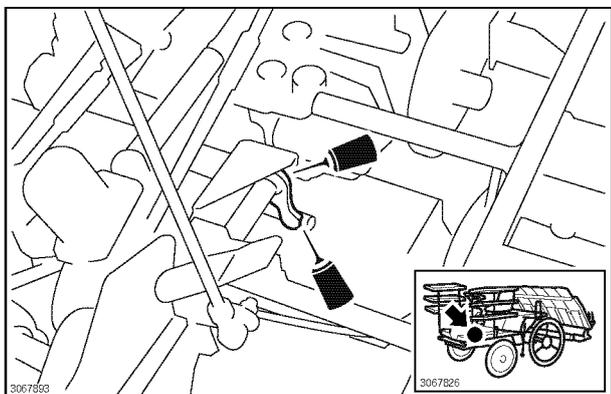
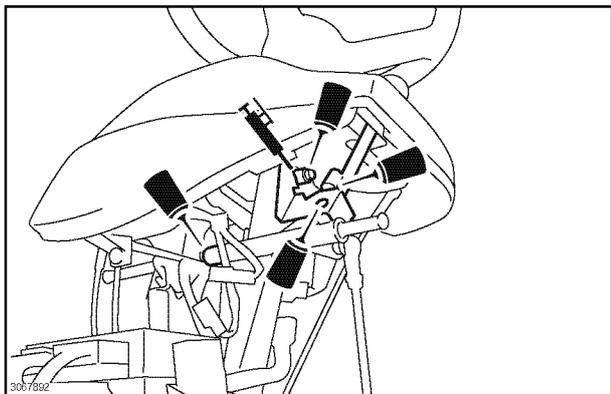
**植付条止レバー支点部
昇降バルブスプール当り面
油圧ストップレバーディテント部**



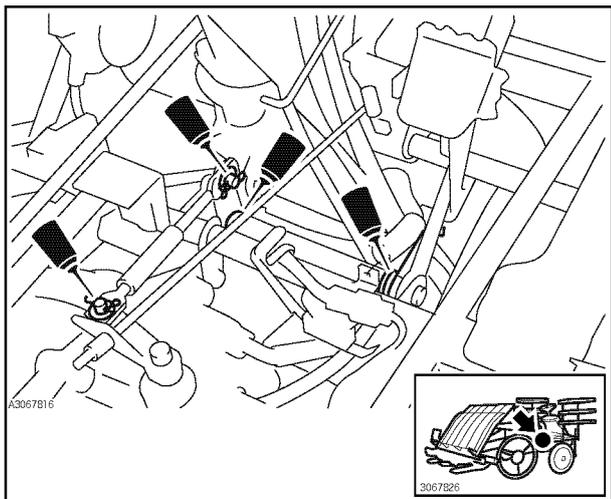
デフロックペダル部



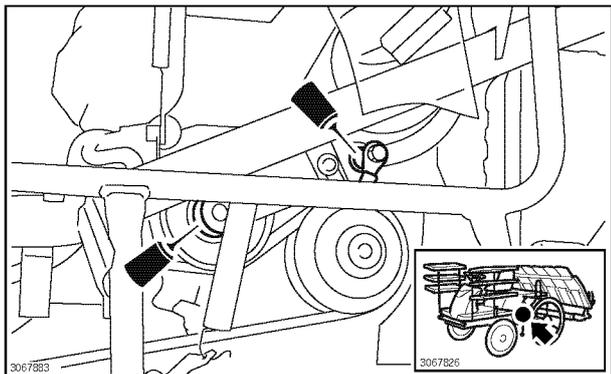
主変速レバーリンク支点部



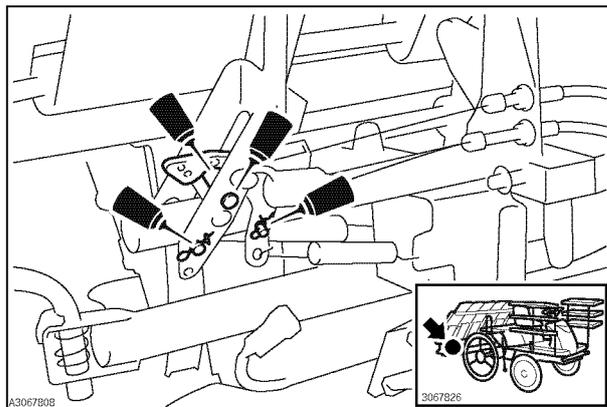
ブレーキペダル支点・リンク部



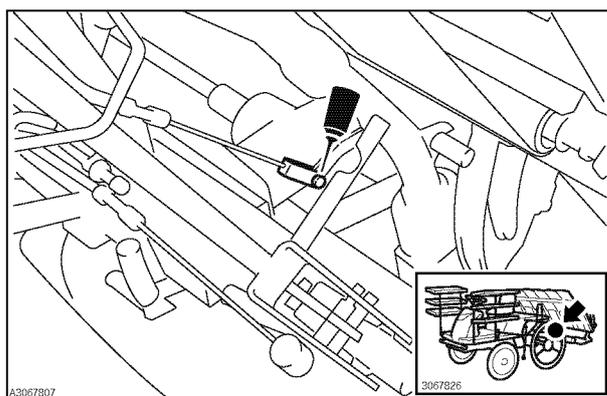
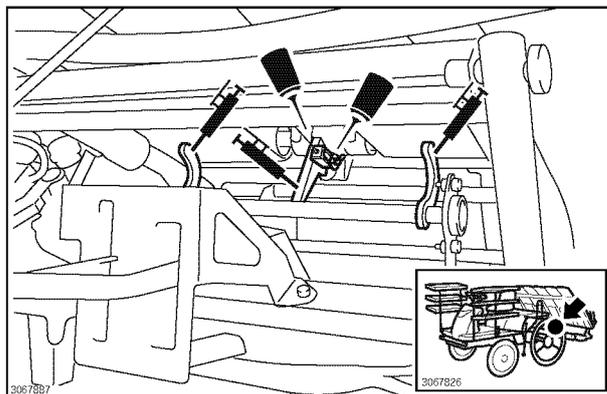
ベルトテンションアーム支点部



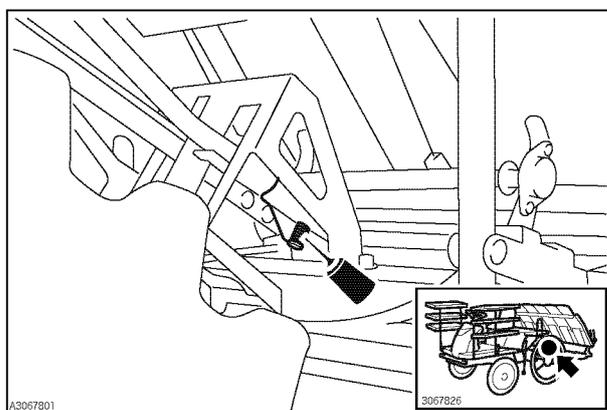
風車マーカ支点・ロック装置部(左・右)



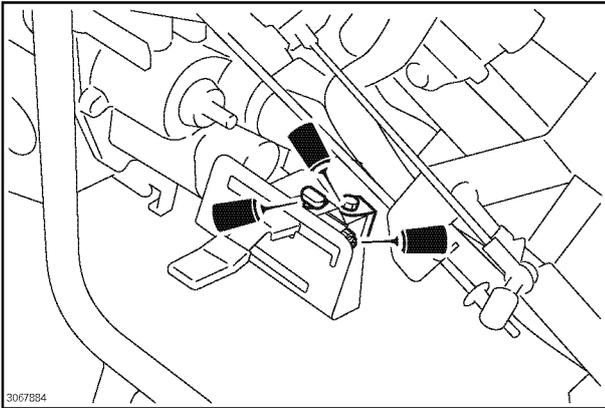
苗送りベルト駆動カム部・縦送り連動ワイヤー
縦送り軸受け部(左右2か所)



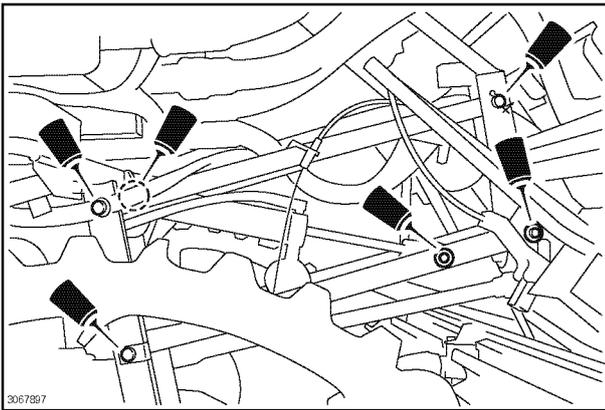
植付深さ調節レバー支点部



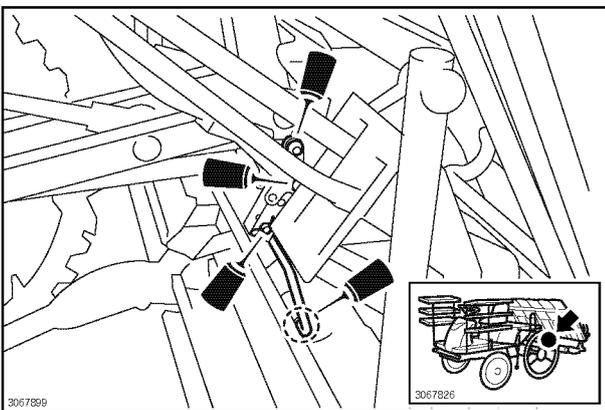
株数変速レバー支点部



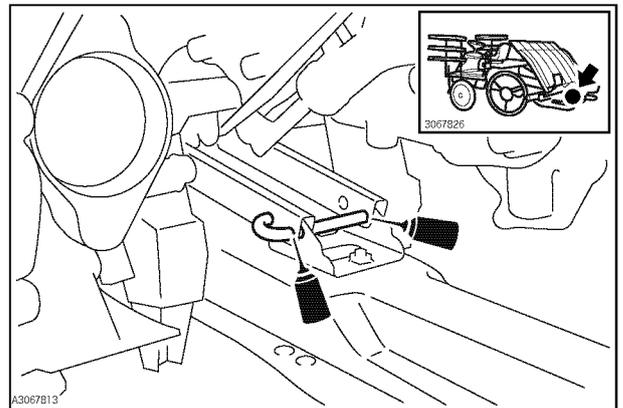
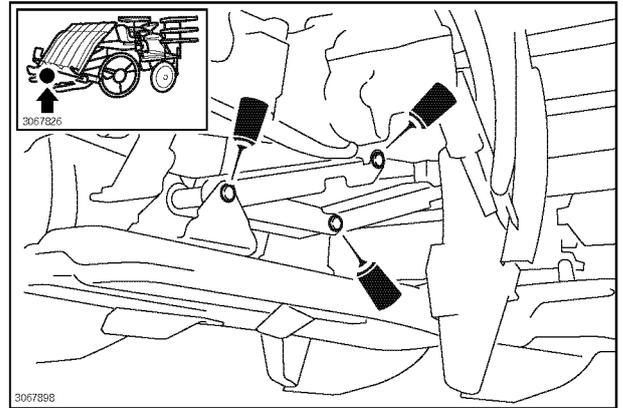
トップリnk支点部(前・後)
 ロアリンク支点部(前・後)
 シリンダ支点部(前・後)



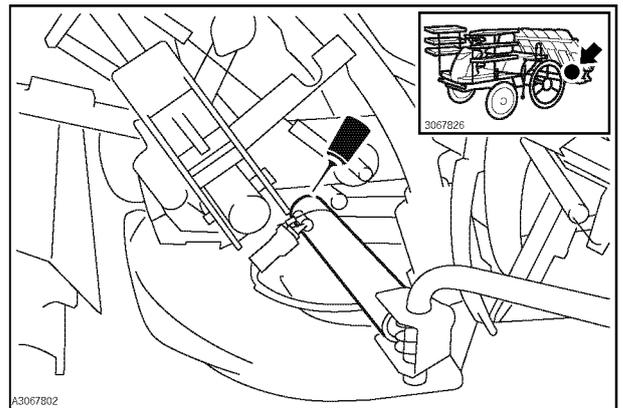
センターフロートリンク部



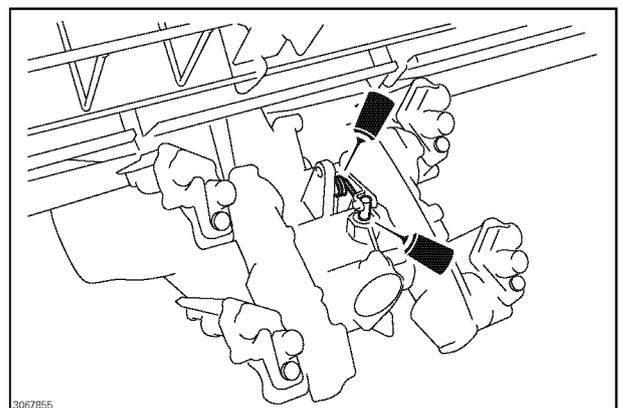
フロート支点部



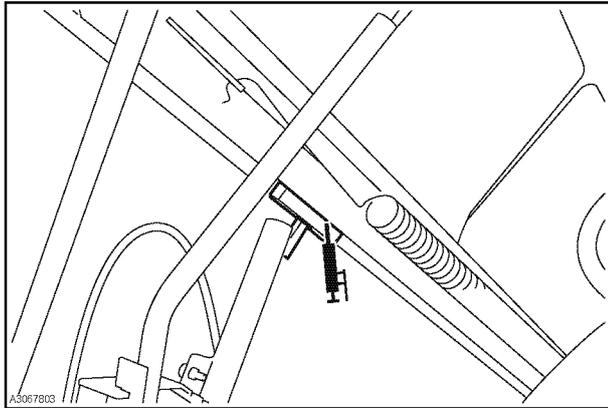
植深アーム支点部



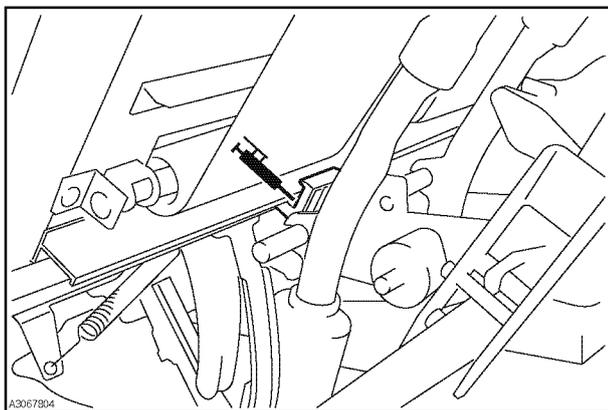
植付条止アーム回転支点部



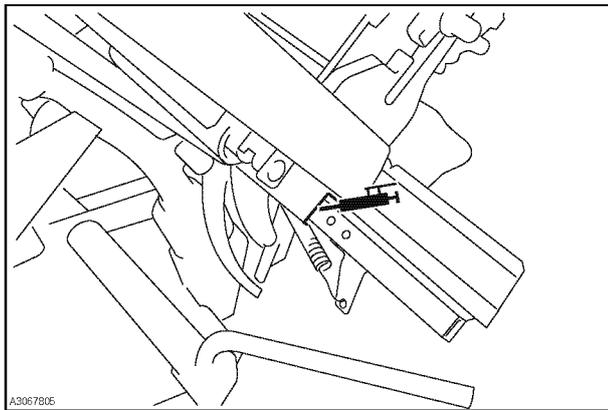
苗のせ台支持シュー



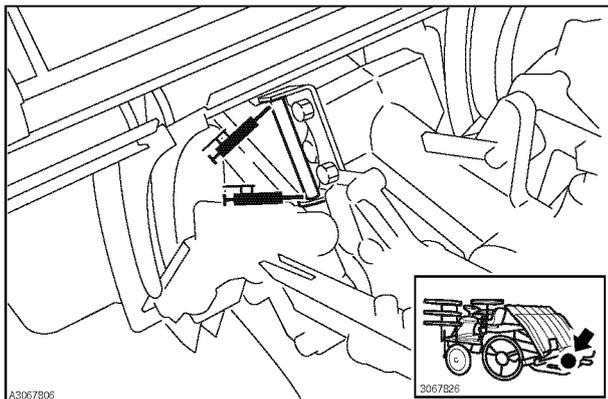
苗のせ台規制シュー



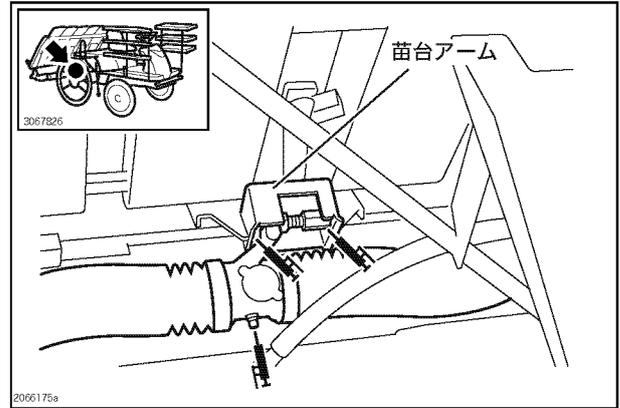
苗受板シュー



ガイドレールステースライド部

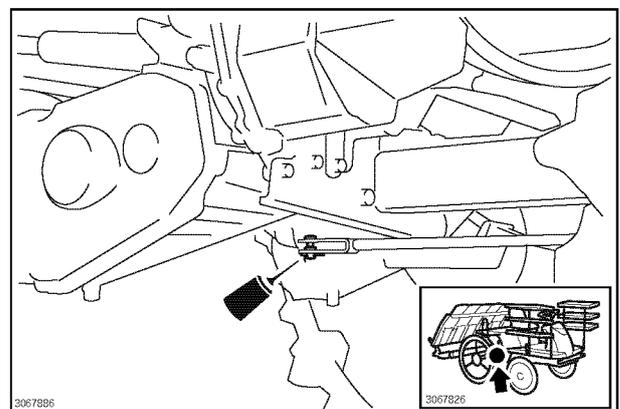
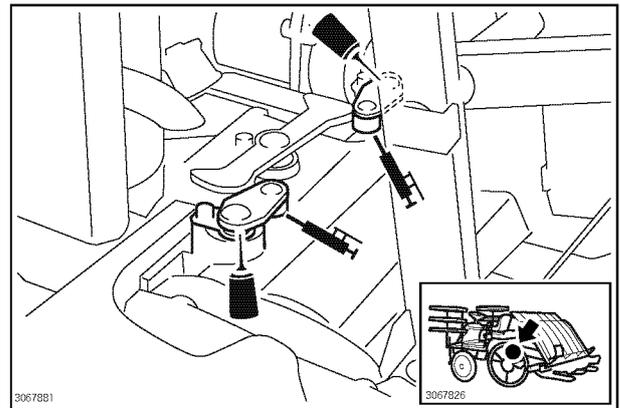


苗台アーム

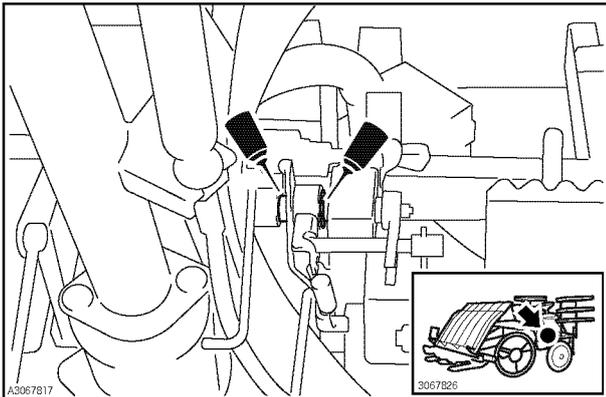
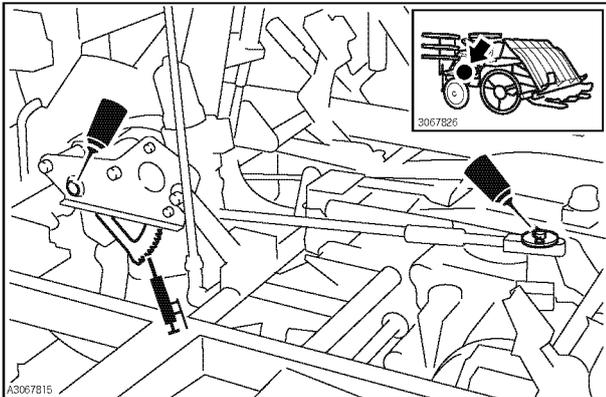
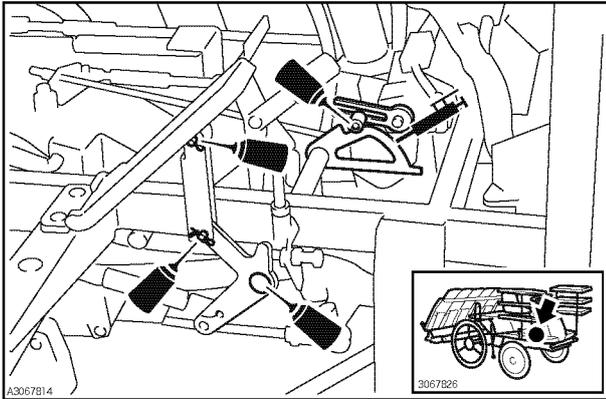


※ 苗台アームの内壁側面にグリスを塗布してください。

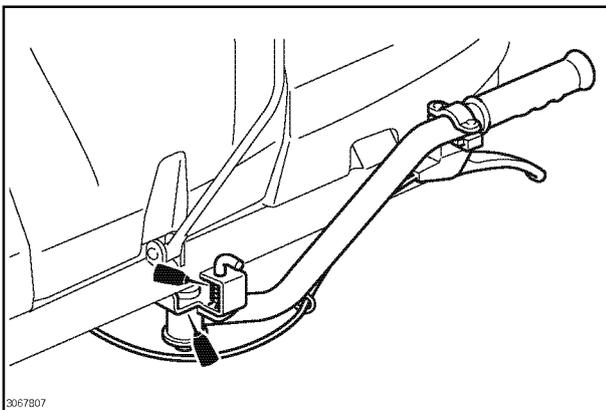
サイドクラッチ操作支点部



変速ペダルリンク部



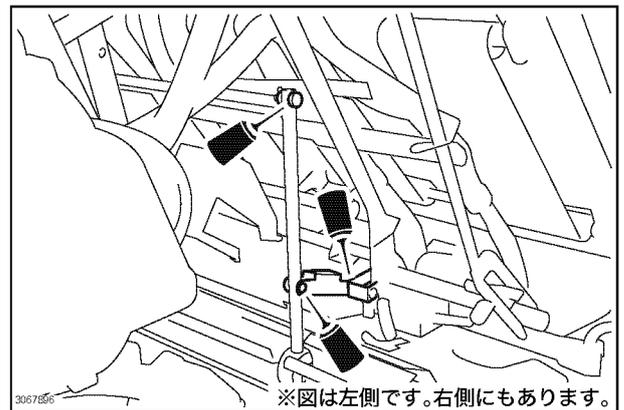
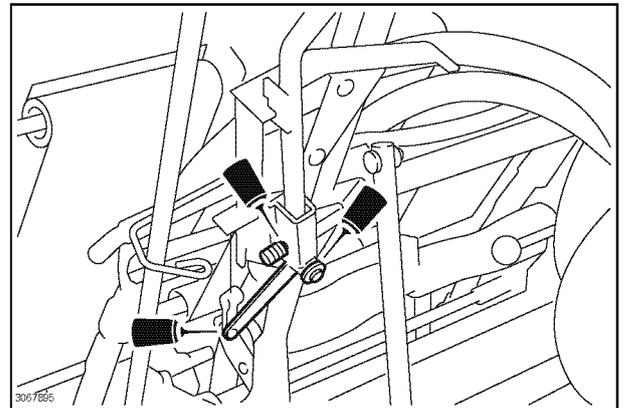
フロントハンドル支点・ピンスライド部 (RJ4のみ)



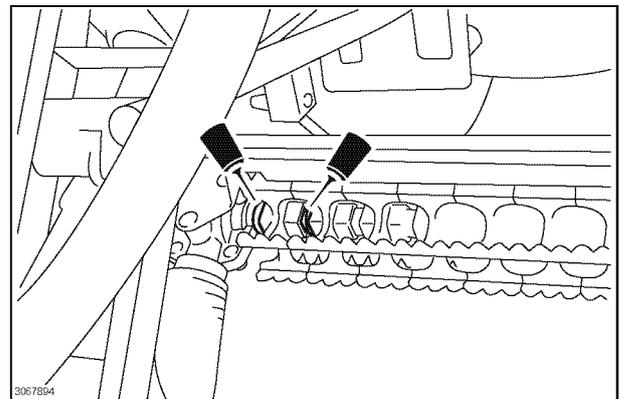
ロータ高さ調節レバー支点部 (右側のみ)

ロータフレームリンク支点部

(Z仕様のみ)



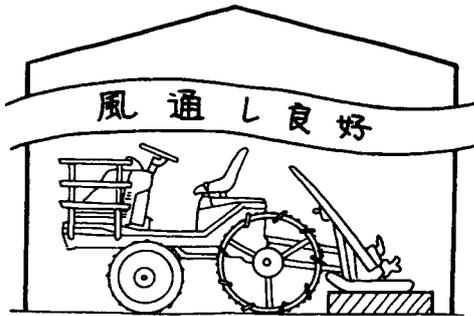
ロータ軸結合部 (Z仕様のみ)



5. 格納のしかた

田植機を長期間使用しない場合は、点検・調整（85ページ参照）を行った後、下記の要領で格納してください。

1. 格納は、直射日光や雨の当たらない風通しの良い場所を選んでください。
2. 植付部（フロート）の下に高さ30cm程度のクッション（保護材）を置き、その上に植付部を降ろして、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。



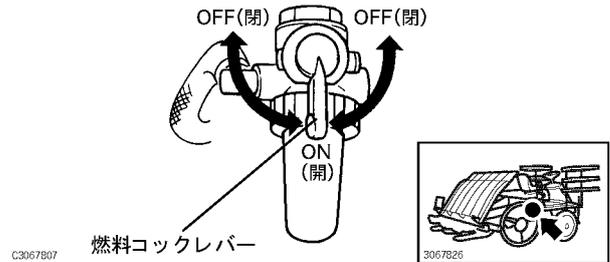
1069523A_1

3. 植付昇降レバーを植付昇降「N」（中立）位置、主変速レバーを「N」（中立）位置にしておいてください。また、キースイッチはキーから抜き取ってください。
4. バッテリーは、本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、バッテリーを本機に装着したまま保管する場合は、必ずアース側（「-」端子）を外しておいてください。

5. 燃料コックレバーは「OFF」（閉）位置にしてください。

また燃料タンクおよび気化器（キャブレター）から、ガソリンを完全に抜き取ってください。

（89ページ参照）



C3067807

燃料コックレバー

3067826

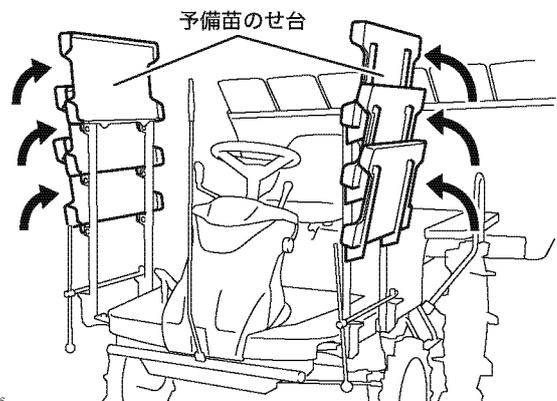
【重要】

- ガソリンは長期間放置しておくと変質し、次期使用時にエンジントラブルの原因になります。田植機を1か月以上使用しない場合は、必ずガソリンを完全に抜き取ってください。

6. 外部のサビやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

予備苗のせ台の収納のしかた

1. 予備苗のせ台を上方に折りたたんでください。



3067836

ロータの収納のしかた（Z仕様のみ）

1. ロータ部に巻き付いているワラなどを取り除いてください。
2. ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして、ロータを収納してください。（62ページ参照）

10章 点検・整備のしかた

警告

- 点検・給油・整備・修理をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に田植機を駐車させ、エンジンを停止してください。
- 植付部を上げて植付爪やロータなどの点検・整備をするときは、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にし、台などで植付部を支えて、落下を防止してください。

注意

- 1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプや油圧ホースのゴム類、電気配線の点検・交換は必ず行ってください。守らないと、整備不良による事故や、機械の破損をまねくおそれがあります。

〈廃油処理について〉

オイル交換で出た廃油およびガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、と、環境汚染につながります。廃油の処分は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプや油圧ホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、被覆のはがれなど異常箇所がある場合は交換してください。常に、機械を最良の状態にし、安心して作業が行えるようにしてください。



2063507

2. 定期点検・整備一覧表

実施項目	内 容	点検・交換時期の目安	参照ページ
燃料タンク	量点検(10.0L)	作業前・格納前	88
エンジンクランクケース	量・汚れ点検(1.0L)	〈点検〉作業前 〈交換〉1回目:20時間 2回目以後:100時間ごと	90
ミッションケース	量・汚れ点検(8.3L)	〈点検〉1シーズンごと 〈交換〉1回目:50時間 2回目以後:300時間ごと	91
リアアックスルケース	量・汚れ点検(6.0L)	〈点検〉1シーズンごと 〈交換〉1回目:100時間 2回目以後:300時間ごと	93
植付アーム	量・汚れ点検 (油脂追加:1~15cc以内) (工場出荷時:15cc)	〈点検〉50時間または1シーズンごとのどちらか早い方 油脂追加の場合は、グリスの残量を確認して1~15cc以内で追加	78
ロータ駆動ベベルケース(Z仕様)	グリスののれ点検	作業前・格納前	94
各摺動部注油	エンジンオイル・ギヤオイル・グリス	作業前・格納前	78
ミッションオイルフィルタ	交換	〈交換〉1回目:50時間 2回目以後:300時間ごと	96

実施項目	内 容	点検・交換時期の目安	参照 ページ
エアクリーナーエレメントの清掃	スポンジ部: 灯油またはガソリンで洗浄後、乾燥する 紙部: エアを吹き付ける	50時間ごとに掃除	94
燃料コックのカップ・フィルタ	カップ内、およびフィルタを掃除する	〈点検〉作業前 〈掃除〉1シーズンごと	95
バッテリー	液量点検・比重点検後、 必要ならば補充電	作業前・必要都度充電	102
点火プラグ	カーボンの付着・汚れ点検	200時間ごと	107
植付爪	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	98
電気配線点検	被覆のはがれ・接点のゆるみ	異常箇所があれば交換	106
燃料パイプおよび接合部	点検	パイプは2年ごとに交換	106
発電機・始動モータの点検	始動性点検	1シーズンごとに点検	—
油圧装置の点検	オイルのもれ点検	1シーズンごとに点検	—
油圧ホースおよび接合部	点検	ホースは2年ごとに交換	—
各ワイヤーの点検	遊び量	作業前後・格納前	—
ステアリング各部締付け点検	増締め	作業前後・格納前	—
重要ボルト・ナット点検	増締め	作業前後・格納前	—
Vベルト	損傷の有無	作業前後・格納前	—
縦送り軸受	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	—
苗受板シュー	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	—

3. 給油・グリス一覧表

給油・給脂箇所	容 量	種 類	参照ページ
燃料タンク	10.0L	レギュラーガソリン(無鉛)	88
エンジン クランクケース	1.0L	エンジンオイルSAE分類 10W-30 API分類 SE級以上	90
ミッションケース	8.3L	トランスミッションフルードTF500	91
リアアクスルケース	6.0L	トランスミッションフルードTF500	93
植付アーム	1~15cc以内(グリス追加時) 15cc(工場出荷時)	グリス:コスモ(ダイナマックスEP#1)	78

【重要】

- 定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。
- 植付アームにグリスを入れすぎると、プッシュロッドの動きが鈍くなり、植付姿勢に影響がでる場合があります。

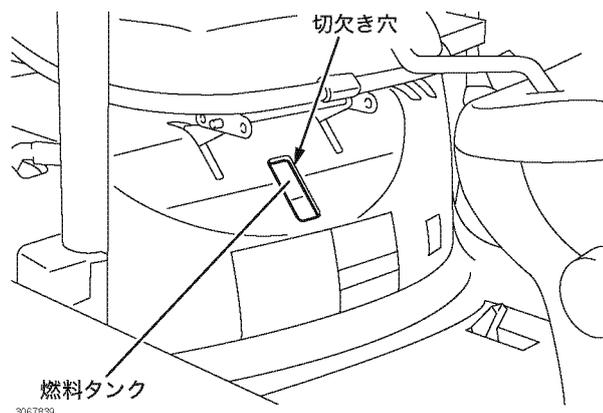
4. 燃料の点検・補給のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・エンジンは必ず止めて補給してください。
 - ・タバコなどの火気を近づけないでください。
 - ・こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 補給する燃料は、法で定められたタンクを使用し、法で定められた容量を守って搬送してください。守らないと、火災の原因になります。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は火災のおそれがありますので、給油はしないでください。
- 規定量よりも入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火し、やけどや火災の原因になります。
- 燃料補給作業は機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してから行ってください。静電気の放電による火花が、気化したガソリンに引火し、火災や爆発のおそれがあります。
- 燃料はフィルタネットを通して補給してください。ゴミ等がつまり、燃料もれのおそれがあります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。燃料に引火して、火災のおそれがあります。

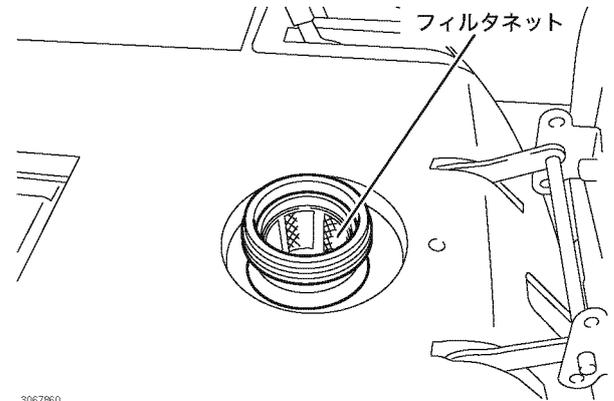
〈点検のしかた〉

フロア後の切欠き穴から、燃料の残量を確認してください。残量が見えなくなったら補給のタイミングです。



〈補給のしかた〉

1. ドライバーシートを前方に倒してください。
2. 燃料キャップを取り外し、燃料（ガソリン）を補給してください。



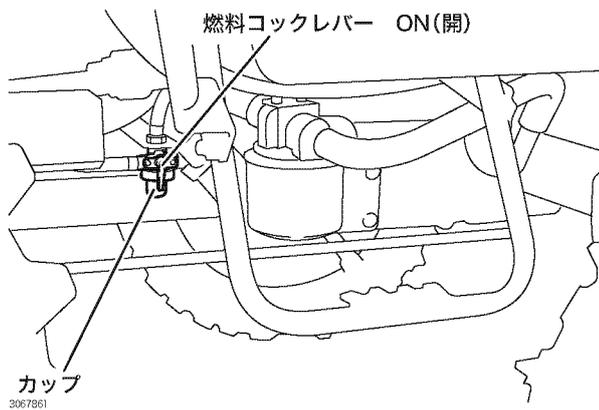
【重要】

- 点検時に、燃料もれのないことも確認してください。
 - 混合ガソリンや軽油・灯油、粗悪ガソリンなどを補給したり不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
 - ガソリンは自然に劣化しますので、購入後1か月以上保管したガソリンは使用しないでください。
 - 燃料を補給するときは、ゴミが入らないように注意してください。また、フィルタネットを外さないでください。
3. フィルタネットに、ゴミが詰まっていないか点検してください。ゴミがあれば取り除いてください。
 4. 補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。
 5. ドライバーシートを元通りに戻してください。

5. 燃料の抜きかた

燃料タンクの燃料の抜きかた

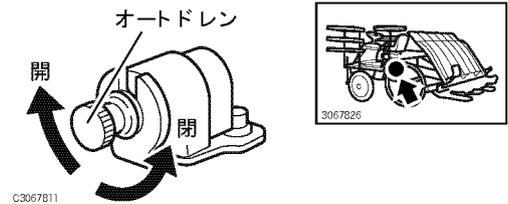
1. 燃料コックの下に、燃料を受ける容器を置いてください。(燃料コックは、本機右側、ドライバーシートの下にあります。)
2. 燃料コックレバーを「OFF」(閉)位置にしてください。
3. 燃料コックのカップを外し、燃料コックレバーを「ON」(開)位置にすると、燃料コックから燃料が流れ出てきます。



4. 燃料を抜いた後は、元通りに燃料コックにカップを取り付けてください。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. エンジン左側方にある、オートドレンの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. オートドレンのつまみを引き、「開」方向に回すと燃料が流れ出てきます。



3. 燃料を抜いた後は、オートドレンのつまみを「閉」方向に回してください。

6. オイルの点検・補給・交換のしかた

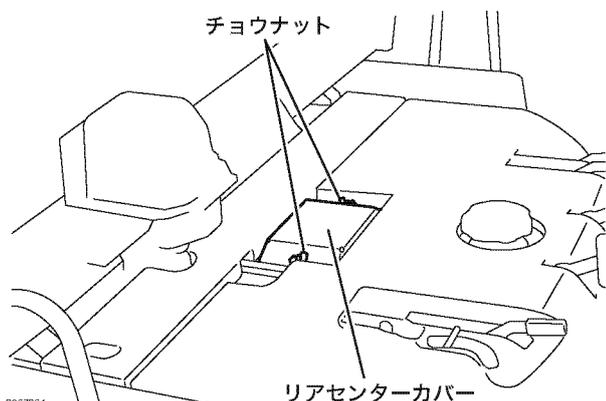
【参考】

- オイルの点検・補給・交換をするときは、田植機を平坦な場所に移動してください。傾いていると正確な量が示されません。

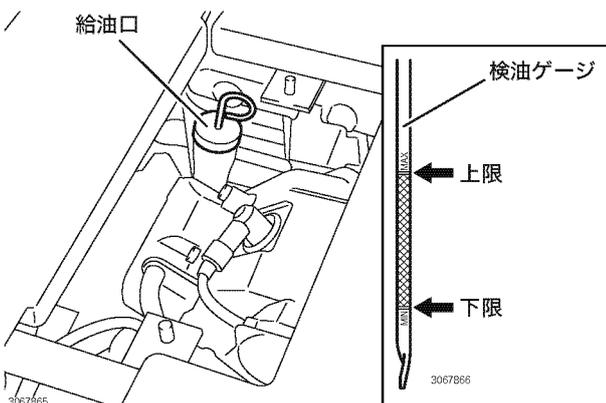
エンジンオイル

〈点検のしかた〉

1. リアセンターカバー（チョウナット2個）を取り外してください。



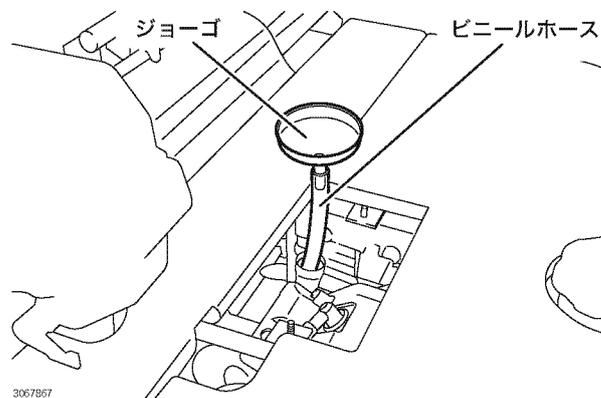
2. 給油口のふたを外し、先端の検油ゲージをきれいに拭いてください。
3. 給油口のふたを給油口に奥まで差し込み、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。



4. ゲージの上限と下限の間にオイルがあれば規定量です。オイルが不足している場合は、後述の「補給のしかた」の要領で補給してください。
5. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。
6. 点検時、オイルもれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

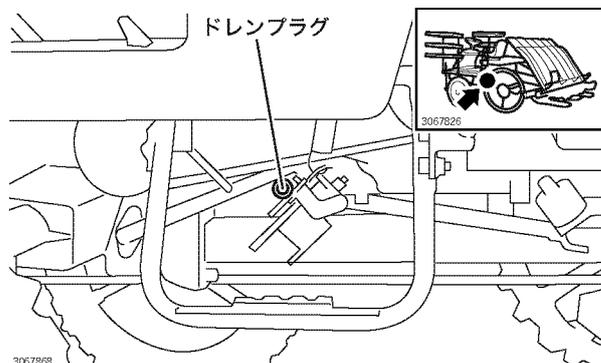
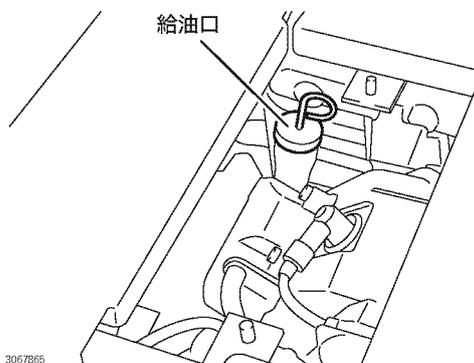
1. 給油口にジョーゴ（付属品）とビニールホース（付属品）をセットしたものを差し込んでください。



2. ジョーゴから規定量（検油ゲージの上限と下限の間）になるまで補給してください。
3. 補給後は、給油口のふたを元通りに取り付けてください。

〈交換のしかた〉

1. リアセンターカバーを取り外してください。
2. エンジン左前下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
3. 給油口のふたとドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。
4. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



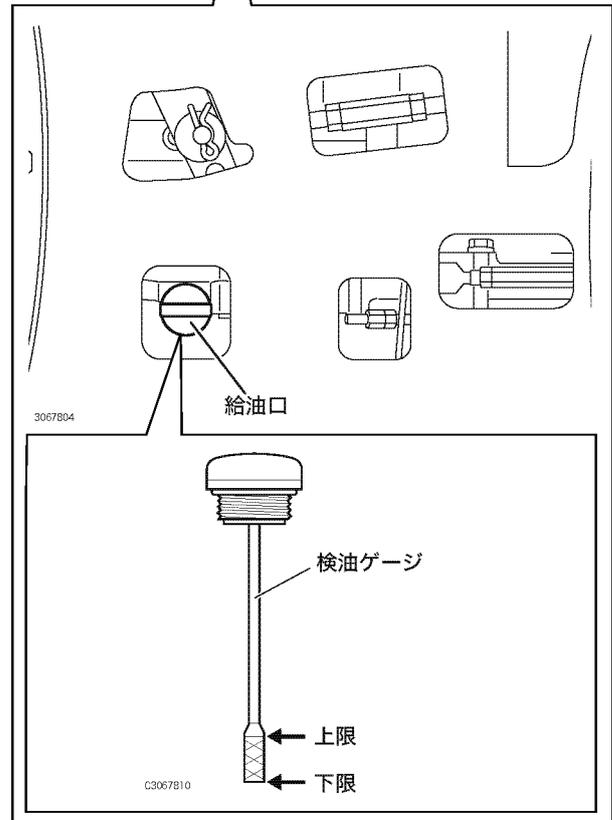
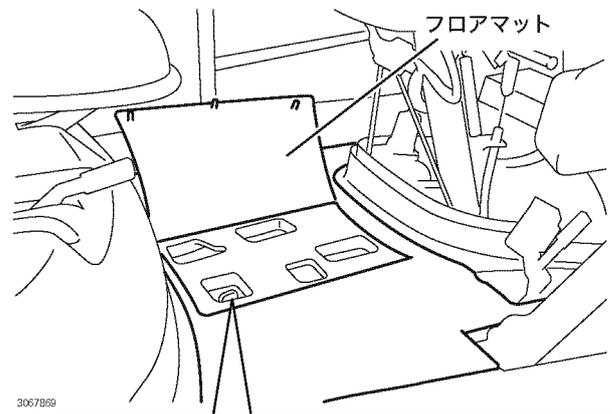
5. 前述の「補給のしかた」に従って、エンジンオイルを給油してください。
6. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。
7. リアセンターカバーを元通りに取り付けてください。

ミッションオイル

ミッションオイルを交換するときは、ミッションオイルフィルタも同時に交換してください。
(96ページ参照)

〈点検のしかた〉

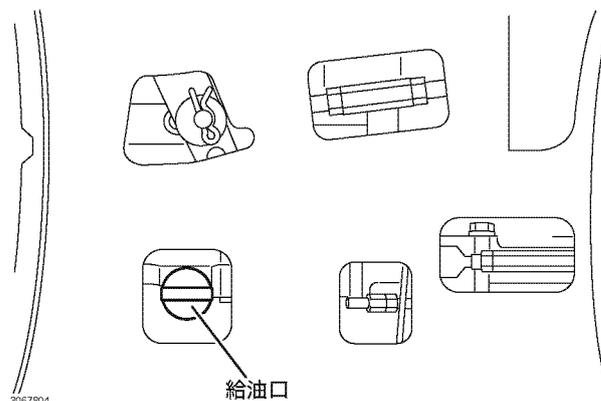
1. 植付部を最上げ状態にして、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
2. フロアマットをめくってください。
3. ミッションケース上側の給油口のふたを外し、先端の検油ゲージをきれいに拭いてください。



4. 給油口のふたを給油口に差し込み、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
給油口にふたを差し込むときは、ねじ込まないでください。
5. ゲージの上限と下限の間にオイルがあれば規定量です。
オイルが不足している場合は、後述の「補給のしかた」の要領で補給してください。
6. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。
7. 点検時、オイルもれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

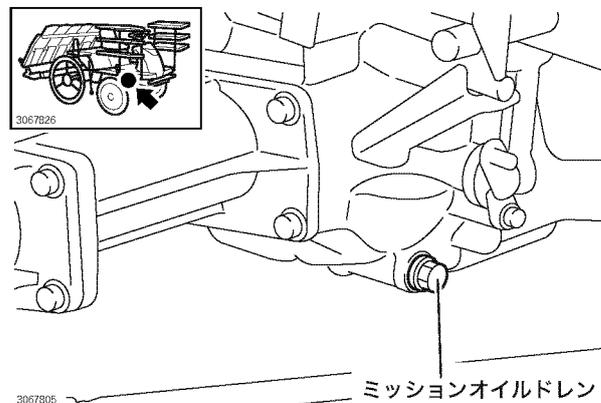
1. 給油口のふたを外して、給油口にジョーゴ（付属品）を差し込んでください。



2. ジョーゴから規定量（検油ゲージの上限と下限の間）になるまで補給してください。
3. 補給後は、給油口のふたを元通りに取り付けてください。

〈交換のしかた〉

1. 植付部を最下げ状態にしてください。
2. ミッションケース右側方のドレンプラグの下に古いオイルを受ける容器を置いてください。
3. 給油口のふたとドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

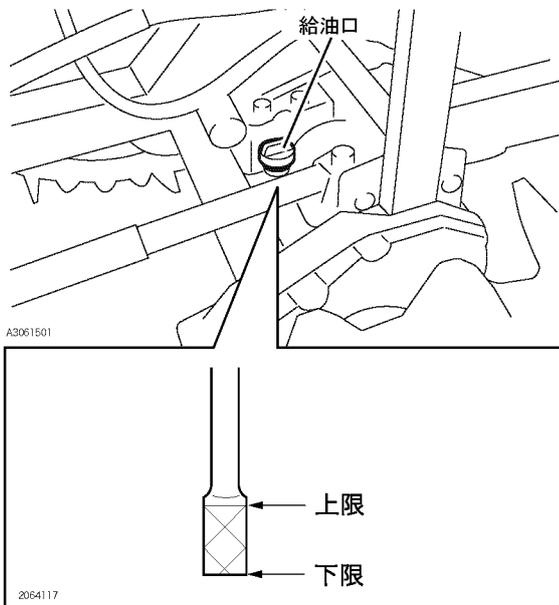


4. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
5. 給油口から、ミッションオイルを給油してください。
6. 前述の「補給のしかた」に従って、ミッションオイルを給油してください。
7. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。

リアアクスルケース

〈点検のしかた〉

1. 植付部を最上げ状態にして、油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。
2. リアアクスルケース上部の給油口のふたを外し、先端の検油ゲージをきれいに拭いてください。
3. 給油口のふたを給油口に差し込み、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。給油口にふたを差し込むときは、ねじままないでください。



4. ゲージの上限と下限の間にオイルがあれば規定量です。
オイルが不足している場合は、後述の「補給のしかた」の要領で補給してください。
5. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。
6. 点検時、オイルもれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

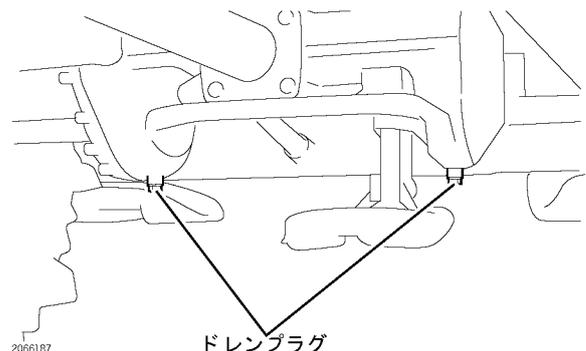
1. 給油口のふたを外して、給油口にジョーゴ（付属品）を差し込んでください。



2. ジョーゴから規定量（検油ゲージの上限と下限の間）になるまで補給してください。
3. 補給後は、給油口のふたを元通りに取り付けてください。

〈交換のしかた〉

1. リアアクスルケース下部のドレンプラグ（左右各1か所）の下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたとドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。



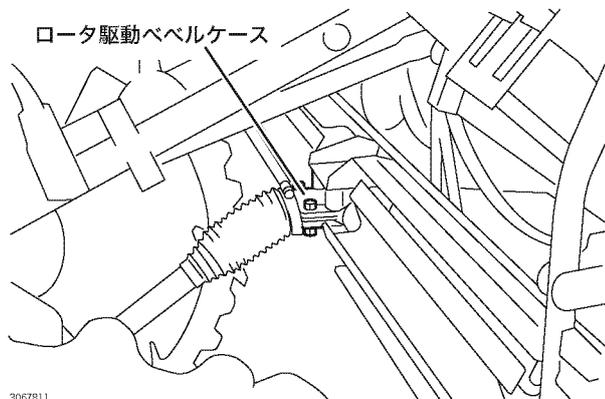
3. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
4. 給油口から、ミッションオイルを給油してください。
5. 前述の「補給のしかた」に従って、ミッションオイルを給油してください。
6. 給油口のふたを元通りに取り付けてください。

ロータ駆動ベベルケース(Z仕様)

ロータ駆動ベベルケースは、容量の点検・補給・交換はできません。お買い上げいただいた特販店・JAまでご連絡ください。

〈点検のしかた〉

ロータ駆動ベベルケースを確認し、グリスもれなどがないか確認してください。



3067811

7. エアクリナーエレメントの掃除のしかた

⚠ 警告

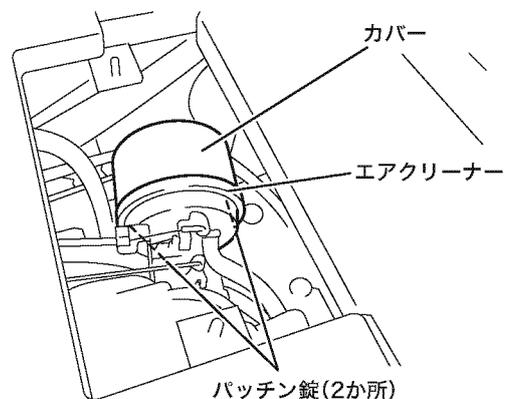
- エアクリナーのエレメントのふた（カバー）は、必ず取り付けてから始動・運転してください。逆火により炎が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

- エアクリナーエレメントを掃除するときは、エンジンがじゅうぶんに冷えていることを確認してから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

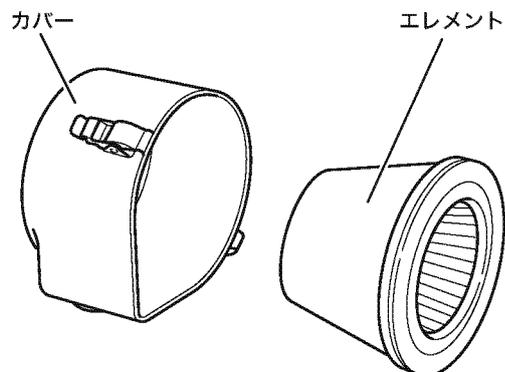
エアクリナーエレメントが汚れたままで使用していると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。下記の要領で、エアクリナーエレメントを掃除（洗浄）してください。

1. リアセンターカバーを取り外してください。（90ページ参照）
2. エアクリナーのカバーを固定しているパッチン錠（2か所）を解除してください。



3067870

3. カバーの中のエレメントを取り出してください。



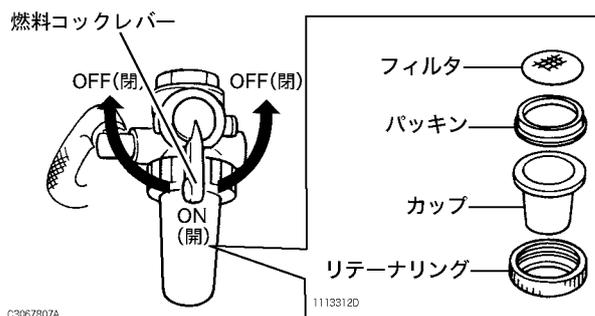
3067871

4. エレメントは、外周のスポンジと内側のろ紙でできています。スポンジを外し、別々に掃除してください。
5. スポンジは、灯油またはガソリンできれいに洗浄し、硬くしぼった後、完全に乾かしてから取り付けてください。
6. ろ紙は、軽くたたいて汚れを落とすか、内側からエアを吹き付けて汚れを落としてください。(強くたたくと破損します。)
7. エレメント掃除後、カバーにエレメントをセットしてください。
8. カバーを、エンジンにパッチン錠(2か所)で固定してください。
9. リアセンターカバーを取り付けてください。

8. 燃料コックの掃除のしかた

燃料コックは、燃料内の水やゴミを取るものです。定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「OFF」(閉)位置にしてください。
2. リテーナリングを回して、カップを取り外してください。
3. カップ内、およびフィルタの水やゴミを掃除してください。
4. フィルタ・パッキン・カップ・リテーナリングを元通りに取り付けてください。



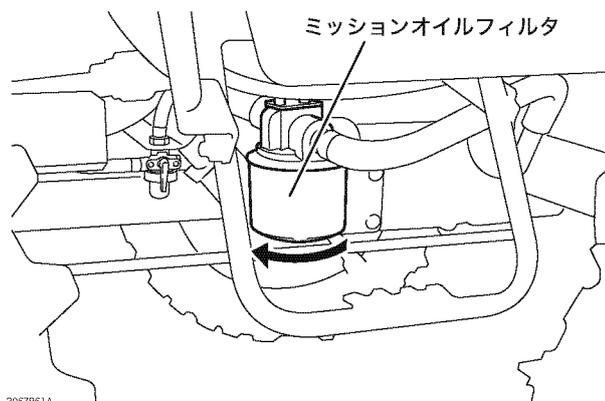
9. ミッションオイルフィルタの交換のしかた

ミッションオイルフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。ミッションオイルの交換をするときに、ミッションオイルフィルタも同時に交換してください。

部品コード:1C7100-05100(フィルタ)

〈交換のしかた〉

1. ミッションオイルを排出してください。ミッションオイルの排出は、交換のしかたの要領で行ってください。(91ページ参照)
2. ミッションオイルフィルタを矢印方向に回して取り外してください。



3067851A

3. 新しいミッションオイルフィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
4. ミッションオイルフィルタを、ゴムリングがミッションオイルフィルタ取付面に接触する位置まで手でねじ込んだ後、3/4～1回転締め付けてください。

【重要】

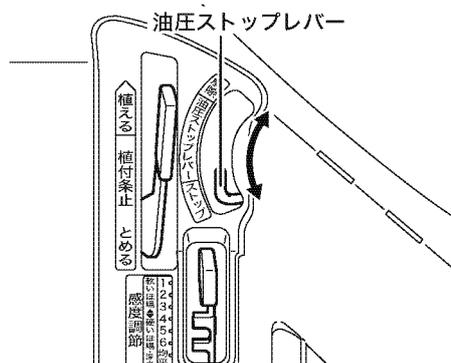
- 交換後は、ミッションオイルフィルタ取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- ミッションオイルフィルタは、純正部品を使用してください。

10. ナイスティUFO装置の作動確認のしかた(U仕様のみ)

植付時、植付部の水平制御が正常に作動しているか、以下の手順で確認できます。

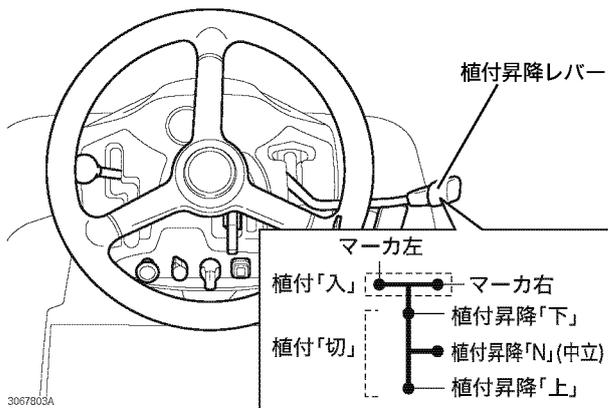
植付部の水平制御の確認のしかた

1. エンジンを始動してください。
2. 植付昇降レバーで、植付部を地面から 30cm 程度の高さにしてください。
3. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。



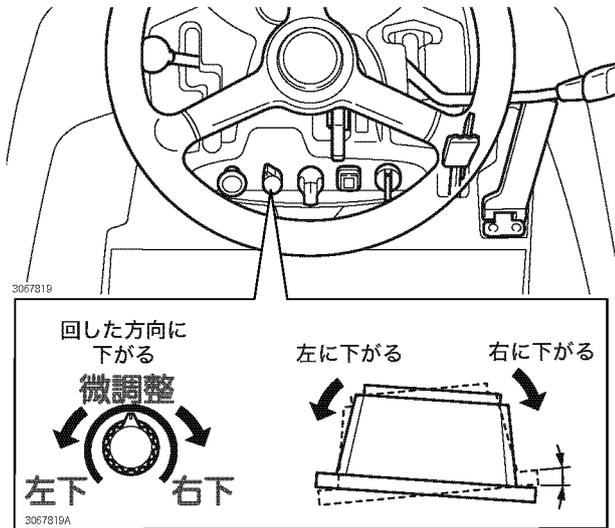
3067815

4. 植付昇降レバーを植付昇降「下」位置にすると、UFO装置が作動します。



3067803A

5. UFO自動調整ボリュームを「右下」方向に回すと植付部が右に下がり、反対に「左下」方向に回すと左に下がります。

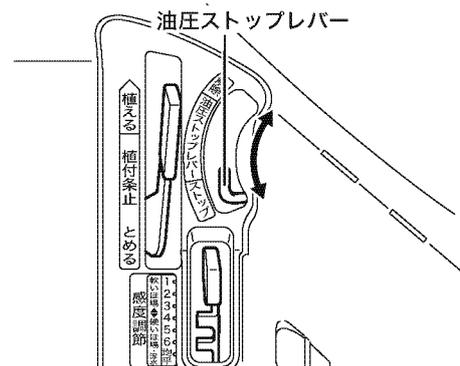


6. 確認後は、植付部が水平になる位置に、UFO自動調整ボリュームを戻してください。
7. 植付昇降レバーを植付昇降「N」（中立）位置にしてください。植付部は中央復帰して本機と平行になります。
8. エンジンを停止してください。

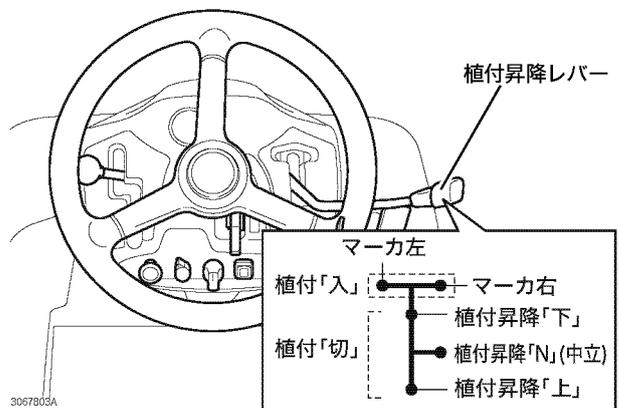
以上で水平制御の確認は終了です。植付部が水平にならない場合は、121ページの要領に従って処置を行ってください。

手動操作の確認のしかた

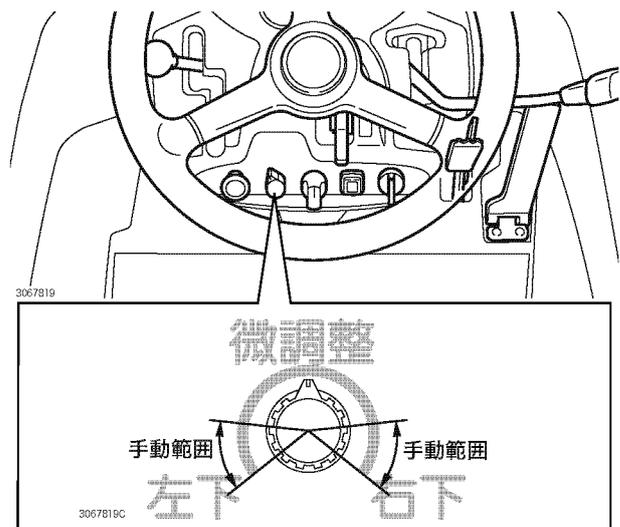
1. エンジンを始動してください。
2. 植付昇降レバーで、植付部を地面から 30cm 程度の高さにしてください。
3. 油圧ストップレバーを「ストップ」位置にしてください。



4. 植付昇降レバーを、植付昇降「N」（中立）位置にしてください。



5. UFO自動調整ボリュームを「手動範囲」まで回すと植付部が傾きます。



6. 確認後は、植付昇降レバーを植付昇降「下」位置にして、植付部が水平になる位置に、UFO自動調整ボリュームを戻してください。
7. 植付昇降レバーを植付昇降「N」（中立）位置にしてください。植付部は中央復帰して本機と平行になります。
8. エンジンを停止してください。

11. 植付部の点検・調節のしかた

(1) 植付爪の摩耗点検・交換のしかた

植付けた苗の姿勢が乱れたり、ばらける、浮き苗になるなど、うまく植付けられないときは、植付爪の摩耗が考えられます。下記の要領で植付爪の摩耗点検・交換をしてください。

[参考]

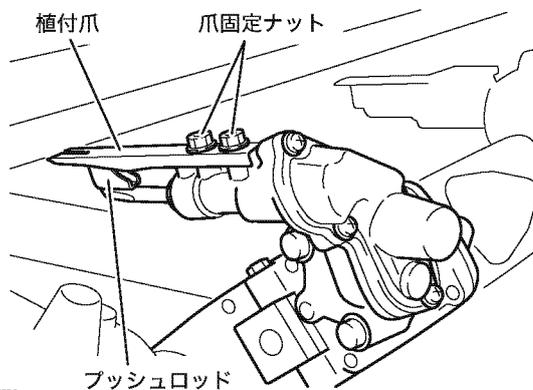
- 新しい植付爪は、プッシュロッドが押し出されたときに、植付爪の先端とプッシュロッドの先端とが図のようになっています。植付爪の点検、および摩耗度合の参考にしてください。

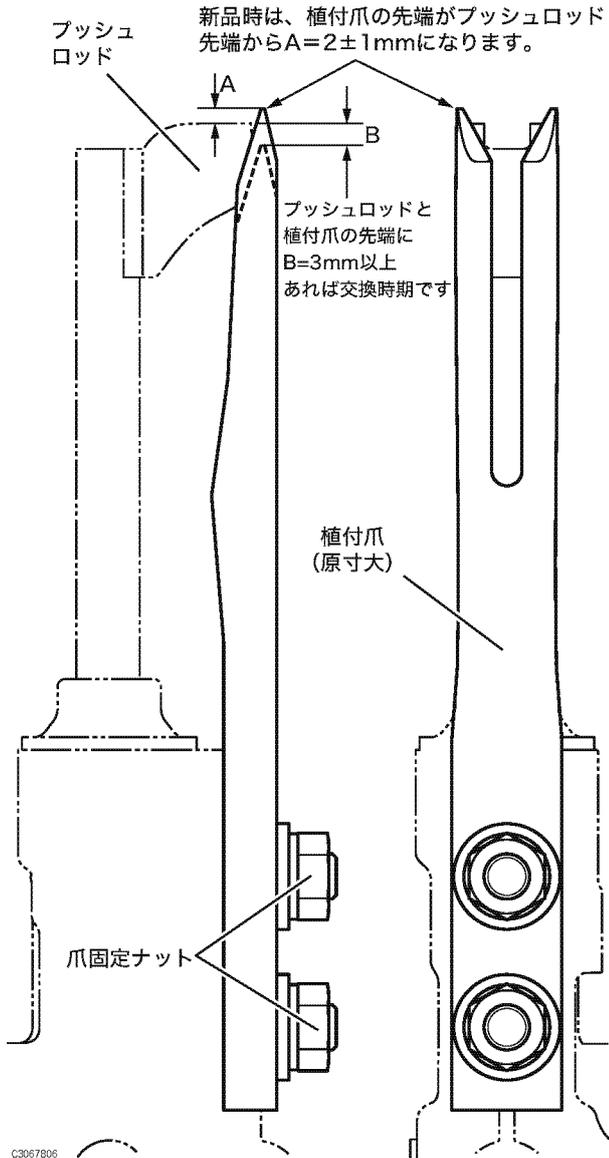
〈点検のしかた〉

ロータケースを手動で回転させ（66 ページ参照）、プッシュロッドが押し出された状態のときに、植付爪とプッシュロッドの先端は、 $A=2\pm 1\text{mm}$ です。植付爪が、 $B=3\text{mm}$ 以上摩耗している場合は交換してください。

〈交換のしかた〉

1. 植付爪の爪固定ナット（2個）を外し、植付爪を取り外してください。
2. 新しい植付爪を、元通りに取り付けてください。
3. プッシュロッドと植付爪のすき間の点検・調節を行ってください。（99ページ参照）
4. 苗取出板と植付爪のすき間の点検・調節を行ってください。（100ページ参照）
5. 縦取り量の点検・調節を行ってください。（101ページ参照）





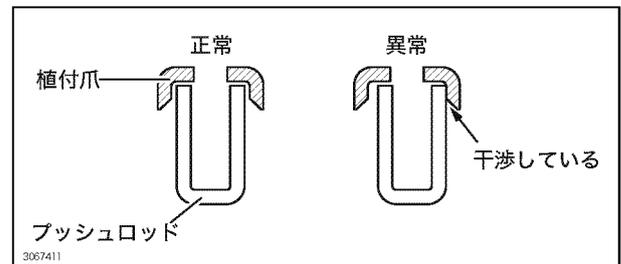
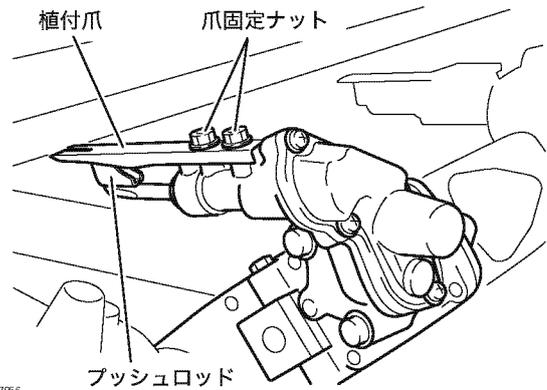
【重要】

- 爪固定ナットはトルクレンチを使用して、締付トルク4.9～6.9N・mで締め付けてください。締付トルクが適正でないと、植付爪がずれて、苗が浮いたり、ばらける原因になります。トルクレンチがないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。
- 植付爪を取り付けるときは、取付部の異物などを必ず取り除いてください。
- 植付爪を交換したときは、プッシュロッドと植付爪が干渉していないか必ず確認してください。

(2) プッシュロッドと植付爪のすき間の点検・調節のしかた

〈点検のしかた〉

ロータケースを手動で回転させ（66ページ参照）、プッシュロッドが植付爪の先端にきたとき、プッシュロッドと植付爪が干渉していないか確認してください。



〈調節のしかた〉

プッシュロッドと植付爪が干渉しているときは、植付爪の爪固定ナットをゆるめて、爪の左右調節を行ってください。調節後は、爪固定ナットを締め付けてください。

(3) 苗取出板と植付爪のすき間の点検・調節のしかた

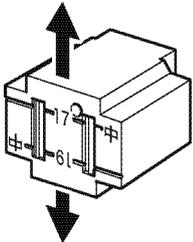
〈点検のしかた〉

1. 爪セットゲージを苗取出口にセットしてください。

爪セットゲージのセットのしかた

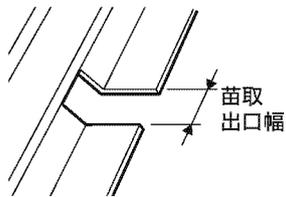
爪セットゲージは、苗取出口の幅に合わせてセットしてください。

苗取出口の幅が19mmの場合は、この面を苗取出口にセットする



苗取出口の幅が17mmの場合は、この面を苗取出口にセットする

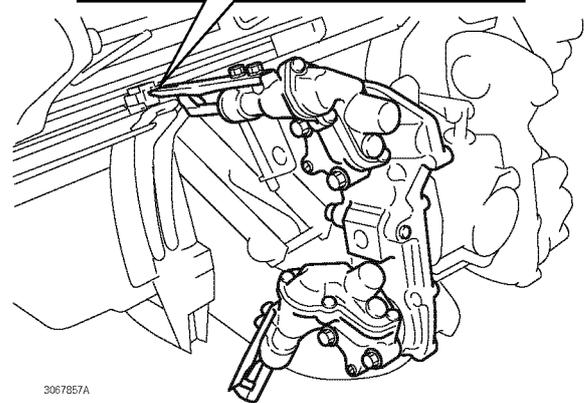
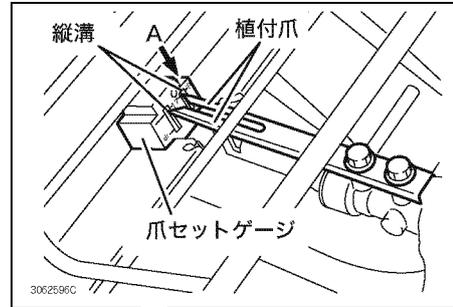
A3063711



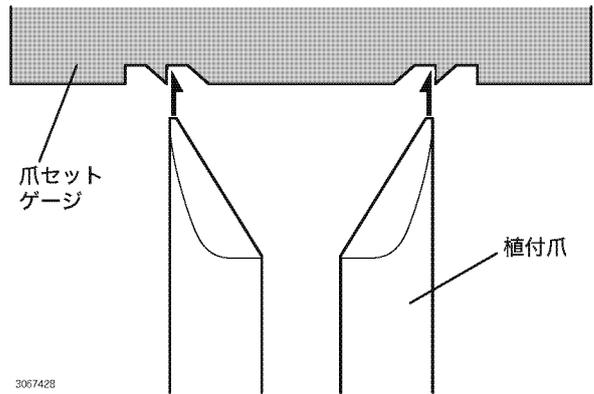
【参考】

- 苗のせ台が最右端・最左端位置では、爪セットゲージが入りません。中央寄りに移動させてください。

2. ロータケースを手動で回転させ (66ページ参照)、植付爪の先端がゲージの縦溝に合っているか確認してください。



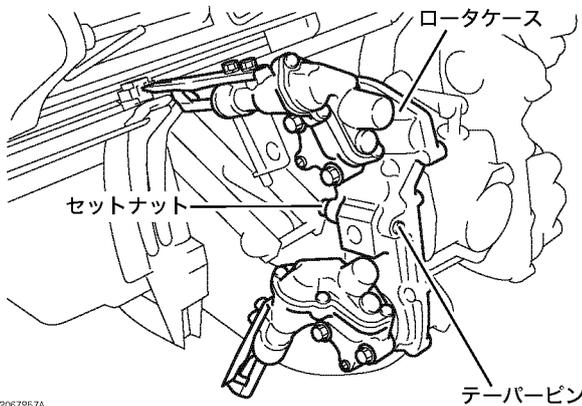
植付爪の適正位置 (A部から見る)



爪の先端が、左右均等にゲージの図の位置に合っていると適正です。

〈調節のしかた〉

1. ロータケースのセットナットを、ボルトの端面までゆるめてください。



3067857A

2. ボルトの端面をたたいて、テーパーピンのかしめをゆるめてください。
3. 爪セットゲージを苗取出口にセットし、ロータケースを左右に動かして、植付爪の先端をゲージの縦溝に合わせてください。
4. ロータケースのセットナットを締め込んで、固定してください。

(4) 縦取り量の点検・調節のしかた

新しい植付爪に交換したときに、植付本数調節レバーの取り量と実際の苗取り量が、合わない場合があります。そのときは、下記の点検・調節を行ってください。

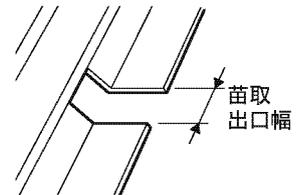
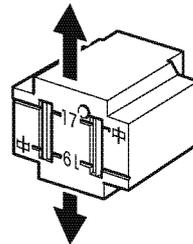
〈点検のしかた〉

1. 植付本数調節レバーを「中」位置にしてください。
2. 爪セットゲージを苗取出口にセットしてください。

爪セットゲージのセットのしかた

爪セットゲージは、苗取出口の幅に合わせてセットしてください。

苗取出口の幅が19mmの場合は、この面を苗取出口にセットする

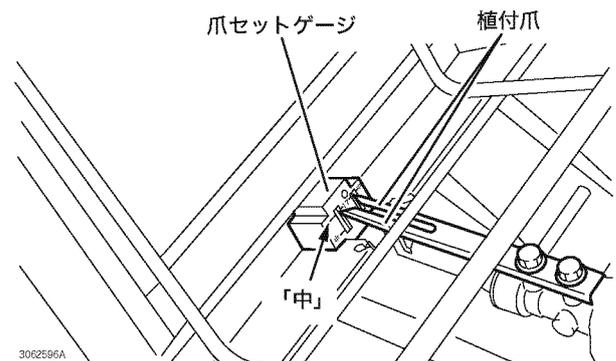


苗取出口の幅が17mmの場合は、この面を苗取出口にセットする

A3063711

【参考】

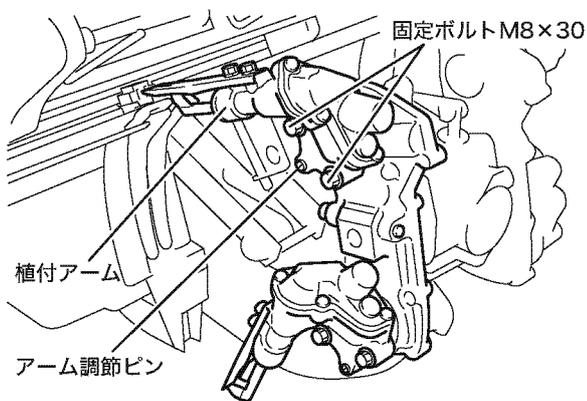
- 苗のせ台が最右端・最左端位置では、爪セットゲージが入りません。中央寄りに移動させてください。
3. ロータケースを手動で回転させ（66ページ参照）、植付爪の先端がゲージの「中」位置に合っているか確認してください。



3062596A

〈調節のしかた〉

1. 植付本数調節レバーを「中」位置にしてください。
2. 植付アームの固定ボルトM8×30（2本）をゆるめてください。
3. 植付アームのガタを上方に寄せながら、爪セットゲージの「中」位置に植付爪の先端が合うように、アーム調節ピンをマイナスドライバーで調節してください。
4. 植付アームの固定ボルトM8×30（2本）を締め付けてください。



3067857

12. バッテリーの点検・整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリーの取り扱い方法や危険性を十分に理解していない子供などに、点検・整備をさせないでください。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取り付けるときは、（+）側を先に取り付け、取り外すときは（-）側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、破損や火災の原因になります。

【重要】

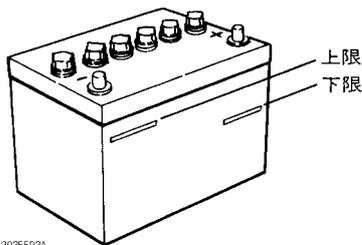
- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

指定バッテリー	40B19L (部品コードNo.1A6750-51490)
---------	----------------------------------

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

バッテリー液の点検・補給のしかた

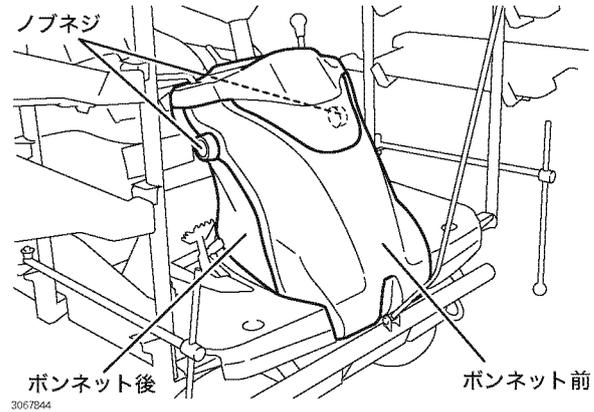
各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



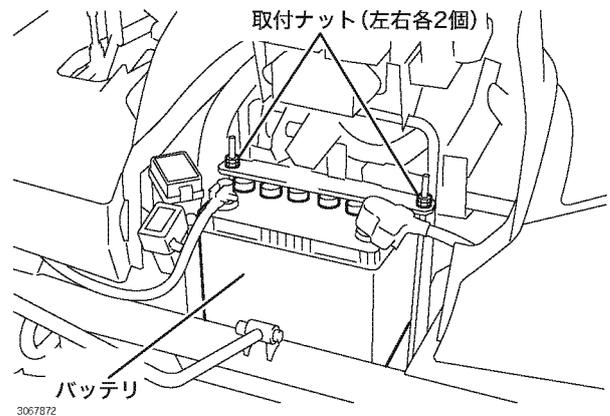
- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

バッテリーの取り外しかた

1. ボンネット前を取り外してください。
(76ページ参照)



2. バッテリーを固定している、取付ナット（左右各2個）を外してください。



3. バッテリーの「-」端子を外した後、「+」端子を外してください。
4. バッテリーを抜き出してください。
5. バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

補充電のしかた

以下の状態になったときには、補充電を行ってください。

- 寒冷地など、気温の低い地域で使うとき。
- エンジンの始動がしにくくなったとき。
- 自然放電によって、セル始動ができないとき。
- ライトが暗くなったとき。

1. バッテリーを取り外してください。
2. 液口栓を外し、バッテリーの「+」を充電器の「+」に、バッテリーの「-」を充電器の「-」に接続してください。
3. 3アンペア程度で8～10時間行ってください。

【重要】

- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを取り付けるときは、ターミナル接続部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーのターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。

長期間使用しない場合は、バッテリーを本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、バッテリーを本機に装着したまま保管する場合は、必ずアース側（「-」端子）を外しておいてください。

13. ヒューズの点検・交換のしかた

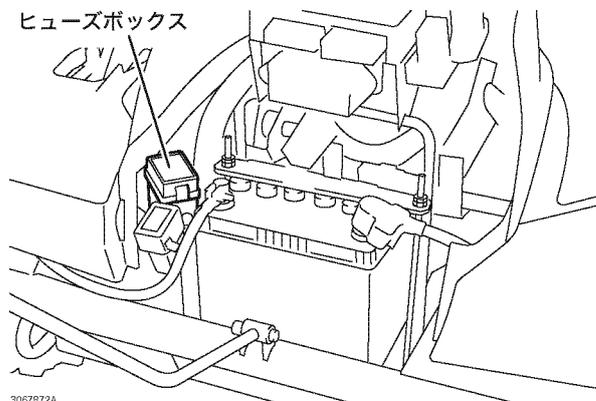
ヒューズが切れると、電装関係が作動しなくなるだけでなく、バッテリーに充電されなくなりますので、ヒューズが切れた場合は、次の要領で交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れるような場合は、どこかでショートしている可能性があります。お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

ヒューズは、ボンネット前を開けるとあります。

ヒューズボックス

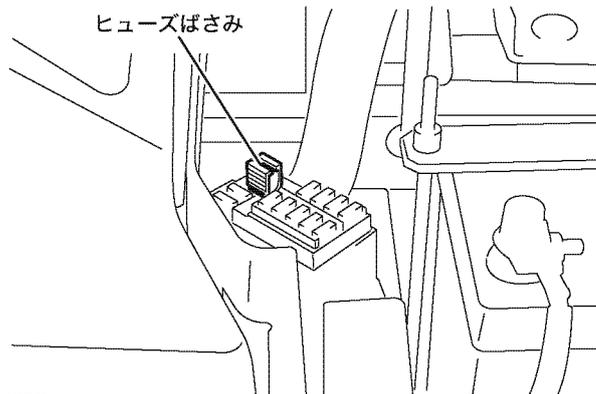
1. ボンネット前を取り外してください。
(76ページ参照)
2. ヒューズボックスのふたを取り外してください。

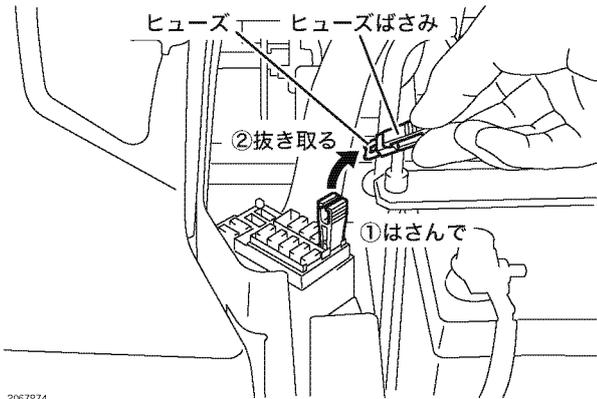
ヒューズボックス



3. ヒューズばさみを取り外し、ヒューズを上部からはさみ込んで、ヒューズを抜き取ってください。

ヒューズばさみ





3067874

4. 切れたものと同容量のヒューズと交換してください。
予備ヒューズは、ヒューズボックスの中に入っています。
5. ヒューズを交換した後、ヒューズばさみを元の場所に戻してください。
6. ヒューズボックスのふたを取り付けて、ボンネットを取り付けてください。

〈UFOなし仕様〉

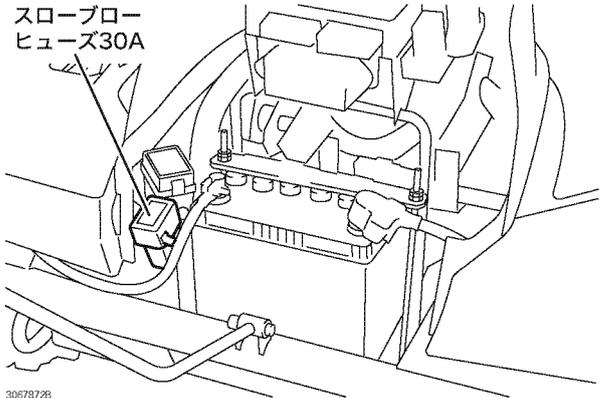
10A	20A	予備ヒューズ	10A
30A			プラ-
10A			
警報			
20A	20A		
ペダル変速	スタータ		
10A	30A		
エンジン	充電		
10A			
ライト			
10A	30A		
施肥機	施肥充電		

〈UFO仕様〉

10A	20A	予備ヒューズ	10A
30A			プラ-
10A			
UFO/警報			
20A	20A		
ペダル変速	スタータ		
10A	30A		
エンジン	充電		
10A	30A		
ライト	コントローラ		
10A	30A		
施肥機	施肥充電		

スローブローヒューズ30A

スローブローヒューズは、本機電装回路の保護のための大容量ヒューズです。



3067875

スローブローヒューズは、バッテリーのとなりにあります。

部品コード: 1S6480-07050

14. 燃料パイプの点検のしかた

警告

- 燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか、作業前には必ず点検してください。また、燃料もれがあるときは、新しい燃料パイプと交換してください。火災の原因になります。

注意

- 燃料パイプなどのゴムホース類は2年ごとに交換してください。ゴムホース類は時間が経過すると劣化します。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

1. フロアを取り外してください。(77ページ参照)
2. 燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。
3. 燃料パイプが傷んでいるときは、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。
4. フロアを、元通りに取り付けてください。

15. 電気配線の点検のしかた

警告

- バッテリーや電気配線コードに付着しているワラクズやゴミは、作業前にきれいに取り除いてください。火災の原因になります。

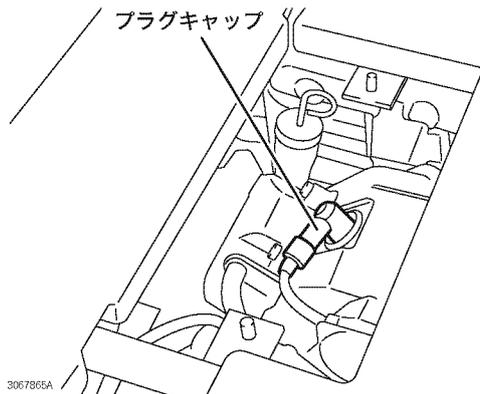
注意

- 電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

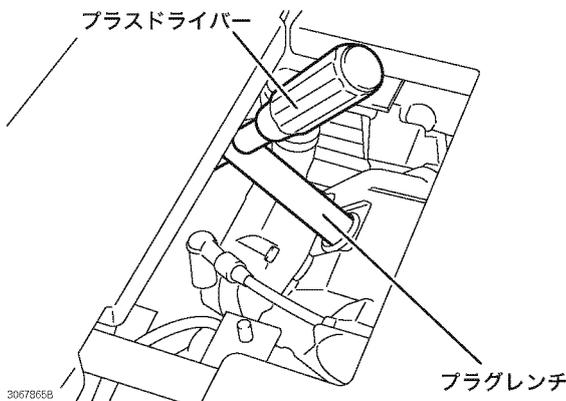
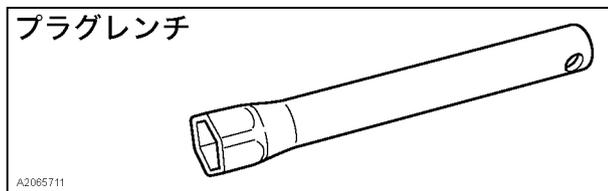
1. ボンネットとフロアを取り外してください。(76ページ参照)
2. 電気配線コードが他の部品に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか確認してください。
3. 電気配線コードが傷んでいるときは、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。
4. フロアとボンネットを、元通りに取り付けてください。

16. 点火プラグの交換のしかた

1. リアセンターカバーを取り外してください。
(90ページ参照)
2. エンジン上部にあるプラグキャップを取り外してください。



3. 付属のプラグレンチの穴にプラスドライバーなどを差し込み、プラグレンチを回して、点火プラグを取り外してください。



4. 新しい点火プラグを、プラグレンチでシリンダヘッドに取り付けてください。

点火プラグ

型番	メーカー	部品コード
BPR4ES	NGK製	165001-70660

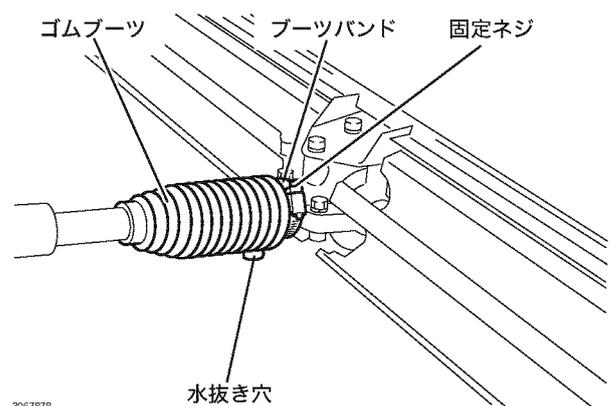
5. 点火プラグにプラグキャップを元通りに取り付けてください。
6. リアセンターカバーを元通りに取り付けてください。

17. すこやかロータ安全ピンの交換のしかた(Z仕様のみ)

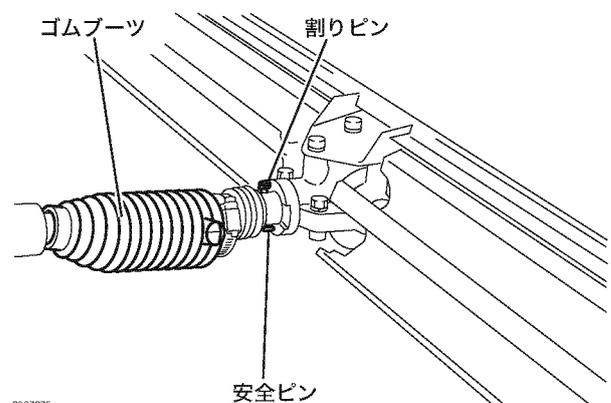
泥や夾雑物の詰まりなどによる負荷から駆動部を保護するために、すこやかロータには安全ピンを設けています。万一切れたときは、安全ピン（付属品）を交換してください。

〈交換のしかた〉

1. ゴムブーツのブーツバンドの固定ネジを、マイナスドライバーでゆるめて、ゴムブーツを前方にめくってください。



2. 切れた安全ピンを取り除き、新しい安全ピンを割りピンで取り付けてください。



3. ゴムブーツを元通り取り付けてください。

【参考】

- ゴムブーツを取り付けるときは、水抜き穴が下を向くように取り付けてください。

【重要】

- 安全ピンの取付位置は、図に示している位置です。それ以外の位置には使用しないでください。

18. タイヤの点検について

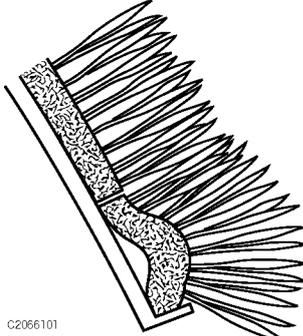
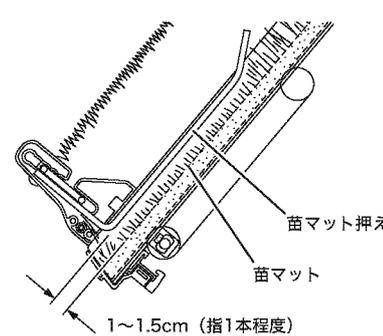
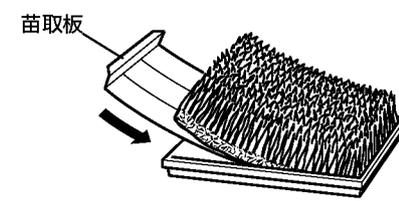
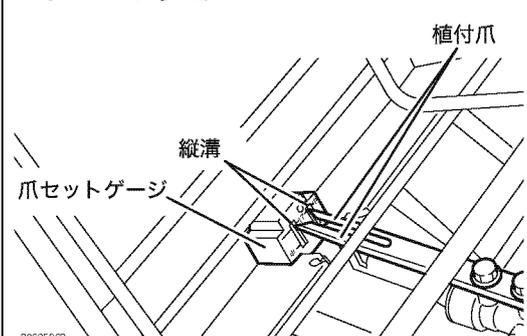
- タイヤに亀裂やひび割れなどの異常がないか確認してください。
- 深い亀裂やひび割れがある場合は、交換してください。傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。

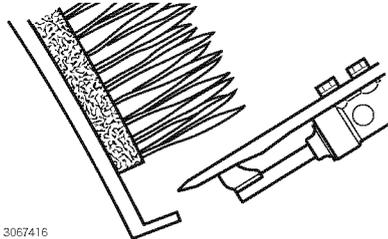
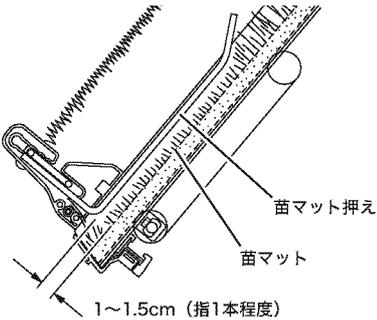
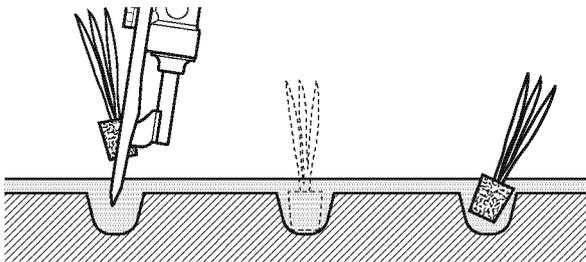
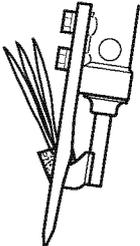
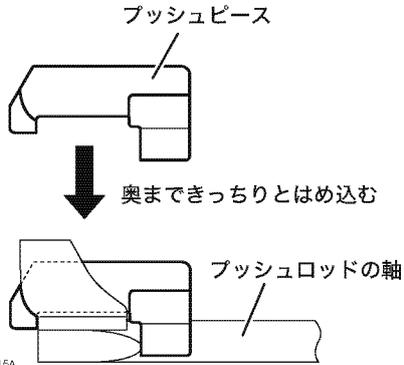
11章 不調診断のしかた

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれたり、傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの特販店、またはJAへ連絡してください。

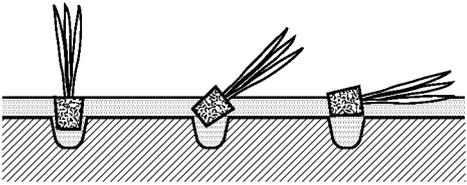
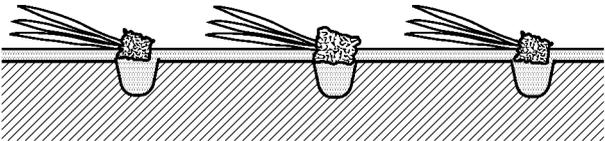
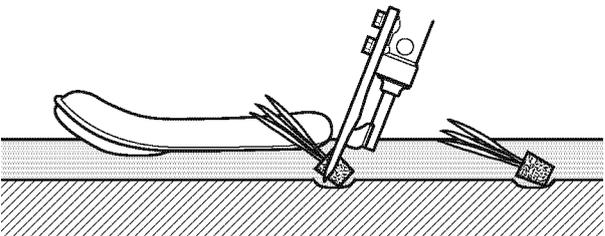
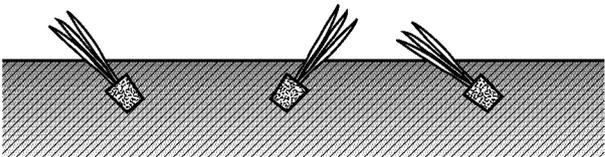
1. 欠株が出る

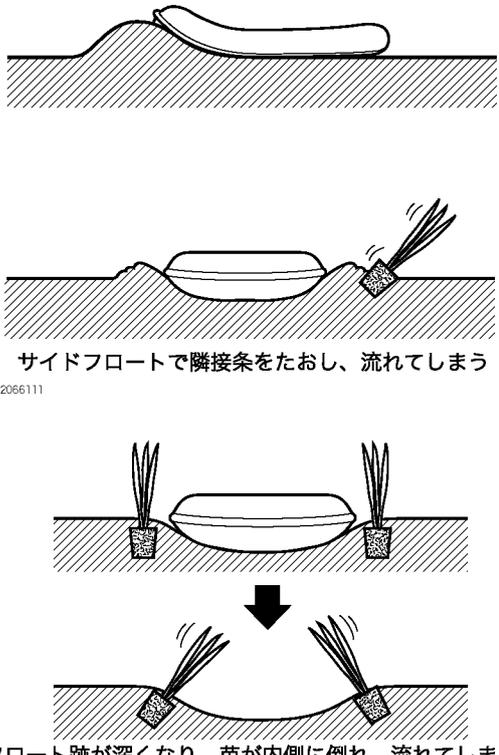
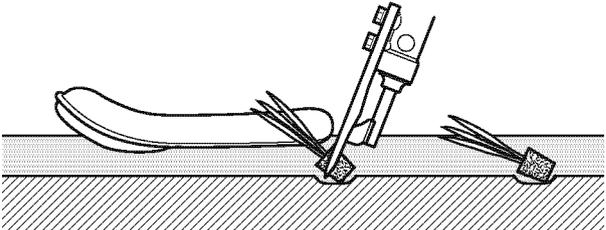
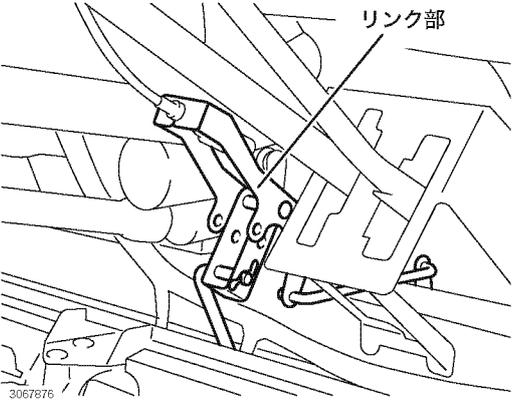
原因	こう処置します
<p>① 播種量が少なかったり、播種ムラ・発芽ムラ・部分枯れが多くありませんか。</p>	<p>● 悪い苗は、田植機に使用しないでください。 (悪い苗は、補植に使用するようにしてください。)</p>
<p>② ● 苗マットの厚さが薄すぎませんか。 ● 苗マットが軟らかすぎませんか。 ● 苗の根張りが悪く、苗マットがくずれやすいですか。 ● 苗マット押えを解除状態で、苗つぎしていませんか。</p>  <p style="text-align: center;">苗のせ台の上で苗がくずれて、 ダンゴ状になり植付けできない。</p> <p style="font-size: small;">C2066101</p>	<p>● 苗マット押えを調節して、苗くずれを防いでください。(70ページ参照)</p>  <p style="font-size: small;">30625708</p> <p>● ゆっくり植付けてください。 ● 苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ● 苗箱から取り出すときは、必ず付属の苗取板を使用して、苗マットのくずれを防いでください。</p>  <p>● 苗マット押えを、セットした状態で苗つぎしてください。</p>
<p>③ 植付爪の異常で、植付けが確実に行われていないのではありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 爪の摩耗 ● 爪の変形 	<p>● 爪を調節するか、交換してください。 (98ページ参照)</p>  <p style="font-size: small;">30625960</p>

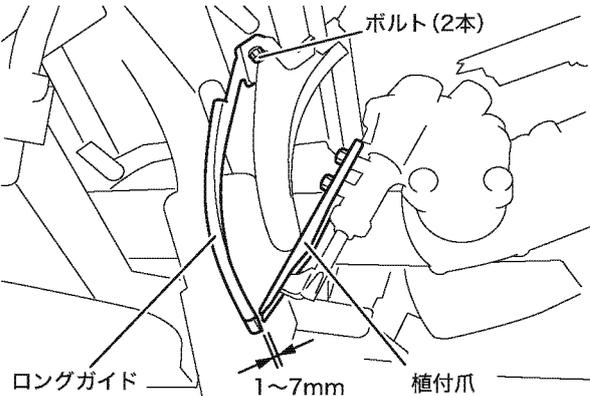
原因	こう処置します
<p>④ 苗のすべりが悪く、苗が引っ掛かっていませんか。</p>  <p>3067416</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗マットが乾きすぎている場合は、水に浸してください。 ● 苗マット押えに苗マットが引っ掛かっている場合は、苗マット押えを適正に調節してください。(70ページ参照)  <p>3062570B</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 苗マットの両側面を手で押さえ、苗マットの幅を少し狭くしてから苗つぎを行ってください。
<p>⑤ 20回ごと、または26回ごとに欠株になっていませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗が重くてずり落ちている可能性があります。苗マット押えを調節して、押さえぎみ(0.5～1cm)にしてください。 ● それでも直らない場合は、タイミング不良の可能性もあります。お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
<p>⑥ ● 床土が粘土質で、粘りが強くありませんか。 また、苗が爪から離れずに、欠株または浮苗になっている。</p>  <p>3067413</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 苗が爪の間にはさまりやすく、爪のかき取り不良になっている。  <p>3067414</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 床土には、水稻育苗に適した土を使用してください。(16ページ参照) ● 苗マットを水に浸してください。 ● 植付爪に付属のプッシュピースを取り付けてください。  <p>3067415A</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 植付深さ調節レバーを1段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● ほ場の水深を2～3cm(少し深め)にしてください。

原因	こう処置します
⑦ プッシュロッドの動きが鈍くないですか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 植付アーム内にグリスを入れすぎている場合は、余分なグリスを除去してください。(78ページ参照) ● プッシュロッドが曲がっている場合は、交換してください。 ● プッシュロッドと植付爪が干渉しているときは、植付爪の爪固定ナットをゆるめて、爪の左右調節を行ってください。(99ページ参照)
⑧ 植付条止レバーを使用した後ではありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 全条かき取るまで空取りをしてから、植付けてください。 ● 長い距離、植付条止レバーを使用していると、苗くずれの原因になります。残りの苗がくずれてしまっている場合は、くずれた苗を取り出して、新しい苗を使用してください。
⑨ 残り苗が少なくありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 残り苗が、苗送りベルトより下方まで減少する前に、苗つぎを行ってください。

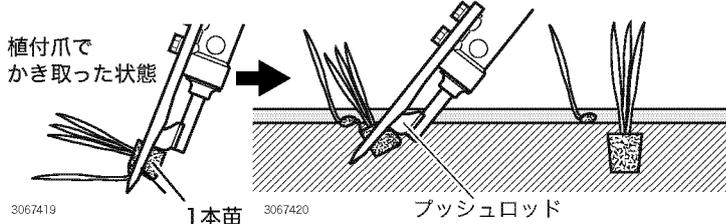
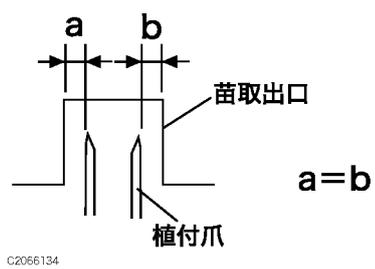
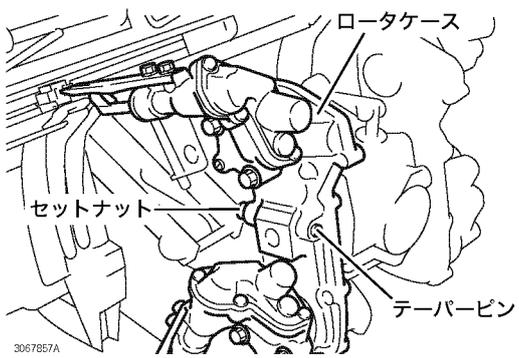
2. 浮苗になる(苗ブロックごと浮く)

原因	こう処置します
<p>① ほ場が硬すぎて、苗がしっかりと植付けることができませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 粘土質のほ場 ● 砂が多いほ場(代かき後2・3日経つとほ場が硬くなりすぎて植付けできなくなります。)  <p style="text-align: center;">爪であいた穴がふさがらず、 水を入れたとき苗が浮く</p> <p><small>C2066106</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ほ場に水を1～2cm入れてほ場を軟らかくしてください。 ● 代かきの直後に植付けてください。 ● 油圧感度調節レバーを「硬いほ場」側に調節してください。(68ページ参照) ● 植付深さ調節レバーを1段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● 植付けに最適なほ場表面の硬さは、17 ページを参照してください。
<p>② 苗マットの根張りが悪く、くずれやすくなっているではありませんか。</p>  <p style="text-align: center;">苗が爪から離れやすく、苗がころぶ</p> <p><small>C2066107</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆっくり植付けてください。 ● 苗押え棒で苗マットを押えてください。(70ページ参照)
<p>③ 水深が深すぎて(3cm以上)、植付けできないではありませんか。</p>  <p style="text-align: center;">フロートが水に浮き、しっかり植付けできない</p> <p><small>3067417</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 油圧感度調節レバーを「硬いほ場」側に調節してください。(68ページ参照) ● ゆっくり植付けてください。 ● 水深が1～2cm程度になるように落水してください。 ● 植付深さ調節レバーを1段「深植」側に調節してください。(68ページ参照)
<p>④ ほ場が軟らかく、苗がしっかりと植付けられていないではありませんか。</p>  <p style="text-align: center;">苗が爪から離れやすく、苗がころぶ</p> <p><small>C2066109</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 代かき後の土が落ち着くまで、田植えを待ってください。 ● 植付深さ調節レバーを1段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● ゆっくり植付けてください。 ● 植付けに最適なほ場表面の硬さは、17 ページを参照してください。
<p>⑤ 機体がヘッドアップして、植付深さが浅くなっていませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● オプションのフロントウエイトを装着してください。

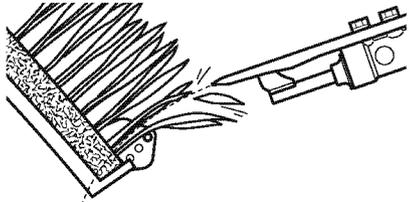
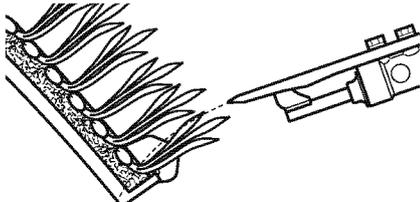
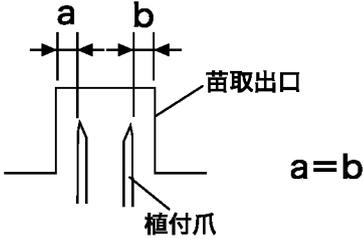
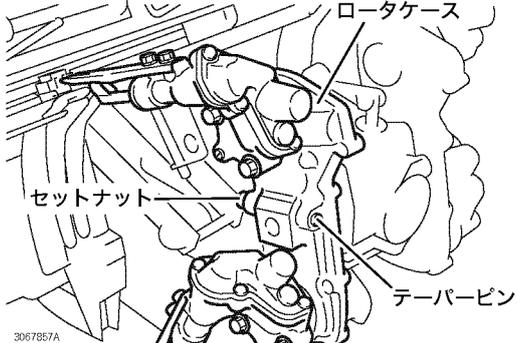
原因	こう処置します
<p>⑥ フロートで泥を押しませんか。</p>  <p>サイドフロートで隣接条をたおし、流れてしまう C2066111</p> <p>フロート跡が深くなり、苗が内側に倒れ、流れてしまう C2066112</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 油圧感度調節レバーを、泥押しをしない程度に「軟いほ場」側に調節してください。(68ページ参照) ● 水を落として、ほ場の表面を硬くする、またはほ場表面を落ち着かせてください。 ● ゆっくり植付けてください。
<p>⑦ フロートが浮いていませんか。</p>  <p>フロートが水に浮き、しっかり植付けできない 3067417</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 油圧感度調節レバーを、泥押しをしない程度に「硬いほ場」側に調節してください。(68ページ参照)
<p>⑧ フロート(センサワイヤー・リンク部)に干渉物がないですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 干渉物を取り除いてください。  <p>リンク部 3067676</p>

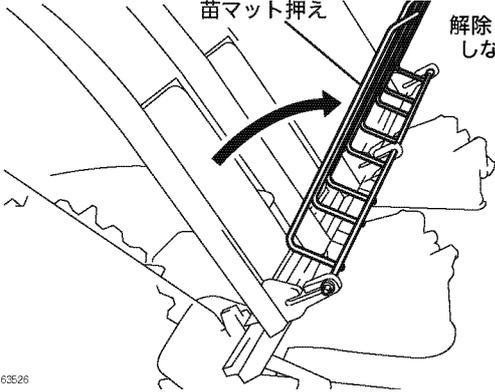
原因	こう処置します
<p>⑨ ロングガイドと植付爪が離れすぎていませんか。 〈ロングガイドと植付爪の位置関係〉</p>  <p>3067877</p>	<p>● ロングガイドと植付爪先端のすき間を調節してください。</p> <p>〈調節のしかた〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 植付本数調節レバーを「中」位置にしてください。 2. ロングガイドのボルト 2 本をゆるめてください。 3. ロングガイドの終端部で、植付爪の先端が 1 ~ 7mm のすき間になるように調節してください。 4. ボルト2本を締め付けて固定してください。

3. 浮苗になる(1本苗が浮いている)

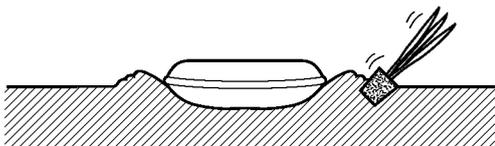
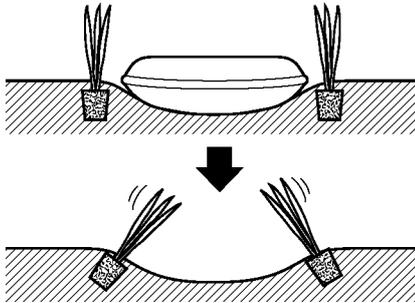
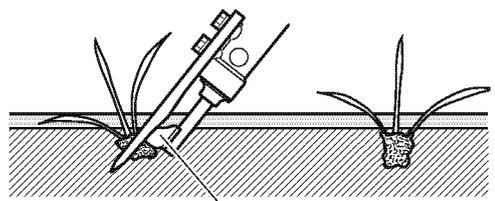
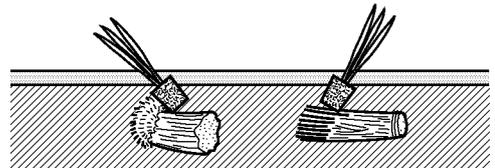
原因	こう処置します
<p>① 苗マットの根張りが悪くありませんか。 ② 苗マットが乾きすぎて(くずれやすい)いませんか。 ● 植付爪でかき取った苗に、1本苗が離れずにくっついてきて、ブッシュロッドで押し込まれずに、1本苗が浮いてしまう。</p>  <p>3067419 1本苗 3067420 ブッシュロッド</p>	<p>● ゆっくり植付けてください。 ● 苗マットを水に浸してください。</p>
<p>③ 苗が植付爪の間にはさまっていませんか。 ④ 植付爪と苗取出口の左右のすき間は、同じ寸法になっていますか。</p>  <p>C2066134</p>	<p>● はさまっている場合は、取り除いてください。 ● ロータケースのテーパピンをゆるめて、左右のすき間の調節をしてください。 (101ページ参照)</p>  <p>3067857A</p>
<p>⑤ ほ場の表面が硬くありませんか。</p>	<p>● ほ場の表面が硬いと、植付時の土の抵抗で苗が抜けることがあります。頻繁に抜ける場合は、再度代かきを行ってください。 ● 植付けに最適なほ場表面の硬さは、17 ページを参照してください。</p>

4. 浮苗になる(葉だけが浮いている(根切れ苗))

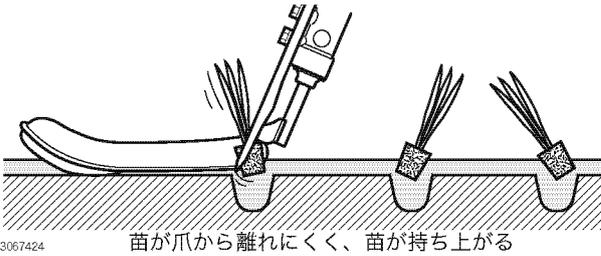
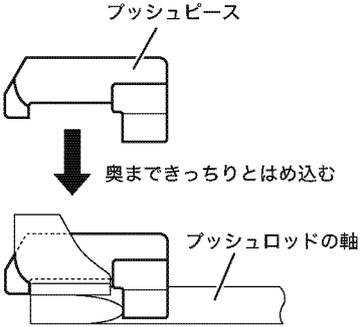
原因	こう処置します
<p>① 苗取出口に苗が覆いかぶさっていませんか。</p>  <p>3067421 植付爪に葉先が当たり、葉が切れてしまう</p> <p>② 播種時に覆土が不十分だった苗マット、または芽出しのときに段積み期間が長かった苗マット(種糞からまっすぐ葉が伸びていない)を使用していませんか。</p>  <p>3067422 糞が持ち上がり表面にくるので、爪でかき取ったときに葉も切れてしまう</p>	<p>● 苗押え棒を調節して、苗取出口に苗が来ないようにしてください。(70ページ参照)</p>
<p>③ 苗取出口の中央に植付爪が通っていますか。</p>  <p>3067857A</p>	<p>● 苗取出口の中央に植付爪が通るように、ロータケースのテーパピンをゆるめて、左右の調節をしてください。(101ページ参照)</p>  <p>3067857A</p>

原因	こう処置します
<p>④ 苗マット押えを解除状態で、苗つぎしていませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 苗マット押えをセットしたとき、苗マット押えの下で倒れた苗が「切れ苗」「腰折れ苗」になります。 ● 苗取出口付近で、苗が裏返ったり、ダンゴ状になっていませんか。  <p>解除した状態で苗つぎをしないでください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗マット押えを、セットした状態で苗つぎしてください。 ● くずれた苗を取り出して、新しい苗を使用してください。
<p>⑤ 植付条止レバーを使用した後ではありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 長い距離、植付条止レバーを使用していると、苗くずれの原因になります。苗ストッパを使用するか、苗マットを取り除いてください。 ● くずれた苗を取り出して、新しい苗を使用してください。

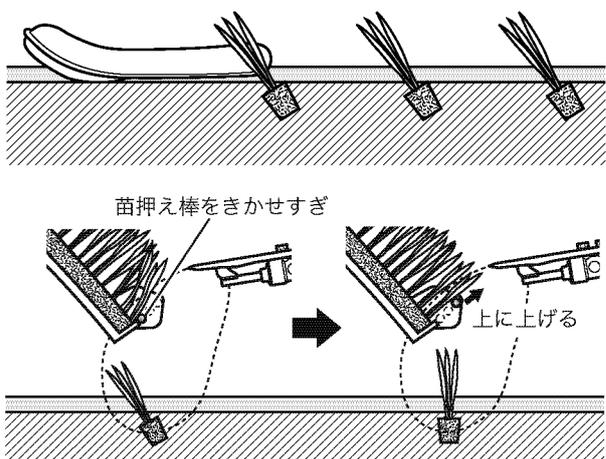
5. 植付けがバラける

原因	こう処置します
<p>① ほ場が軟らかすぎて、しっかりと植付けられていないのでは ありませんか。</p>  <p>C2066111 サイドフロートで隣接条をたおし、流れてしまう</p>  <p>C2066112 フロート跡が深くなり、苗が内側に倒れ、流れてしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 植付深さ調節レバーを 1 段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● 水を落として、ほ場の表面を硬くする、またはほ場表面を落ち着かせてください。 ● ゆっくり植付けてください。 ● 油圧感度調節レバーを「軟いほ場」側に調節してください。(68ページ参照)
<p>② ほ場が硬くありませんか。</p>  <p>3067423 プッシュロッド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ほ場を代かきして、植えやすい硬さにしてください。 ● ほ場に水を 1～2cm 入れて、ほ場を軟らかくしてください。 ● 植付深さ調節レバーを 1 段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● ゆっくり植付けてください。
<p>③ ほ場にワラや雑草などの夾雑物(きょうざつぶつ)が多くありませんか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夾雑物をできるだけ取り除いてください。 ● 植付深さ調節レバーを 1 段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● ゆっくり植付けてください。 ● 油圧感度調節レバーを「硬いほ場」側に調節してください。(68ページ参照)

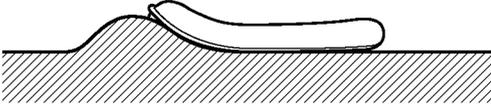
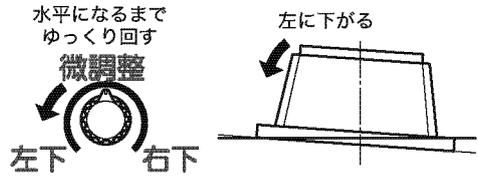
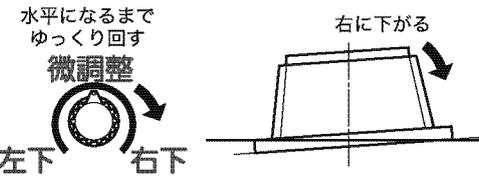
6. 苗が持ち上がる

原因	こう処置します
<p>① ほ場、または床土が粘土質で、植付けた苗が持ち上がるのではありませんか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 植付深さ調節レバーを 1 段「深植」側に調節してください。(68ページ参照) ● ほ場の水深を 2～3cm(少し深め)にしてください。 ● 植付爪に付属のプッシュピースを取り付けてください。  <ul style="list-style-type: none"> ● 植付けに最適なほ場表面の硬さは、17 ページを参照してください。 ● 床土には、水稻育苗に適した土を使用してください。(16ページ参照)
<p>② プッシュロッドの動きが、鈍くありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プッシュロッドの動きが鈍い場合は、78ページを参照して調節してください。

7. 苗が前進方向(前傾)に植付けられる

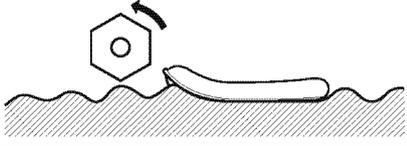
原因	こう処置します
<p>① 苗押え棒の調節は適正ですか。</p>  <p>C2066121</p> <p>3067425</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 苗押え棒を、葉先が植付爪に当たらないように、調節してください。(70ページ参照) ● 苗マットが硬い場合は、苗を水に浸してください。また、横送り回数を20回(69ページ参照)、植付本数調節レバーを「少」側(69ページ参照)に調節してください。 ● ゆっくり植付けてください。
<p>② フロートで泥を押していませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 植付深さ調節レバーを1段「浅植」側に調節してください。(68ページ参照) ● 油圧感度調節レバーを、泥押ししない程度に「軟いほ場」側に調節してください。(68ページ参照)
<p>③ 苗の草丈が20cm以上ある苗を使用していませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 植付爪の遠心力で、前に倒れることがあります。ゆっくり植付けてください。
<p>④ ほ場の表面が軟らかすぎませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ほ場を半日以上置いてから、植付けしてください。 ● 植付けに最適なほ場表面の硬さは、17ページを参照してください。

8. フロートで泥を押し

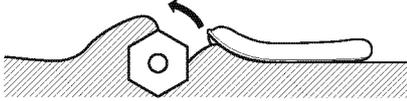
原因	こう処置します
<p>① 油圧感度調節が、ほ場の硬さに合っていないではありませんか。</p>  <p>② フロートの下にワラなどの夾雑物が多くありませんか。 ③ フロートの上に泥が堆積していませんか。</p>	<p>● フロートが泥押ししなくなるまで、油圧感度調節レバーを「軟いほ場」側に調節してください。(68ページ参照)</p> <p>● 夾雑物を取り除いてください。 ● フロートの上の泥を取り除いてください。</p>
<p>④ ほ場の表面がトロトロで軟らかいではありませんか。</p>	<p>● 水を落として、ほ場の表面を硬くする、またはほ場表面を落ち着かせてください。 ● ゆっくり植付けてください。</p>
<p>⑤ 植付部が左右に傾いていませんか。</p>	<p>● UFO機構がある場合は、UFO自動調整ボリュームを「右下」または「左下」に回して、植付部が地面と水平になるように調節してください。 (植付部が少し左上がりするとき)</p>  <p>3067819G</p> <p>(植付部が少し右上がりするとき)</p>  <p>3067819F</p>
<p>⑥ サイドフロートが前下がりになっていませんか。</p>	<p>● 前下がりになっている原因(例えば、粒状・ペースト施肥機が装着されている場合で、ホースなどでフロートを押ししている)を取り除き、水平で植付けられるようにしてください。</p>

9. すこやかロータ関連(Z仕様のみ)

〈ほ場の凹凸が均平にならない〉

原因	こう処置します
①ロータの高さが高いのではありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロータ高さ調節レバーを1・2段「下げる」側に調節してください。 ●ロータの高さ調節で解決しない場合は、油圧感度を「硬いほ場」側に動かしてください。 ●フロントウエイト(別売)を装着してください。
②本機前方が浮き上がっていませんか。	
③ほ場表面が硬くありませんか。	

〈ロータで泥を押し〉

原因	こう処置します
①ロータの高さが低いのではありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロータ高さ調節レバーを1・2段「上げる」側に調節してください。 ●ロータの高さ調節で解決しない場合は、油圧感度を「軟らかいほ場」側に動かしてください。
②ほ場にワラや雑草などの夾雑物(きょうざつぶつ)が多くありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ●夾雑物をできるだけ取り除いてください。 ●ゆっくり植付けてください。

〈隣接条への泥押し、または水押しで苗を倒す〉

原因	こう処置します
①ほ場の表面が軟らかい、または水が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ●水深が1cm程度になるように落水してください。 ●ゆっくり植付けてください。 ●ロータ高さ調節レバーを1・2段「上げる」側に調節してください。 ●ロータの高さ調節で解決しない場合は、ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして、ロータを収納してください。

〈ロータが回転しない〉

原因	こう処置します
①ロータ高さ調節レバーが「収納」位置になっていませんか。	●ロータ高さ調節レバーを「収納」位置以外の位置にしてください。
②伝動軸の安全ピンが切れていませんか。	●伝動軸の安全ピンを交換してください。交換は107ページを参照いただくか、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
③ワイヤーの調節は適正ですか。	●ワイヤーを調節してください。調節は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

〈ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にしても、ロータが止まらない〉

原因	こう処置します
①ワイヤーの調節は適正ですか。	●ワイヤーを調節してください。調節は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

〈植付部を最上げにしても、ロータが止まらない〉

原因	こう処置します
①ワイヤーの調節は適正ですか。	●ワイヤーを調節してください。調節は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

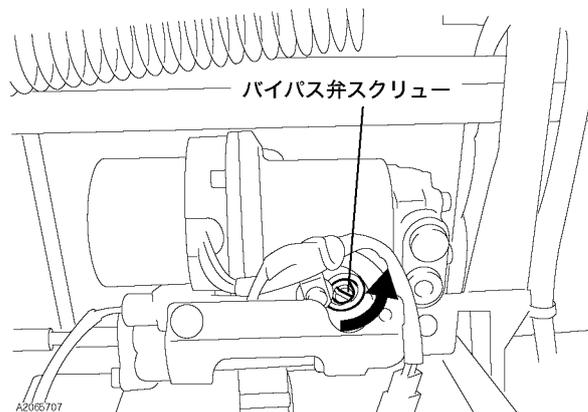
10.UFO装置が正常に作動しない(U仕様のみ) (ブザー停止・警報表示スイッチが点滅している)

こんな確認をして	こう処置します
自動でも手動でも作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒューズを点検してください。(104ページ参照) ●コントローラ・油圧部品などの不調が考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
植付昇降レバーが植付昇降「下」位置でも、植付部が傾いたままになり、UFO 自動調整ボリュームを回しても水平に調節できない。	●コントローラまたは、センサなどの不調が考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
植付昇降レバーが植付昇降「N」(中立)位置で、植付部が傾いてしまう。	●ナイスティUFO 作動用のローリングシリンダ右に付いている、中央復帰スイッチの不調が考えられます。交換、または、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

UFO装置が正常に動作しない場合の 応急処置について

〈ナイスティUFO油圧バイパス機能の使いかた〉
UFO装置が故障などにより、正常に作動しなくなった場合でも、とりあえず作業を続行したいときは、以下の要領で応急処置をしてください。

1. バイパス弁スクリューを、矢印方向に回してください。4～5回転すると、ロック位置になりますので、そこで止めてください。
(スクリューは、マイナスドライバーまたは10円玉などで回せます。)



2. バイパス弁スクリューを回すことで、油圧シリンダの右室と左室をつなげて、シリンダの作用力を無くし、苗のせ台のローリングバネでバランスを取るようになり、作業を続行することができます。
3. 元に戻すときは、バイパススクリュー弁を逆方向に止まるまで回してください。

自己診断機能について

ナイスティUFOのコントローラ、または電装部品に故障が発生した場合には、ブザー停止・警報表示スイッチが点滅して、故障箇所をお知らせします。ブザー停止・警報表示スイッチが点滅しているときは、キースwitchを一度「切」位置にしてください。再度「入」位置にしてもまだ点滅している場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

〈ブザー停止・警報表示スイッチ〉

表1に、各センサ・アクチュエータ類の故障時の点滅回数と、故障時の本機の状態を示します。

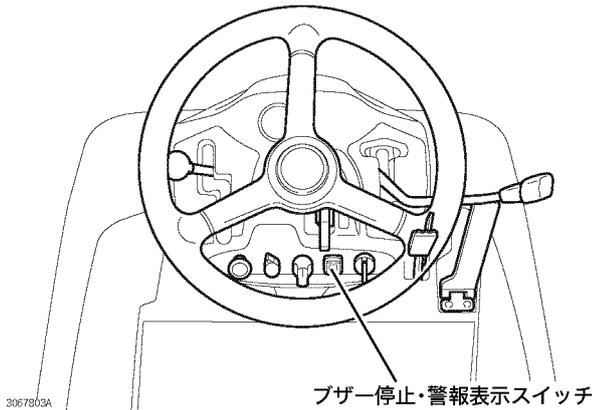


表1 (点滅回数と故障箇所)

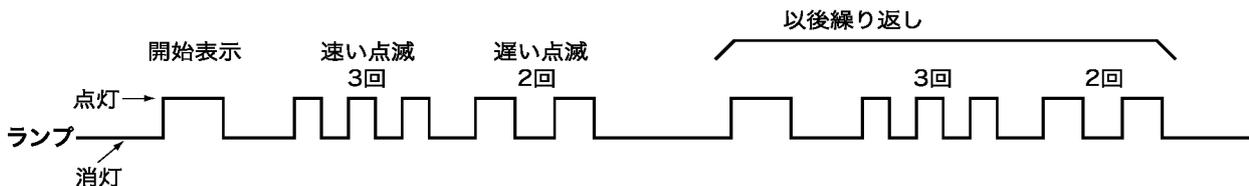
点滅回数		故障箇所	故障発生時の本機の状態
速い点滅	遅い点滅		
3回	2回	傾斜センサ	UFO自動装置が作動しません。
3回	3回	UFO自動調整ボリューム	UFO手動操作ができません。
3回	4回	角速度センサ	傾斜センサだけでUFO自動制御を行います。
6回	3回	電源電圧	バッテリーの電圧が低下しています。バッテリーを交換または充電してください。
6回	4回	電源電圧	警報ブザーが速い間隔で鳴り続けます。
6回	8回	コントローラ	コントローラの不具合が考えられます。繰り返し発生する場合はコントローラを交換してください。
7回	2回	UFO右下げ	植付部の右下げを停止します。
7回	3回	コントローラ	コントローラの不具合が考えられます。繰り返し発生する場合はコントローラを交換してください。
7回	4回	UFO左下げ	植付部の左下げを停止します。
7回	5回	UFOモータ	UFOモータが停止します。逆方向へは作動します。
7回	6回	コントローラ	コントローラの不具合が考えられます。繰り返し発生する場合はコントローラを交換してください。
7回	7回	UFO右下げ	通常動作するがUFOモータの電流を検出していない。
7回	8回	UFO左下げ	通常動作するがUFOモータの電流を検出していない。
8回	3回	コントローラ	コントローラの不具合が考えられます。繰り返し発生する場合はコントローラを交換してください。

〈故障発生時の表現方法〉

1) 1つのセンサ(アクチュエータ)のみの故障発生時

表1の自己診断内容に応じて、以下のような点滅でお知らせします。

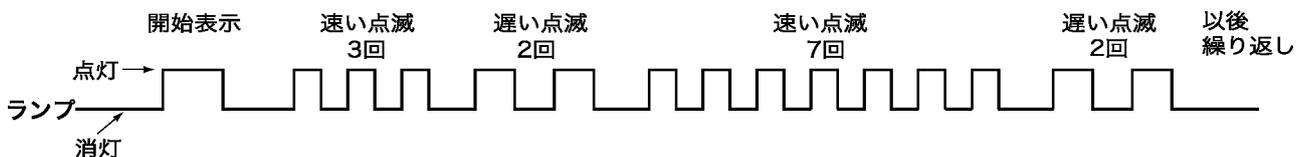
例)「傾斜センサ」に異常が発生したとき



2) 複数のセンサ(アクチュエータ)の故障が同時に発生したとき

表1の自己診断内容に応じて、以下のような点滅モードを交互に繰り返します。

例)「傾斜センサ」と「UFO右下げ」に同時に異常が発生したとき



12章 その他

1. 主要諸元

名称		ヤンマー乗用田植機		
型式名		RJ4		
区分		-		
機体寸法	全長 (mm)	2815		
	全幅(作業時) (mm)	1565(2030)		
	全高 (mm)	1550		
最低地上高 (mm)		340		
機体質量(重量)[施肥機付] (kg)		383[436]		
エンジン	型式名		MZ300	
	種類		空冷4サイクルOHVガソリン	
	総排気量 (L{cc})	0.301{301}		
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)	5.8{7.9}/3600(最大7.4{10.0})		
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	10.0		
	始動方式		セルスタータ方式	
走行部	駆動方式		四輪駆動	
	かじ取り方式		アッカーマン方式(パワーステアリング)	
	車輪	前輪	ノーバンクタイヤ(550mm)	
		後輪	ゴム両ラグタイヤ(800mm)	
	輪距 (mm)	前輪:760・後輪:740		
	軸距 (mm)	950		
	変速段数 (段)	前進2・後進1 (HMT無段変速)		
植付部	植付方式		ロータリー式	
	植付条数 (条)	4		
	植付条間 (cm)	30		
	植付株間(スリップ率5%) (cm)	30・26・22・18・16・13		
	植付株数(スリップ率5%) (株/3.3m ²)	37・43・50・60・70・85		
	植付深さ (cm)	1.5~6.0(7段階)		
	1株本数調節量	横送り (mm/回数)	11/26・14/20	
縦かき取量 (mm)		8~17		
苗の条件	苗の種類		マット苗	
	葉令・草丈		稚苗:2.0~2.5葉 10~15cm・中苗:2.5~4.0葉 15~25cm	
	苗マット寸法(縦×横×厚さ) (cm)	58×28×3		
苗とう載数(予備苗数) (箱)		12(4)		
作業速度(スリップ率5%) (m/s)		0~1.25(スリップ率5%:0~1.19)		
作業能率(計算値)[施肥機付] (分/10a)		18[22]		
安全鑑定番号		受検予定		
警報装置		苗つぎ警報 肥料補給警報(粒状施肥機付の場合) 肥料詰り警報(粒状施肥機付の場合) 転倒警報(粒状施肥機付の場合)		

※植付株間・植付株数の数値は、スリップ率で変化しますので、目安としてください。

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※仕様によっては、記載されている数値が異なる場合があります。

名称	ヤンマー乗用田植機		
型式名	RJ5		
区分	-		
機体寸法	全長 (mm)	2890	
	全幅(作業時) (mm)	1845(2395)	
	全高 (mm)	1775	
最低地上高 (mm)	365		
機体質量(重量)[施肥機付] (kg)	442[500]		
エンジン	型式名	MZ360	
	種類	空冷4サイクルOHVガソリン	
	総排気量 (L{cc})	0.357{357}	
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)	7.1{9.7}/3600(最大8.8{12.0})	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	10.0	
	始動方式	セルスタータ方式	
走行部	駆動方式	四輪駆動	
	かじ取り方式	アッカーマン方式(パワーステアリング)	
	車輪	前輪	ノーバンクタイヤ(600mm)
		後輪	ゴム両ラグタイヤ(850mm)
	輪距 (mm)	前輪:995・後輪:935	
	軸距 (mm)	1050	
	変速段数 (段)	前進2・後進1(HMT無段変速)	
植付部	植付方式	ロータリー式	
	植付条数 (条)	5	
	植付条間 (cm)	30	
	植付株間(スリップ率5%) (cm)	30・26・22・18・16・13	
	植付株数(スリップ率5%) (株/3.3m ²)	37・43・50・60・70・85	
	植付深さ (cm)	1.5~6.0(7段階)	
	1株本数調節量	横送り (mm/回数)	11/26・14/20
縦かき取量 (mm)		8~17	
苗の条件	苗の種類	マット苗	
	葉令・草丈	稚苗:2.0~2.5葉 10~15cm・中苗:2.5~4.0葉 15~25cm	
	苗マット寸法(縦×横×厚さ) (cm)	58×28×3	
苗とう載数(予備苗数) (箱)	16(6)		
作業速度(スリップ率5%) (m/s)	0~1.33(スリップ率5%:0~1.26)		
作業能率(計算値)[施肥機付] (分/10a)	14[16]		
安全鑑定番号	受検予定		
警報装置	苗つぎ警報 肥料補給警報(粒状施肥機付の場合) 肥料詰り警報(粒状施肥機付の場合)		

※植付株間・植付株数の数値は、スリップ率で変化しますので、目安としてください。

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※仕様によっては、記載されている数値が異なる場合があります。

名称	ヤンマー乗用田植機		
型式名	RJ6		
区分	U		
機体寸法	全長 (mm)	2890	
	全幅(作業時) (mm)	1845(2760)	
	全高 (mm)	1775	
最低地上高 (mm)	365		
機体質量(重量)[施肥機付] (kg)	472[534]		
エンジン	型式名	MZ360	
	種類	空冷4サイクルOHVガソリン	
	総排気量 (L{cc})	0.357{357}	
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)	7.1{9.7}/3600(最大8.8{12.0})	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	10.0	
	始動方式	セルスタータ方式	
走行部	駆動方式	四輪駆動	
	かじ取り方式	アッカーマン方式(パワーステアリング)	
	車輪	前輪	ノーバンクタイヤ(600mm)
		後輪	ゴム両ラグタイヤ(850mm)
	輪距 (mm)	前輪:1180・後輪:1200	
	軸距 (mm)	1050	
	変速段数 (段)	前進2・後進1(HMT無段変速)	
植付部	植付方式	ロータリー式	
	植付条数 (条)	6	
	植付条間 (cm)	30	
	植付株間(スリップ率5%) (cm)	30・26・22・18・16・13	
	植付株数(スリップ率5%) (株/3.3m ²)	37・43・50・60・70・85	
	植付深さ (cm)	1.5~6.0(7段階)	
	1株本数調節量	横送り (mm/回数)	11/26・14/20
縦かき取量 (mm)		8~17	
苗の条件	苗の種類	マット苗	
	葉令・草丈	稚苗:2.0~2.5葉 10~15cm・中苗:2.5~4.0葉 15~25cm	
	苗マット寸法(縦×横×厚さ) (cm)	58×28×3	
苗とう載数(予備苗数) (箱)	18(6)		
作業速度(スリップ率5%) (m/s)	0~1.33(スリップ率5%:0~1.26)		
作業能率(計算値)[施肥機付] (分/10a)	12[14]		
安全鑑定番号	受検予定		
警報装置	苗つぎ警報 肥料補給警報(粒状施肥機付の場合) 肥料詰り警報(粒状施肥機付の場合)		

※植付株間・植付株数の数値は、スリップ率で変化しますので、目安としてください。

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※仕様によっては、記載されている数値が異なる場合があります。

2. 主要消耗部品

RJ4

No	名称(カナ)	コード	個数	備考
1	Vベルト SB45 W800	1C7200-11100	1	メインベルト
2	アクセルワイヤー A	1C7200-48050	1	
3	アクセルワイヤー B	1C7200-48101	1	
4	チョークワイヤー	1C7200-48152	1	
5	変速ワイヤー	1C7200-49170	1	
6	テフロックワイヤー	1C7200-46100	1	
7	ユニットクラッチワイヤー 4A	1C7200-53501	1	
8	ユニットクラッチワイヤー 4B	1C7200-53511	1	
9	縦送りクラッチワイヤー 4A	1C7200-53552	1	
10	縦送りクラッチワイヤー 4B	1C7200-53561	1	
11	植付操作ワイヤー	1C7200-52180	1	
12	オートリターンワイヤー 4	1C7200-55700	1	
13	車速運動ワイヤー	1C7200-56200	1	
14	マーカ解除ワイヤー 4L	1C7200-57251	1	
15	マーカ解除ワイヤー 4R	1C7200-57261	1	
16	マーカワイヤー 4L	1C7200-92651	1	
17	マーカワイヤー 4R	1C7200-92661	1	
18	縦送り運動ワイヤー 4	1C7200-83400	1	
19	センサワイヤー	1C7200-74800	1	油圧感度部
20	シール TCFY304785	1C6780-22450	2	フロント車軸
21	TCFY 35×62×12.5	1C6780-23130	2	リア車軸
22	シール TC12205	1C6560-63220	1	植付センターケース
23	シール TC204708	24421-204708	1	植付センターケース
24	シール TC254208	24421-254208	2	植付センターケース
25	シール TC153007	24421-153007	2	植付センターケース
26	シール TC102005	1C7020-44660	1	植付ベベルケース
27	シール TC173507	24421-173507	1	植付ベベルケース
28	シール TC254708	24421-254708	1	植付ベベルケース
29	シール TC153207	24421-153207	1	横送り軸
30	オイルシール T	1C7200-66440	4	ロータアーム
31	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	縦送りカム
32	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	横送り軸
33	エレメント(ろ紙)	165001-71240	1	エアクリーナ
34	エレメント(スポンジ)	165001-71250	1	エアクリーナ
35	燃料コック(フィルタ)	160659-55301	1	
36	エンジン防振ゴム	1C6720-01100	4	
37	バッテリー 40B19L	1A6750-51490	1	
38	モータドライブユニット	1C7200-07550	1	変速モータ
39	DCモータ34(7T)	1C7121-08501	1	変速モータ
40	スイッチ(レバー59)	1C7200-07650	1	速度操作

No	名称(カナ)	コード	個数	備考
41	植付爪(T13)	1C720C-66620	8	植付アーム
42	植付アーム L 仕組	1C720C-66501	4	
43	植付アーム R 仕組	1C720C-66551	4	
44	ロッドスクレーパ 8	1C6560-66900	8	植付アーム
45	ロッドパッキン	1C7102-66920	8	植付アーム
46	ロータアーム L 仕組	1C731C-66000	2	
47	ロータアーム R 仕組	1C731C-66080	2	
48	ツバ付きブッシュ15×20	1E8450-26070	2	植付ヒッチ
49	苗台支持シュー	1C7101-86100	2	苗のせ台
50	規制シュー	1C6650-85402	2	ガイドレール
51	苗受け板シュー	1C6557-44102	4	苗のせ台
52	ガイドレール 4	1C7200-85161	1	ガイドレール
53	ロングガイド	1C7200-85180	4	ガイドレール
54	ロングガイド FP	1C7200-85171	4	ガイドレール
55	スベリコ	1C7100-63311	1	送りねじ
56	送りネジ 13	1C7200-63350	1	送りねじ
57	センターフロートステー	1C7200-73100	1	センターフロート
58	センターフロート支え金(アト)	1C7200-73080	1	センターフロート
59	サイドフロート支え金 4	1C720C-73250	4	サイドフロート
60	補正アーム	1C720C-74750	1	油圧感度部
61	センサリンク	1C720C-74800	1	油圧感度部
62	センシングアーム	1C7200-74900	1	油圧感度部
63	ツメクラッチA	1C726C-83590	1	縦送り軸
64	ツメクラッチA	1C726C-83600	2	縦送り軸
65	ツメクラッチB	1C726C-83610	3	縦送り軸
66	縦送り軸受け	1C726C-83650	6	縦送り軸
67	ピン 4×23	1C7161-63460	1	縦送りカム
68	ピン 4×23	1C7161-63460	1	横送り軸
69	平頭ピン 8×70	22487-080700	1	センターフロート
70	平頭ピン 8×16	22487-080160	2	サイドフロート
71	平頭ピン 8×45	22487-080450	2	サイドフロート
72	平頭ピン 8×50	22487-080500	1	油圧感度部
73	ドライブッシュ 20×25	24550-020250	2	横送り軸
74	ドライブッシュ 15×25	24550-015250	2	ロアリンク
75	ドライブッシュ 20×15	24550-020150	4	サイドクラッチ操作部
76	送りねじブーツ	1C7170-63330	2	送りねじ
77	ゴムカバー	1C7190-27060	1	植付伝動軸
78	ブーツ	1C7121-27431	1	植付伝動軸

※この主要消耗部品は、予告なく変更することがあります。ご注文される際は、お近くの特販店またはJAにご相談ください。

RJ5

No	名称(カナ)	コード	個数	備考
1	Vベルト SB45 W800	1C7200-11100	1	メインベルト
2	アクセルワイヤー A	1C7200-48050	1	
3	アクセルワイヤー B	1C7200-48101	1	
4	チョークワイヤー	1C7200-48152	1	
5	テフロックワイヤー	1C7200-46100	1	
6	ユニットクラッチワイヤー 5A	1C7210-53502	1	
7	ユニットクラッチワイヤー 5B	1C7210-53512	1	
8	ユニットクラッチワイヤー 5C	1C7210-53521	1	
9	縦送りクラッチワイヤー 5A	1C7210-53552	1	
10	縦送りクラッチワイヤー 5B	1C7210-53561	1	
11	縦送りクラッチワイヤー 5C	1C7210-53571	1	
12	植付操作ワイヤー	1C7200-52180	1	
13	オートリターンワイヤー 56	1C7210-55700	1	
14	車速連動ワイヤー	1C7200-56200	1	
15	マーカ解除ワイヤー 5L	1C7210-57251	1	
16	マーカ解除ワイヤー 5R	1C7210-57261	1	
17	マーカワイヤー 5L	1C7210-92650	1	
18	マーカワイヤー 5R	1C7210-92660	1	
19	縦送り連動ワイヤー 5	1C7210-83401	1	
20	センサワイヤー	1C7200-74851	1	油圧感度部
21	シール TCFY304785	1C6780-22450	2	フロント車軸
22	TCFY 35×62×12.5	1C6780-23130	2	リア車軸
23	シール TC12205	1C6560-63220	1	植付センターケース
24	シール TC204708	24421-204708	1	植付センターケース
25	シール TC254208	24421-254208	2	植付センターケース
26	シール TC153007	24421-153007	2	植付センターケース
27	シール TC102005	1C7020-44660	1	植付ベベルケース
28	シール TC173507	24421-173507	1	植付ベベルケース
29	シール TC254708	24421-254708	1	植付ベベルケース
30	シール TC153207	24421-153207	1	横送り軸
31	オイルシール T	1C7200-66440	5	ロータアーム
32	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	縦送りカム
33	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	横送り軸
34	エレメント(ろ紙)	165001-71240	1	エアクリーナ
35	エレメント(スポンジ)	165001-71250	1	エアクリーナ
36	燃料コック(フィルタ)	160659-55301	1	
37	エンジン防振ゴム	1C6720-01100	4	
38	バッテリー 40B19L	1A6750-51490	1	
39	モータドライブユニット	1C7200-07550	1	変速モータ
40	DCモータ34(7T)	1C7121-08501	1	変速モータ
41	スイッチ(レバ-59)	1C7200-07650	1	速度操作

No	名称(カナ)	コード	個数	備考
42	植付爪(T13)	1C720C-66620	10	植付アーム
43	植付アーム L 仕組	1C720C-66501	5	
44	植付アーム R 仕組	1C720C-66551	5	
45	ロッドスクレーパ 8	1C6560-66900	10	植付アーム
46	ロッドパッキン	1C7102-66920	10	植付アーム
47	ロータアーム L 仕組	1C731C-66000	3	
48	ロータアーム R 仕組	1C731C-66080	2	
49	ツバ付きブッシュ15×20	1E8450-26070	2	植付ヒッチ
50	苗台支持シュー	1C7101-86100	2	苗のせ台
51	規制シュー	1C6650-85402	2	ガイドレール
52	苗受け板シュー	1C6557-44102	4	苗のせ台
53	ガイドレール 5	1C7210-85160	1	ガイドレール
54	ロングガイド	1C7200-85180	5	ガイドレール
55	ロングガイド FP	1C7200-85171	5	ガイドレール
56	スベリコ	1C7100-63311	1	送りねじ
57	送りネジ 13	1C7200-63350	1	送りねじ
58	センターフロートステー	1C7200-73100	1	センターフロート
59	センターフロート支え金(アト)	1C7210-73080	2	センターフロート
60	サイドフロート支え金	1C7210-73250	2	サイドフロート
61	支えピン	1C6901-73201	2	サイドフロート
62	補正アーム	1C720C-74750	1	油圧感度部
63	センサリンク	1C720C-74800	1	油圧感度部
64	センシングアーム	1C7200-74900	1	油圧感度部
65	フロートバネ	1C6720-73330	2	サイドフロート
66	ツメクラッチA	1C726C-83590	2	縦送り軸
67	ツメクラッチA	1C726C-83600	2	縦送り軸
68	ツメクラッチB	1C726C-83610	4	縦送り軸
69	縦送り軸受け	1C726C-83650	8	縦送り軸
70	ピン 4×23	1C7161-63460	1	縦送りカム
71	ピン 4×23	1C7161-63460	1	横送り軸
72	平頭ピン 8×70	22487-080700	2	センターフロート
73	平頭ピン 8×50	22487-080500	1	油圧感度部
74	ドライブブッシュ 20×25	24550-020250	2	横送り軸
75	ドライブブッシュ 15×25	24550-015250	2	ロアリンク
76	ドライブブッシュ 20×15	24550-020150	4	サイドクラッチ操作部
77	送りねじブーツ	1C7170-63330	2	送りねじ
78	ゴムカバー	1C7190-27060	1	植付伝動軸
79	ブーツ	1C7121-27431	1	植付伝動軸

※この主要消耗部品は、予告なく変更することがあります。ご注文される際は、お近くの特販店またはJAにご相談ください。

RJ6

No	名称(カナ)	コード	個数	備考
1	Vベルト SB45 W800	1C7200-11100	1	メインベルト
2	アクセルワイヤー A	1C7200-48050	1	
3	アクセルワイヤー B	1C7200-48101	1	
4	チョークワイヤー	1C7200-48152	1	
5	テフロックワイヤー	1C7200-46100	1	
6	ユニットクラッチワイヤー 6A	1C7220-53501	1	
7	ユニットクラッチワイヤー 6B	1C7220-53511	1	
8	ユニットクラッチワイヤー 6C	1C7220-53520	1	
9	縦送りクラッチワイヤー 6A	1C7220-53551	1	
10	縦送りクラッチワイヤー 6B	1C7220-53561	1	
11	縦送りクラッチワイヤー 6C	1C7220-53571	1	
12	植付操作ワイヤー	1C7200-52180	1	
13	オートリターンワイヤー 56	1C7210-55700	1	
14	車速連動ワイヤー	1C7200-56200	1	
15	マーカ解除ワイヤー 6L	1C7220-57251	1	
16	マーカ解除ワイヤー 6R	1C7220-57261	1	
17	マーカワイヤー 6L	1C7220-92650	1	
18	マーカワイヤー 6R	1C7220-92660	1	
19	縦送り連動ワイヤー 6	1C7220-83400	1	
20	センサワイヤー	1C7200-74851	1	油圧感度部
21	シール TCFY304785	1C6780-22450	2	フロント車軸
22	TCFY 35×62×12.5	1C6780-23130	2	リア車軸
23	シール TC12205	1C6560-63220	1	植付センターケース
24	シール TC204708	24421-204708	1	植付センターケース
25	シール TC254208	24421-254208	2	植付センターケース
26	シール TC153007	24421-153007	2	植付センターケース
27	シール TC102005	1C7020-44660	1	植付ベベルケース
28	シール TC173507	24421-173507	1	植付ベベルケース
29	シール TC254708	24421-254708	1	植付ベベルケース
30	シール TC153207	24421-153207	1	横送り軸
31	オイルシール T	1C7200-66440	6	ロータアーム
32	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	縦送りカム
33	ベアリング 6002UU	24104-060024	1	横送り軸
34	エレメント(ろ紙)	165001-71240	1	エアクリーナ
35	エレメント(スポンジ)	165001-71250	1	エアクリーナ
36	燃料コック(フィルタ)	160659-55301	1	
37	エンジン防振ゴム	1C6720-01100	4	
38	バッテリー 40B19L	1A6750-51490	1	
39	モータドライブユニット	1C7200-07550	1	変速モータ
40	DCモータ34(7T)	1C7121-08501	1	変速モータ
41	スイッチ(レバ-59)	1C7200-07650	1	速度操作
42	植付爪(T13)	1C720C-66620	12	植付アーム
43	植付アーム L 仕組	1C720C-66501	6	
44	植付アーム R 仕組	1C720C-66551	6	
45	ロッドスクレーパ 8	1C6560-66900	12	植付アーム
46	ロッドパッキン	1C7102-66920	12	植付アーム
47	ロータアーム L 仕組	1C731C-66000	3	
48	ロータアーム R 仕組	1C731C-66080	3	
49	ツバ付きブッシュ15×20	1E8450-26070	2	植付ヒッチ
50	苗台支持シュー	1C7101-86100	2	苗のせ台
51	規制シュー	1C6650-85402	2	ガイドレール
52	苗受け板シュー	1C6557-44102	4	苗のせ台
53	ガイドレール 6	1C7220-85160	1	ガイドレール
54	ロングガイド	1C7200-85180	5	ガイドレール
55	ロングガイド FP	1C7200-85171	5	ガイドレール
56	スベリコ	1C7100-63311	1	送りねじ
57	送りネジ 13	1C7200-63350	1	送りねじ
58	センターフロートステー	1C7200-73100	1	センターフロート
59	センターフロート支え金(アト)	1C7200-73080	1	センターフロート
60	サイドフロート支え金	1C7210-73250	2	サイドフロート
61	支えピン	1C6901-73201	2	サイドフロート
62	補正アーム	1C720C-74750	1	油圧感度部
63	センサリンク	1C720C-74800	1	油圧感度部
64	センシングアーム	1C7200-74900	1	油圧感度部
65	フロートバネ	1C6720-73330	2	サイドフロート
66	ツメクラッチA	1C726C-83590	1	縦送り軸
67	ツメクラッチA	1C726C-83600	2	縦送り軸
68	ツメクラッチB	1C726C-83610	3	縦送り軸
69	縦送り軸受け	1C726C-83650	6	縦送り軸
70	ピン 4×23	1C7161-63460	1	縦送りカム
71	ピン 4×23	1C7161-63460	1	横送り軸
72	平頭ピン 8×70	22487-080700	1	センターフロート
73	平頭ピン 8×50	22487-080500	1	油圧感度部
74	ドライブブッシュ 20×25	24550-020250	2	横送り軸
75	ドライブブッシュ 15×25	24550-015250	2	ロアリンク
76	ドライブブッシュ 20×15	24550-020150	4	サイドクラッチ操作部
77	送りねじブーツ	1C7170-63330	2	送りねじ
78	ゴムカバー	1C7190-27060	1	植付伝動軸
79	ブーツ	1C7121-27431	1	植付伝動軸

※この主要消耗部品は、予告なく変更することがあります。ご注文される際は、お近くの特販店またはJAにご相談ください。

3. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

下記の表は、主要消耗部品の点検・交換時期の目安表です。
作業条件により交換時期が異なりますので、注意してください。

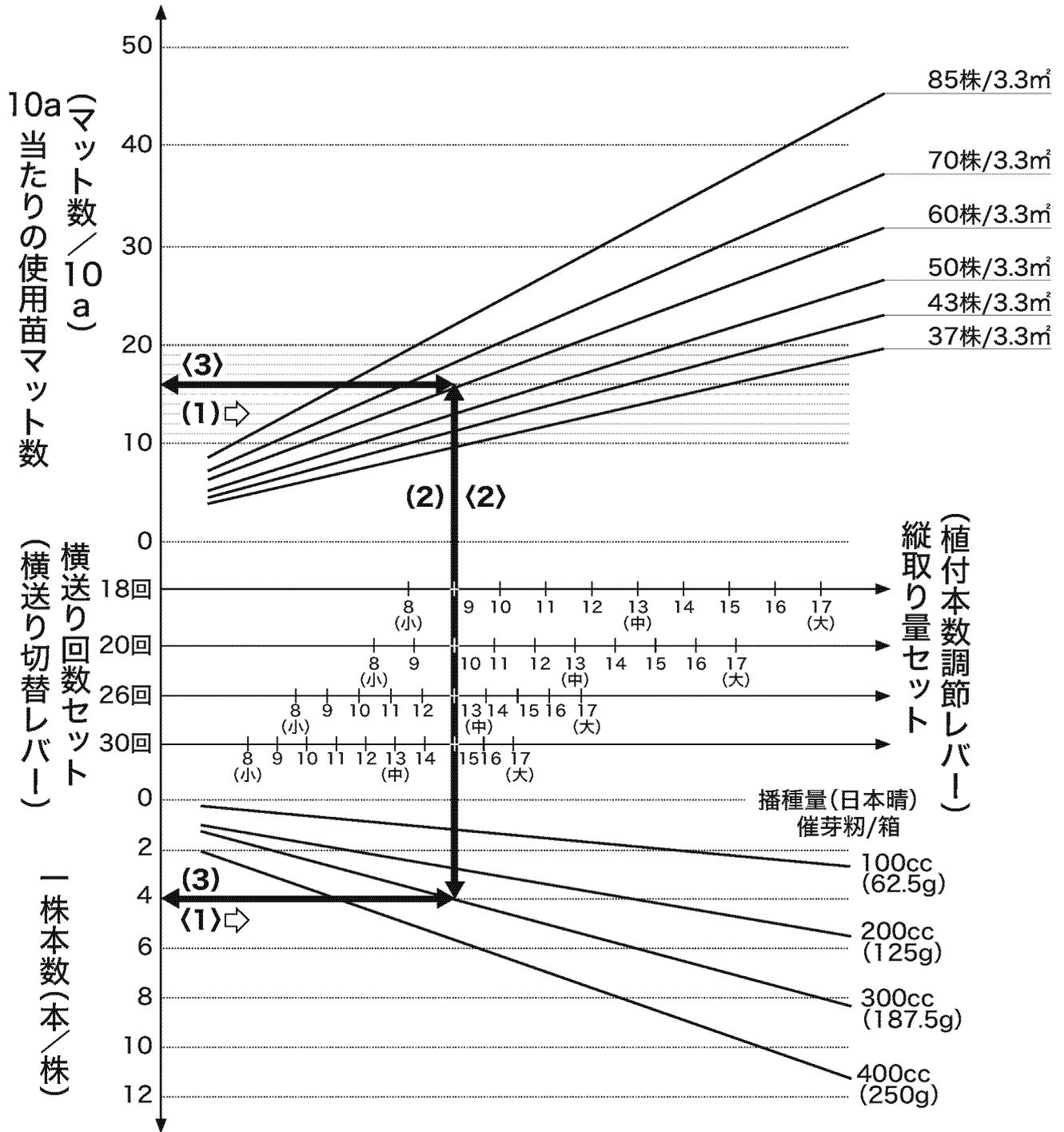
○:点検・掃除・注油 ▲:交換

No	点検箇所	作業時間 (時間)														点検・交換時期	
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	点検・掃除・注油	交換		
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年				
1 2 3 4 5 6 7 エンジン	エンジンオイル	▲ (20)	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲					作業前点検	初回20hr 2回目以降100hr	
	エアクリーナー(エレメント)	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○				50hr掃除	400hr	
	燃料コック(フィルタ)											○	○		作業前点検		
	燃料コック(カップ)											○	○		1シーズンごと掃除		
	点火プラグ				○					○					200hr点検・掃除		
	防振ゴム										○				500hr点検		
	バッテリー											○	○		作業前点検・必要都度充電		
8 9 10 11 12 ミッション	ミッションオイル	▲						▲				○	○	1年点検	初回50hr 2回目以降300hr		
	ミッションオイルフィルタ	▲						▲				○	○	1年および交換時点検(オイルもれ)	初回50hr 2回目以降300hr		
	油圧ポンプ											○	○	1年点検(オイルもれ)			
	エンジンブリー・入カブリー				○					○				作業前後掃除、200hr点検			
	Vベルト											▲		作業前後点検・掃除	500hr		
13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 走行	リアアクスルオイル		▲						▲			○	○	1年点検	初回100hr 2回目以降300hr		
	モータドライブユニット										▲	○	○	1年点検(モータ作動)	500hr		
	DCモータ34(7T)										▲	○	○	1年点検(モータ作動)	500hr		
	スイッチ(レバー59)										▲	○	○	1年点検(モータ作動)	500hr		
	ブレーキディスク											○	○	1年点検(ブレーキ作動)			
	前輪車軸・後輪車軸											○	○	作業前後点検(オイルもれ)・掃除			
	前輪タイヤ・後輪タイヤ											○	○	作業前後点検	傷、摩耗時交換		
	油圧感度調節ワイヤー	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○				50hr注油	200hr	
	植付条止めクラッチワイヤー	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○				50hr注油	200hr	
縦送りクラッチワイヤー	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○				50hr注油	200hr		
23 24 25 26 27 操作	ブレーキペダル				○				○					200hrグリス			
	デフロックペダル				○				○					200hrグリス			
	速度操作スイッチ										▲	○	○	作動確認	500hr		
	各レバー回動およびしゅう動部	○		○		○		○		○					100hr注油		
28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 植付	ロータ駆動ベベルケース											○	○	1年点検(グリスもれ)			
	植付アーム・植付爪	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hrまたは1年点検・掃除・グリス	摩耗时	
	ロッドスクレーパ・ロッドパッキン(植付アーム)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hrまたは1年点検	摩耗时	
	ロータアーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hrまたは1年点検・掃除・グリス	異常時	
	苗台支持シュー・苗受け板シュー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hrグリス	摩耗时	
	規制シュー		○	○	○	○	○	○	○	○	○				100hrグリス	摩耗时	
	ロングガイド		○	○	○	○	○	○	○	○					100hr点検・掃除	摩耗时	
	ガイドレール(苗取出板)		○	○	○	○	○	○	○	○					100hr点検・掃除	摩耗时	
	送りねじ		○	○	○	○	○	○	○	○	▲				100hrグリス	500hr	
	スベリコ		○	○	○	○	○	○	○	○	▲				100hr点検	500hr	
	フロートステー(支え金具)		○	○	○	▲	○	○	○	○					作業後掃除、100hrグリス	300hr	
	フロートセンサリンク		○	○	○	▲	○	○	○	○					作業後掃除、100hrグリス	300hr	
	サイドフロートパネ(5・6条)											○	○		1年点検	破損時	
	植付横軸				○					○					200hr摩耗・異常点検		
縦送りカム				○					○					200hr点検・グリス			
ツメクラッチ・縦送り軸受け(縦送り軸)		○		▲	○			▲	○					100hr点検	200hr		
44 45 46 47 その他	電気配線	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間または1年点検(被覆はがれ・接点ゆるみ)	異常時交換	
	駆動軸・ケース類のシール												▲		作業前後点検・掃除	500hr	
	その他 操作ワイヤー		○		○		○		○		▲				作業前後または100hr点検・注油	500hr	
	燃料パイプ および 接合部											○	▲		作業前後・1年点検	2年(パイプ)	
	油圧ホース および 接合部											○	▲		作業前後・1年点検	2年(ホース)	

4. その他の販売品

No.	アタッチメント名称	型式またはコードNo.	RJ4	RJ5	RJ6	備考
1	補助車輪(外側RS車輪)	SRG750,SRNHN	○			
		SRG800R,SRNHN		○	○	
2	補助車輪(内側RS車輪)	SR-U80R,SRNHN			○	
3	補助車輪(外側ゴムラグ車輪)	SRR750,SRNHN	○			
		SRR800R,SRNHN		○	○	
4	前輪幅広ノーパンクタイヤ	KTH60NPW,SRNH			○	
5	針爪	1C7102-66800	8	10	12	必要個数
6	プッシュピース	1C7102-66911	8	10	12	必要個数, 付属品に有
7	バックミラー	7C7200-91300	○	○	○	
8	本機カバー	7C7121-96900	○			
	本機カバー	1E8420-98101		○	○	
9	苗マットキーバ	1C7131-82740	○	○	○	
10	苗ストッパ	7C7102-82000	○	○	○	
11	苗取板	1C6900-96400	○	○	○	
12	棒マーカ	7C7200-99800	○	○	○	
13	ウエイトステー	7C7100-94100	○	○	○	ペースト仕様取付不可
14	フロントウエイト	1TS100-01000	○	○	○	ペースト仕様取付不可
15	すこやかレール	RY-RJ4	○			
		RY-RJ6		○	○	
16	粒状施肥機	FRJ4	○			
		FRJ5		○		
		FRJ6			○	
17	除草剤散布機(粒剤)	PSR402	○			
		PSR502		○		
		PSR602			○	
		JS-1A,VP	○	○	○	
18	除草剤散布機(フロアブル剤)	PLR20	○	○	○	
19	箱施用剤散布機	TS40	○			
		TS50		○		
		TS60			○	

5. 横送り回数・縦取り量のセットのしかた



〈例1〉

播種量300ccで播種した苗を、10a当たり16箱・坪当たり60株で植えたい場合

(1) 10a当たりの使用苗マット数16箱から右に線を引き、60株の線との交点を見つけてください。

(2) その交点から下に線を引き、播種量300ccの線との交点を見つけてください。

(3) その交点から左に線を引くと、1株本数が約4本であることがわかります。

横送り回数・縦取り量のセット位置は、

横送り20回では、縦取り量10mm

横送り26回では、縦取り量13mm

で、1株本数は、約4本になることが確認できます。

〈例2〉

前述の〈例1〉と同じ条件ではあるが、1株本数を約4本で植え付けたいと考えて苗を作られる場合

(1) 1株本数「4本」から右に線を引き、播種量300ccとの交点を見つけてください。

(2) その交点から上に線を引き、60株の線との交点を見つけてください。

(3) その交点から左に線を引くと、10a当たりの使用苗マット数が約16箱であることがわかります。

横送り回数・縦取り量のセット位置は、

横送り20回では縦取り量10mm

横送り26回では、縦取り量13mm

で、苗マット数が約16箱になることが確認できます。

ヤマ-株式会社

〒530-0014 大阪市北区鶴野町1番9号 梅田ゲートタワー
TEL (06)6376-6345 FAX (06)6373-4705

ヤマ-アグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番9号 梅田ゲートタワー
TEL (06)6376-6433 FAX (06)6376-6288

北海道カンパニー

〒067-0051 北海道江別市工栄町10-6
TEL (011)381-2300 FAX (011)381-2330

東日本カンパニー

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8-1
斎喜センタービル 4F
TEL (022)288-8451 FAX (022)288-8452

関東甲信越カンパニー

〒360-0026 埼玉県熊谷市久下字上分1243-1
TEL (048)527-8811 FAX (048)527-8823

中部近畿カンパニー

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番9号
TEL (077)582-9300 FAX (077)582-9299

中四国カンパニー

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地
TEL (086)428-5151 FAX (086)428-5182

九州カンパニー

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2
TEL (0942)53-0333 FAX (0942)53-0350

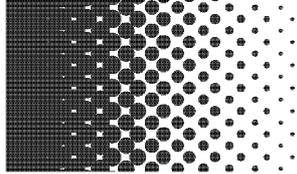
ヤマ-沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番12号
TEL (098)898-3111 FAX (098)898-8082

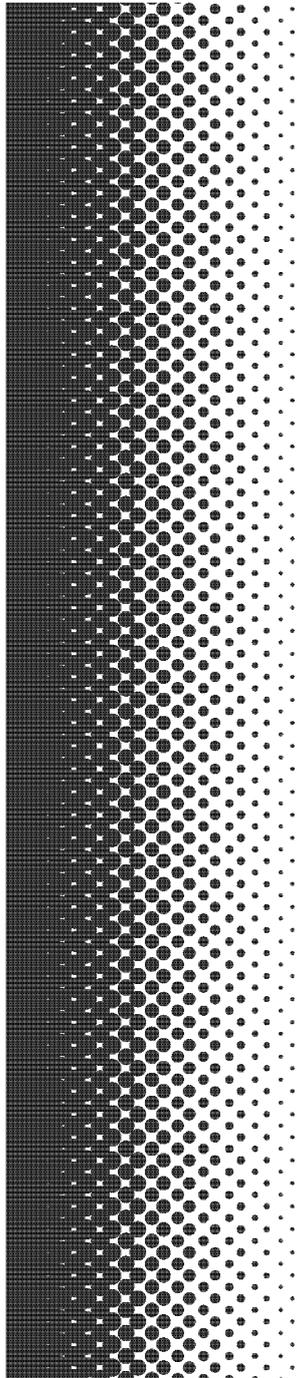
2015年1月1日現在

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				



田
植
機



YANMAR

ヤンマー株式会社
<http://www.yanmar.co.jp>

0A122-J00106
2014.07.15 (YTSK)